

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

## 研究進捗状況報告書の概要

### 1 研究プロジェクト

学校法人名	総持学園	大学名	鶴見大学
研究プロジェクト名	口腔の加齢制御を目指した集学的研究拠点の形成		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

### 2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

口腔は生物としての生命維持に必要な咀嚼や摂食・嚥下という基本的機能を担うとともに、ヒトとしての根源的欲求である会話や味覚などの高次機能にも関与する。このような口腔顎顔面領域の機能は加齢により障害され、その心身の病的変化はさまざまである。口腔乾燥症を主症状とする自己免疫疾患の一つであるシェーグレン症候群や口腔粘膜疾患である再発性アフタ性潰瘍はじめ、心的障害や摂食・嚥下に関わる硬組織や筋組織の加齢変化は老化関連疾患: age-related diseases(ARD)として当該領域の難治性病態として位置付けられており、本研究プロジェクトでは本学に蓄積した病因・病態解析技術を集学的に駆使すると共に附属病院に集積した膨大な臨床検体を用いて病態解明から臨床研究への橋渡し研究を行うことを目的とし、基礎研究で得られた成果を臨床応用可能な知見にまで到達させるトランスレーショナルリサーチを実施する。このような取り組みは超高齢社会において極めて重要な検討課題であり、これらの病態解明や治療法を確立することの社会的意義は極めて大きい。

研究計画の概要: 初年度は口腔顎顔面領域における加齢に伴う病因・病態解明と効果的治療法確立のための研究試料・医療情報の分析と、これにより5年計画の将来にわたって展開されるさまざまな研究のための試料の安定的確保を目指した。平成28年度には既存の臨床検体や収集した検体の病因・病態解析を各領域の研究者により実施した。すなわち次世代型の最先端の科学技術を当該研究に駆使し、先進的な解析により口腔における加齢現象の実態の把握を行った。平成29年度には前年度に得られた成果を基に病因並びに病態を再現したさまざまな病態モデルにより診断法ならびに治療法の検討を行い、平成30年度にはこの領域から提案された口腔老化病態モデルを用いた病変の修復機構の検討を行い検証する。平成31年度にはこれまでの成果の集大成としてヒトへの応用を検討した臨床応用の具現化について検証する。

### 3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

本事業は順調に進行しており、口腔顎顔面領域における加齢に伴う病因・病態解明と効果的治療法確立を目指している。本報告書の中の各研究分担者の進捗状況にあるように、それぞれが着実に研究成果を積み上げることができている。次世代型の最先端の科学技術を当該研究に駆使し、先進的な解析により口腔における加齢現象の実態の把握を行うことが本研究プロジェクトを企画した際の最大の目標の一つであったので、それができたことに対して一定の達成感があり、同時に、今後残された2年間の研究期間に本研究プロジェクトを更に発展させる為の大きな土台ができたと感じている。



法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

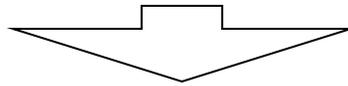
佐藤秋絵	歯学部・准教授	長寿関連遺伝子の基礎的研究	病因の解明
(共同研究機関等) 中村誠司	九州大学大学院歯学研究員・教授	難治性唾液腺障害の解析	治療法の開発
豊福明	東京医科歯科大学医歯学総合研究科・教授	歯科心身症の解析	病態の解明

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
硬組織の病態解析	歯学部・准教授	山越康雄	病態機序の解明

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



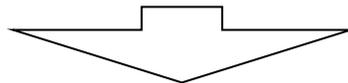
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
歯学部・准教授	歯学部・教授	山越康雄	病態機序の解明

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
生体成分の微量元素分析	歯学部・講師	山田浩之	治療法の開発

(変更の時期:平成 27 年 11 月 30 日に退職)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

<p><b>研究目的・意義</b></p> <p>口腔は生物としての生命維持に必要な咀嚼や摂食・嚥下という基本的機能を担うとともに、ヒトとしての根源的欲求である会話や味覚などの高次機能にも関与する。このような口腔顎顔面領域の機能は加齢により障害され、その心身の病的変化はさまざまである。口腔乾燥症を主症状とする自己免疫疾患の一つであるシェーグレン症候群や口腔粘膜疾患である再発性アフタ性潰瘍はじめ、心的障害や摂食・嚥下に関わる硬組織や筋組織の加齢変化は老化関連疾患: age-related diseases(ARD)として当該領域の難治性病態として位置付けられており、本研究プロジェクトでは本学に蓄積した病因・病態解析技術を集学的に駆使すると共に附属病院に集積した膨大な臨床検体を用いて病態解明から臨床研究への橋渡し研究を行うことを目的とし、基礎研究で得られた成果を臨床応用可能な知見にまで到達させるトランスレー</p>
---

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

ショナルリサーチを実施する。このような取り組みは超高齢社会において極めて重要な検討課題であり、これらの病態解明や治療法を確立することの社会的意義は極めて大きい。

#### 研究計画の概要

初年度は口腔顎顔面領域における加齢に伴う病因・病態解明と効果的治療法確立のための研究試料・医療情報の分析と、これにより5年計画の将来にわたって展開されるさまざまな研究のための試料の安定的確保を目指した。次年度(平成28年度)には既存の臨床検体や収集した検体の病因・病態解析を各領域の研究者により実施した。すなわち次世代型の最先端の科学技術を当該研究に駆使し、先進的な解析により口腔における加齢現象の実態の把握を行った。平成29年度には前年度に得られた成果を基に病因並びに病態を再現したさまざまな病態モデルにより診断法ならびに治療法の検討を行い、平成30年度にはこの領域から提案された口腔老化病態モデルを用いた病変の修復機構の検討を行い検証する。平成31年度にはこれまでの成果の集大成としてヒトへの応用を検討した臨床応用の具現化について検証する。

#### (2) 研究組織

本事業では齋藤一郎研究代表による研究統括のもと、上記10に記載した役割分担の通り、鶴見大学歯学部基礎・臨床歯科医学研究者の中から、「難治性口腔疾患や顎機能障害の病因・病態解析」「加齢変化における後組織の解析や診断法ならびに治療法の臨床応用」「加齢による防御的な生体変化の解析と関連する薬剤開発」を得意とする研究者14名をコアメンバーとしている。これに、難治性唾液腺障害の中村誠司教授(九州大学)と歯科心身症の解析の豊福明教授(東京医科歯科大学)の2名が学外研究者として参加することで、研究基盤形成の促進を図っている。また、定期的に研究成果報告会を開催し互いの研究課題の研究状況を討議することで研究者間の有機的な連携を深めている。本事業では教員14名、大学院生9名の若手研究者が口腔加齢制御研究センターにおいて、本事業に関連する研究を推進している。外部評価は関連領域の外部有識者である慶應大学医学部の坪田一男教授、東京大学医学部の水島昇教授、広島大学歯学部の高田隆教授に委嘱し、プロジェクトの効率的な遂行を図っている。

鶴見大学からの研究支援体制は整っており、文部科学省からの援助に見合う資金的援助も受けている。さらに、学外研究者とは有機的に本事業を推進する体制となっている。

#### (3) 研究施設・設備等

当該拠点は鶴見大学歯学部2号館ならびに3号館に設置されており、口腔加齢制御研究センターを中心に研究施設の充実を図っている。すなわち総面積で2号館318m<sup>2</sup>、動物舎(2号館)36m<sup>2</sup>、3号館ハイテクリサーチセンター304m<sup>2</sup>で常時28名の研究者が従事している。本研究のために平成27年度以降に設置された主な研究装置とその利用時間は以下の通りであり。タンパク質画像解析装置(7時間/月)、ラボ用オートクレーブ(19.5時間/月)、マイクロ冷却遠心機(8時間/月)、GPSタイムコードジェネレータ(8時間/月)、パナソニックCO<sub>2</sub>インキュベーター(常時稼働)、リトラーム(6~7時間/月)

#### (4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び\*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

<現在までの進捗状況及び達成度>

1)齋藤と梁らは重度な唾液腺傷害を生じる遺伝子改変モデルマウスの解析を行い(\*1)、ヒト検体を用いたSNPs解析により患者特異的な変異を解析しており、これに関連したエストロゲンの関与(\*2)や糖尿病における腺組織障害の機序の解明(\*3)が期待される。2)早川らはDNA/プロタミン複合体のペーストの流動性、操作性や保存安定性を検討し、動物埋入実験によりDNAペーストの骨形成能を計画している。また、臨床応用を目指して、DNAペーストの骨形成を比較するために、アパタイトペーストを用いた骨形成実験を行った(\*4)。3)朝田と船山らは12週齢♂のmi/miおよび野生型(WT)マウ

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

スをそれぞれコントロール群とCB群にわけて、コントロール群にはPBSを、CB群にはCBを3週間腹腔内投与した。それぞれのマウスから咬筋(速筋)、前脛骨筋(速筋)、ヒラメ筋(遅筋)、心筋を採取し、各群のマウスの体重、筋重量、脛骨長に対する筋重量の比(筋重量/TL)、各筋の筋線維横断面積、および線維化の割合について測定した。組織学的解析についてはほぼ終了している(\*5)。4) 二藤らは靭帯・腱細胞の分化制御メカニズム解明のため *in vitro* 靭帯・腱細胞の単離法を確立し、その機能・分化メカニズムを解析し遺伝子改変マウスについても新しい知見が得られたことから今後が期待される。5) 小川らは咀嚼運動計測器(試作器)の性能評価も終了し咀嚼能力評価の定量的解析法のデータ処理方法については完成したことから顎運動情報と歯列・顎顔面形態情報の統合方法について考案した。6) 濱田と山田らは「顎骨再建術が生活の質に与える影響に関する検討」を通して、顎骨再建を施行した患者の満足度が高いことが確認され論文等にて報告した(\*6)。現在も48各種データを蓄積中であり、精神状態やQOLに及ぼす影響を検討している。また「顎矯正手術患者に対する評価法の確立」においては、口腔顎顔面機能と形態改善が精神状態に及ぼす影響について調べた結果、いくつかの評価項目の有効性が示唆され、学会報告を行った(\*7)。7) 前田らは血液中のさまざまな成分と *Candida* のキャリア率および菌数との相関を検討し *Candida* が炎症や肝機能の低下と関連することを明らかにしている。要介護高齢者を対象に抗真菌薬の含嗽による *Candida* の除菌では口腔や全身状態の改善および介護者の負担の軽減を示唆する結果が得られたことから、*Candida* 除菌が高齢者の全身状態の改善に役立つことが示された(\*8)。8) 下田らは加齢に伴うエナメル質の組成変化について歯髄とセメント質の分離が困難なため分析値を得るに至っていないが、過去3年間で85%程度の研究計画を達成した。9) 奥村らはラットを用いた慢性カテコラミン刺激ならびに不正咬合モデルをマウスで行う実験系を確立し研究が飛躍的に進展した。研究成果は歯科基礎医学会あるいは日本生理学会にて学会発表を行い、国際誌に発表または論文投稿準備中である。10) 花田らは施設に入居する276名の要介護度、歯の健康状態、可撤性有床義歯の状態、食事形態を調査し要介護3、4、5の高齢者は、上下の歯の接触部位数と食事形態の関連を明らかにし順調に研究が推移している。11) 山越らはブタ歯牙を実験モデルとして、これまでに象牙質中の主要非コラーゲン性タンパク質である象牙質シアロリタンパク(DSPP)を構成する2つのドメインタンパクである象牙質シアロタンパク(DSP)および象牙質リタンパク(DPP)、さらに生理活性物質であるトランスフォーミング成長因子ベータ(TGF- $\beta$ )を分離精製し、加齢に伴うそれらの動態変化に関する所見が得られている(\*9)。12) 佐藤らはグリチルリチンの薬理作用として、オートファジー関連遺伝子の発現を亢進させる効果があることを発見した。13) 中村らは口腔カンジダ症の真菌叢の解析が進んでおり達成度は80%であることから期待される。14) 豊福らは高齢者に多発する口腔セネストパチーを検討し、疫学的データベースの構築や脳画像研究などをほぼ順調に進めている(\*10)。生物学的指標の探索は容易ではないが、いくつかの萌芽的な知見が得られている(\*11)。また三叉神経領域の異所性疼痛に関する動物実験も着実に進み(\*12)その成果が期待される。

#### <特に優れた研究成果>

- DNA水溶液にプロタミンを添加して、その場でペースト化する方法およびゼラチン水溶液にDNAを添加してペースト化する方法を用いることによって、操作性の良好なDNAペーストを作製することができた。また、DNAの骨形成能について水晶発振子マイクロバランス法を用いた測定によって確認した(\*13)。
- WTマウスでは、CB投与により、咬筋、前脛骨筋、心筋の筋重量/TLが有意に増加したのに対し、対照群のmi/miマウスでは有意な増加は認められなかった。筋線維横断面積は、WTではCB投与により咬筋、前脛骨筋では肥大効果が確認されたが、mi/miでは有意な増加は確認されなかった。一方、ヒラメ筋に対するCBの筋肥大効果はWT、mi/miともに認められなかった。以上の結果より、*mitf* は心筋同様に、速筋型骨格筋においても $\beta$ -ARを介した筋肥大に重要な役割を果たすことが示唆された(\*14)。
- マウス組織からの靭帯・腱細胞の単離を試み、純度の高い靭帯・腱細胞の単離法の確立に成功した。それらを用いた、網羅的遺伝子発現解析も開始した。靭帯・腱細胞を用いた *in vitro* での分化・機能解析により、ヒストンH3のメチル化酵素(H3K9MTase)であるG9aが腱細胞の増殖と分化に必須であることを見いだした(\*15)。さらに *in vivo* で靭帯・腱から骨への接合部にAnxa5が特異的に発現することを見だし、その機能解析を行っている(\*16)。

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- ・ 咀嚼機能の維持が加齢制御に及ぼす影響について検討するための摂食・咀嚼・嚥下機能記録解析システムの開発を行っている(\*17)。システム化に必須の顎運動測定技術(顎運動測定器)と形態計測技術およびこれらの情報の重ね合わせ技術については完成できた(\*18)。食塊粒度解析法を用いた咀嚼能率の測定を行い、咀嚼能率の基礎データとその解析手法について検討した(\*19)。また、咀嚼による補綴装置や残存歯への影響を検討するため、暫間修復や補綴装置に用いる材料との二体摩耗試験を行い、その摩耗特性を明らかとした(学会発表予定)。
- ・ 最初に実施した健常人の血液中のさまざまな成分と *Candida* のキャリア率および菌数との相関を検討した結果(\*20)から *Candida* 菌数と有意な負の相関が見られたのが、安静時唾液量、刺激唾液量、血清アミラーゼ、ヘマトクリット値、DHEA、血小板数、赤血球数、血色素量で、菌数と有意な正の相関が見られたのが AST(GOT)、LDH、CRP 値であった。このことから、*Candida* が炎症の存在や肝機能の低下と関連する可能性が示唆された。また、口腔からの *Candida* の除菌を目的に新規の probiotics の開発を試み、候補菌を絞り込むことに成功した(\*21)。
- ・ 歯質の溶解性(耐酸性)の加齢に伴う変化は、各年齢別に酸による脱灰量の測定を行ったところ、年代間で有意な違いは認められなかった(\*22)。シンクロトロン CT を用いた象牙質の年間無機質増加量は、30 歳までは 2.3%増(年間)、31 歳から 60 歳までは 1.7%増(年間)、61 歳以上では 1.1%増(年間)であることが明らかとなった(\*23)。
- ・ 骨格筋ならびに心筋の肥大形成過程に、 $\beta$ -アドレナリン受容体 (AR) シグナル /Epac1/Akt/mammalian target of rapamycin (mTOR)経路の活性化が重要であり(\*24)、咀嚼筋の萎縮に同経路の不活化が重要(\*25)であることを報告した。
- ・ 上下の歯の接触部位数が多いと要介護 3、4、5 度でも普通食の食事形態を維持できることが明らかになった。続いて、高齢になっても現在歯数を失わない手法として Dental Drug Delivery System (3DS)を開発し、その手法を公表した(\*26)。また、3DS の症例についても国内外の学会で発表した(\*27)。
- ・ ドライマウスの新しい診断方法として、唾液中のサイトカイン濃度を BD™ CBA flex system を用いることにより、少量のサンプルで多くのサイトカインを同時に測定することが可能となった。その結果、SS で炎症性 Th1 および Th2 タイプのサイトカインの唾液中濃度が健常者より有意に高いことが明らかになった (\*28)。また、口腔カンジダ症の原因真菌については、次世代シーケンサーを用いた解析方法を確立し、培養法よりも感度が高く、健常者のわずかな真菌量であっても検知が可能であった(\*29)。
- ・ 口腔セネストパチーの脳機能画像研究にて精神科既往の有無による差異、治療経過に伴う脳血流変化などを明らかにした(\*30)。さらに慢性痛に関する新規薬物療法について報告した(\*31)。また臨床データベースの構築は順調に進み(\*32)、歯科心身症患者の臨床的・疫学的特性について明らかにした(\*33)。三叉神経領域の神経障害性疼痛モデルによる動物実験によって satellite cells が関与する疼痛発症機序の一部を明らかにした(\*34)。
- ・ 唾液中の炎症性・Th1 タイプのサイトカインは炎症性唾液腺疾患(閉塞性唾液腺炎、放射線性唾液腺炎など)でも亢進することが推察されるため、より SS の病態に特異的な分子を同定し、診断能を向上させる必要がある。次年度以降の研究では、SS の口唇腺を用いて DNA マイクロアレイによる網羅的遺伝子解析を行い、発現変動した分子についても、唾液中の濃度を検索する。先行実験ではいくつかの候補分子を特定している(\*35)。

#### <問題点とその克服方法>

本事業において各研究分担者から口腔の加齢変化やその解析方法ならびに対処法に結び付く様々な知見が明らかになっている。しかしながら、これらは多様であり、互いの関連性についての解析は必ずしも進んではない。今後は、定期的な研究報告会において互いの研究成果の関連性についての検討を実施するなどにより、研究者間の連携をより高めることで研究成果を統合し、加齢変化の解析法、予防・治療法の開発に向けて標的を絞った研究を展開する。

#### <研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見通しを含む。)>

1. 加齢に伴う唾液分泌低下の改善方法をロート製薬と産学連携で開発を開始。

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

2. 顎運動測定器の開発研究を株式会社松風と共同で実施中。
3. 抗ヘルペス薬(ビダラビン)が心臓型アデニル酸シクラーゼ(AC5)の選択的抑制作用を有することを明らかにした(\*36)(米国、欧州、国内特許取得済)。
4. 水と練和するだけで流動性に優れたペーストを作製できる手法は、未だ臨床応用されていない。DNA の優れた骨形成に関しては、インプラントを用いた実験によって明らかにすることができた(\*37)。DNA ペーストの骨形成に与える効果のみならず、操作性のさらなる改良を目指して、臨床応用への展開を計り、特許申請を目指す。
5. 本研究では歯の無機質量の定量測定を、化学分析と電子線を応用した分析、さらに X 線を応用した分析を行っている。この中で X 線を用いた歯の分析の観点から 歯科用コーンビーム CT を活用した身元特定に関する基礎的研究へと発展した(\*38)。
6. ドライマウス(SS)の診断については、BD™ CBA flex system を用いることにより、唾液中の検索したい分子をオーダーメイドで選ぶことができ、同時に測定可能である。よって、従来の侵襲を伴う検査(涙腺・口唇腺生検や耳下腺造影検査など)に替わる新しい検査方法になることが期待される。そのためには膨大な臨床データの収集が必要であり、一部は SS の診断基準との比較で報告している(\*39)。
7. 従来の歯科心身症に関する臨床データが非常に乏しかったので、1 つのモデルケースとして全国の他施設でも同様の研究手法を採用したり、構築したデータベースの共同利用の可能性などが拓けてきた。それらの活用によって 未診断・未治療で放置されている患者の福音となる(\*40)。

#### <今後の研究方針>

前年度までの成果と中間評価を踏まえ、基礎研究の更なる展開と、臨床応用に向けた治療法及び予防法の開発研究を加速する。最終年度は、前年度までの本事業の成果を総括し、具体的な歯科医療基盤技術の開発・応用に向けた探索の継続と提言を行う。具体的には、超高齢社会における歯科医療を目指した包括的な老化制御機構を解明することで臨床応用を目的とした研究を展開する。

#### <今後期待される研究成果>

本事業の遂行により、以下の成果が期待される。

1. 難治性の唾液分泌障害のメカニズムが解明され治療法が開発される。
2. DNA/プロタミン複合体のペーストにより骨折の治癒促進効果も期待でき、高齢者で問題になる骨折による寝たきりなどを防ぐことが可能になる。
3. MITF の作動薬が筋の発育不全、筋萎縮に起因する咀嚼機能障害や歩行機能障害に対する新規治療薬として期待される。
4. 靭帯・腱組織から骨への付着部の分子レベルでの新たな制御メカニズムが提供される。
5. 摂咀嚼関連器官の働きを記録解析できるシステムの開発とその臨床応用から加齢制御の要因について明らかにできる。
6. 高齢者口腔機能低下の軽減につながる臨床技術開発が確立される。
7. 抗真菌薬による含嗽を普及させ要介護高齢者の改善と介護者の業務の軽減が図れる。
8. Dental Drug Delivery System (3DS)を用いて歯を残す技術、歯根膜再生を伴う補綴の技術が実用化される。

#### <自己評価の実施結果及び対応状況>

齋藤一郎研究代表の統括のもとで研究成果報告会を毎年開催することで研究の進捗状況を常に検討している。各研究者は年度ごとに研究の進捗と今後の計画を報告し、研究代表が全体の進捗状況と問題点とその対応について討議し、事業計画の改善を図っている。基礎研究では、口腔領域に関連する老化関連分子を見出しており、既に動物モデルを用いて臨床応用を目指した研究を開始した研究もある。また、口腔の種々の組織や臓器に関する加齢制御機構の確立も進展している。臨床研究では、本学歯学部倫理審査委員会にて倫理申請の承認を得たのち研究を開始した。

#### <外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況>

外部評価は坪田一男(慶應大学)、水島昇(東京大学)、高田隆(広島大学)の3名に委嘱し、

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

研究成果報告書における外部評価委員に評価を依頼したところ、中間評価として以下のような講評を得ている。それらの講評を運営会議において討議し、研究者間の連携をより高め、臨床応用を視野に入れて標的を絞った研究を展開することとした。

慶応大学医学部眼科学の坪田一男教授からは、三段階評価(A,B,C 評価)の内、A(優れた研究成果を上げている)評価と、「ドライマウスを中心とした老化と関連する幅広い研究で成果が上がっていると判断します。この様なアプローチは、非常にユニークなものであり、興味深い方向性と思われます。特に糖尿病における唾液分泌障害成立機序の検討は糖尿病患者数の増大を見越して重要なものになると思われます。」という評価を頂き、東京大学大学院医学系研究科医学部分子生物学分野 水島昇教授からは、A(優れた研究成果を上げている)評価と、「口腔の加齢制御に関連して、多分野からのアプローチがなされています。各研究部門からは継続的に成果がでており、それらが頻回な報告会で共有されています。研究成果と拠点としての機能のいずれもが高く評価されます。一般的にも注目度の高い研究テーマであるため、もし公開講演などの取り組みがあれば、最終報告に含めていただけるとよいと思います。」と評価された。広島大学大学院医歯薬学総合研究科創成医科学専攻先進医療開発科学講座の高田 隆教授・副学長からは、A(優れた研究成果を上げている)評価と、「本研究プロジェクトでは加齢に伴う口腔機能の低下を制御するための医療技術を開発することを目的に、基礎研究と臨床研究の連携による集学的なアプローチを実施している。平成 27-29 年度の 3 年間にわたる成果報告会の資料にあるように基礎系研究室と臨床系研究室から加齢にかかわる多くの研究成果が報告され、研究代表者である齋藤教授のもとでよく取りまとめられている。今後、これらの成果が新たな臨床技術の開発につながることを大いに期待したい。」との外部評価を得た。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- |                   |                  |                    |
|-------------------|------------------|--------------------|
| (1) <u>超高齢社会</u>  | (2) <u>加齢変化</u>  | (3) <u>口腔病変</u>    |
| (4) <u>口腔機能</u>   | (5) <u>口腔老化度</u> | (6) <u>老化関連遺伝子</u> |
| (7) <u>口腔異常感症</u> | (8) <u>学際的研究</u> |                    |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付すこと。

#### <雑誌論文>

齋藤一郎、梁洪淵

- Sumida T., Azuma N., Moriyama M., Takahashi H., Asashima H., Honda F., Abe S., Ono Y., Hirota T., Hirata S., Tanaka Y., Shimizu T., Nakamura H., Kawakami A., Sano H., Ogawa Y., Tsubota K., Ryo K., Saito I., Tanaka A., Nakamura S., Takamura E., Tanaka M., Suzuki K., Takeuchi T., Yamakawa N., Mimori T., Ohta A., Nishiyama S., Yoshihara T., Suzuki Y., Kawano M., Tomiita M., Tsuboi H.: Clinical practice guideline for Sjögren's syndrome 2017. *Modern Rheumatology.*, 2018 Feb 7:1-74. doi: 10.1080/14397595.2018.1438093. [Epub ahead of print]
- Nakamura S., Okamoto M.R., Yamamoto K., Tsurumoto A., Yoshiko Y., Iwabuchi H., Saito I., Maeda N., Nakagawa Y.: The Candida species that are important for the development of atrophic glossitis in xerostomia patients. *BMC Oral Health.*, 2017. Dec 16;17(1):153. doi: 10.1186/s12903-017-0449-3.
- (\*1) Saruta J., To M., Sugimoto M., Yamamoto Y., Shimizu T., Nakagawa Y., Inoue H., Saito I., Tsukinoki K.: Salivary Gland derived BDNF Overexpression in Mice Exerts an Anxiolytic Effect. *Int. J. Mol. Sci.* 2017. 18(9), 1902; doi: 10.3390/ijms18091902
- Uehara O., Takimoto K., Morikawa T., Harada F., Takai R., Adhikari B. R., Itatsu R., Namura T., Yoshida K., Matsuoka H., Nagayasu H., Saito I., Muthumala M., Chiba I., Abiko Y.: Unregulated expression of MMP-9 in gingival epithelial cells induced by prolonged stimulation with arecoline. *Oncol. Lett.*, 2017 Jul;14(1):1186-1192. doi:10.3892/ol.2017.6194. Epub 2017 May 17.
- 齋藤一郎: 口腔から考える全身の抗加齢医学, 週刊 医学のあゆみ, 261: 6 638-641, 2017.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

6. Tsuboi H., Hagiwara S., Asashima H., Takahashi H., Harota T., Noma H., Umehara H., Kawakami A., Nakamura H., Sano H., Tsubota K., Ozawa Y., Takamura E., Saito I., Inoue H., Nakamura S., Moriyama M., Takeuchi T., Tanaka Y., Hirata S., Mimori T., Matsumoto I., Sumida T.: Comparison of performance of the 2016 ACR-EULAR classification criteria for primary Sjögren's syndrome with other sets of criteria in Japanese patients. *Ann. Rheum. Dis.*, 2017. Mar 22. doi: 10.1136/annrheumdis-2016-210758.
7. Inoue H., Kishimoto A., Ushikoshi-Nakayama R., Hasaka A., Takahashi A., Ryo K., Muramatsu T., Ide F., Mishima K., Saito I.: Resveratrol improves salivary dysfunction in a non-obese diabetic (NOD) mouse model of Sjögren's syndrome. *J.Clin. Biochem. Nutr.* 2016. 59(2): 107-112.
8. Tanaka N., Muro Y., Suzuki Y., Nishiyama S., Takada K., Sekiguchi M., Hashimoto N., Ohmura K., Shimoyama K., Saito I., Kawano M., Akiyama M.: Anticentromere antibody-positive primary Sjögren's syndrome: Epitope analysis of a subset of anticentromere antibody-positive patients. *Mod. Rheumatol.*, 2016 May 10:1-7. doi: 10.1080/14397595.2016.1176327.
9. Kusakabe Y., Shindo Y., Kawai T., Takahashi Y., Koori M., Inoue H., Saito I.: Sex-Based Differences in Smgc Expression in the Submandibular Gland of C57BL/6 Mice. *Pathobiology.* 2016; 83(6): 287-94. doi: 10.1159/000446000. Epub 2016 Jun 2.
10. 梁 洪淵, 齋藤一郎: 診療の秘訣 ドライマウス, モダンフィジシャン-内科系総合雑誌, 36:8 2016-2018, 2016.
11. Kikuchi K., Ishige T., Ide F., Ito Y., Saito I., Hoshino M., Inoue H., Miyazaki Y., Nozaki T., Kojima M., Kusama K.: Overexpression of Activation-Induced Cytidine Deaminase and Age-Related Epstein-Barr Virus-Associated B-Cell Lymphoproliferative Disorders of the Head and Neck. *J. Oncol.*, 2015;2015:605750. doi: 10.1155/2015/605750. Epub 2015 Mar 5.
12. Takahashi A., Inoue H., Mishima K., Ide F., Nakayama R., Hasaka A., Ryo K., Ito Y., Sakurai T., Hasegawa Y., Saito I.: Evaluation of the effects of quercetin on damaged salivary secretion. *PLoS One*, 2015 Jan 28;10(1): e0116008. doi: 10.1371/journal.pone.0116008. eCollection 2015.
13. 齋藤一郎: 先制医療としての抗加齢歯科医学, 日本歯科医師会雑誌, 8: 19-24, 2016.
14. 齋藤一郎: 口腔から考える全身の抗加齢(アンチエイジング)医学, 日本健康医療学会雑誌, 3: 2-7, 2015.
15. 梁 洪淵, 齋藤一郎. 特集 口腔機能のアンチエイジング 2 食品による口腔機能の維持. *アンチエイジング医学-日本抗加齢医学会雑誌*, メディカルレビュー社, 11: 26-32, 2015
16. 齋藤一郎: 抗加齢専門医・指導士認定試験のための, *アンチ・エイジング医学-日本抗加齢医学会雑誌*, 11: 109-111, 2015.
17. 梁 洪淵, 齋藤一郎: 私の処方 ドライマウスとは, *モダンフィジシャン-内科系総合雑誌*, 35:9 1145-1146, 2015.
18. 齋藤一郎: 超高齢社会におけるドライマウスへの対応 -ドライマウスへどう取り組むべきか, *日本歯科評論*, 3: 30-6, 2015.

早川徹

1. Hayakawa T.: Biochemical surface modification of titanium implants using tresyl chloride-activated method. *Dental Materials Journal.* , 2015;34: 725-739.
2. Hirota M., Hayakawa T., Shima T., Ametani A., Tohnai I.: High porous titanium scaffolds showed higher compatibility than lower porous beta-tricalcium phosphate scaffolds for regulating human osteoblast and osteoclast differentiation. *Materials Science and Engineering C.*2015; 49:623-631.
3. Hayakawa T., Mochizuki C., Amemiya T., Fukayo Y., Wada T., Ozawa D., Hamada Y., Sugawara Y., Sato M.: Bone response of gelatin composite including the apatite prepared from an amino acid calcium complex. *Journal of Oral Tissue Engineering.*,2015; 12:115-120.
4. Fuse M., Hayakawa T., Hashizume-Takizawa T., Takeuchi R., Kurita-Ochiai T., Fujita-Yoshigaki J., Fukumoto M.: MC3T3-E1 cell assay on collagen or fibronectin immobilized poly(lactic acid-ε-caprolactone) film. *Journal of Hard Tissue Biology.*,2015; 24:249-256.
5. Hirota M., Shimpo H., Ohkubo C., Umegaki T., Toyama T., Hayakawa T.: Bone adaptation of fibronectin-immobilized titanium implants using a tresyl chloride-activated method. *Journal of*

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- Hard Tissue Biology., 2015; 24:341–346.
6. Raita Y., Komatsu K., Hayakawa T.: Pilot study of gingival connective tissue responses to 3-dimensional collagen nanofiber-coated dental implants. Dental Materials Journal., 2015; 34: 847–854.
  7. Akaike S., Hayakawa T., Kobayashi D., Aono Y., Hirata A., Hiratsuka M., Nakamura Y.: Reduction in static friction by deposition of a homogeneous diamond-like carbon (DLC) coating on orthodontic brackets. Dental Materials Journal., 2015; 34:888–895.
  8. Hirota M., Shima T., Sato I., Ozawa T., Iwai T., Ametani A., Sato M., Noishiki Y., Ogawa T., Hayakawa T., Tohnai I.: Development of a biointegrated mandibular reconstruction device consisting of bone compatible titanium fiber mesh scaffold. Biomaterials., 2016; 75:223–236.
  9. Akaike S., Kobayashi D., Aono Y., Hiratsuka M., Hirata A., Hayakawa T., Nakamura Y.: Relationship between static friction and surface wettability of orthodontic brackets coated with diamond-like carbon (DLC), fluorine- or silicone-doped DLC coatings. Diamond and Related Materials., 2016; 61:109–114.
  10. (\*13) Yoshida E., Hayakawa T.: Adsorption analysis of lactoferrin to titanium, stainless steel, zirconia and polymethyl methacrylate using the quartz crystal microbalance method. BioMedical Research International., 2016; Article ID 3961286: 7. <http://dx.doi.org/10.1155/2016/3961286>.
  11. Suzuki H., Hirota M., Amemiya T., Ohkubo C., Hoshi N., Kimoto K., Hayakawa T., Miura H.: Cortical Bone Response of MDF titanium implant. Journal of Oral Tissue Engineering., 2016; 13:117–124.
  12. Fukayo Y., Amemiya T., Nakaoka K., Mizutani M., Komotori J., Hamada Y., Hayakawa T. : Journal of Hard Tissue Biology., 2016; 25:181–194.
  13. (\*37) Sakurai T., Yoshinari M., Toyama T., Hayakawa T., Ohkubo C.: Effects of a multilayered DNA/protamine coating on titanium implants on bone responses. Journal of Biomedical Materials Research.,2016; Part A. 104:1500–1509.
  14. (\*4)Wada T., Amemiya T., Hirota M., Hayakawa T.: Bone Formation in Gelatin/Calcium Phosphate Paste in a Subperiosteal Pocket of Rat Calvaria. Journal of Hard Tissue Biology., 2016; 25: 305–312.
  15. Suzuki H., Yagi R., Waki T., Wada T., Ohkubo C., Hayakawa T.: Study for the apatite deposition in simulated body fluid immersion experiment. Journal of Oral Tissue Engineering., 2016; 14: 9–14.
  16. (\*4)Wada T., Ozawa D., Hayakawa T.: Gelatin/Calcium phosphate paste for bone regeneration. Journal of Oral Tissue Engineering., 2016; 14: 27–33.
  17. (\*13) Kusakawa Y., Yoshida E., Hayakawa T.: Protein adsorption to titanium and zirconia using a quartz crystal microbalance method. BioMedical Research International., Volume 2017, Article ID 1521593, 8. <https://doi.org/10.1155/2017/1521593>.
  18. (\*13) Yoshida E., Hayakawa T.: Quantitative analysis of apatite formation on titanium and zirconia in a simulated body fluid solution using the quartz crystal microbalance method. Advances in Materials Science and Engineering., Advances in Materials Science and Engineering. Volume 2017, Article ID 7928379, 9, <https://doi.org/10.1155/2017/7928379>.
  19. Hirota M., Mochizuki C., Sato M., Hayakawa T.: Influence of heating conditions for formation of a thin apatite film on zirconia using a molecular precursor method. Coatings 7., 2017; 69. doi:10.3390/coatings7050069.
  20. Matsumoto H., Yamamoto T., Hanabusa M., Momoi Y., Hayakawa T.: Addition of Na<sub>2</sub>CO<sub>3</sub> improves the shelf life of experimental 4-META self-etching primer. Journal of Adhesive Dentistry., 2017; 19:213–220. doi: 10.3290/jjad.a38412.
  21. Tada Y., Hayakawa T., Nakamura Y.: Load-deflection and friction properties of PEEK wires as alternative orthodontic wires. Materials., 2017; 10: 914. doi:10.3390/ma10080914.
  22. Nitta K., Nomoto R., Tsubota Y., Tsuchikawa M., Hayakawa T.: Characteristics of low polymerization shrinkage flowable resin composites in newly-developed cavity base materials for bulk filling technique. Dental Materials Journal., 2017; 36: 740–746.
  23. Yamamoto T., Hanabusa M., Kimura S., Momoi Y., Hayakawa T.: Changes in polymerization stress

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

and elastic modulus of bulk-fill resin composites for 24 hours after irradiation. *Dental Materials Journal.*, 2018; ;37: 87-94.

24. (\*4) R, Mochizuki C, Sato M, Toyama T, Hirota M, Hayakawa T, Ohkubo C. Characterization and bone response of carbonate-containing apatite coated titanium implants using an aqueous spray coating. *Materials.*, 2017; 10, 1416; doi:10.3390/ma10121416.
25. (\*4) Waki T, Mochizuki C, Sato M, Sakurai T, Hayakawa T, Ohkubo C. Bone response to apatite paste derived from Ca-amino acid complex. *Journal of Hard Tissue Biology.* In press.

朝田芳信、船山ひろみ

1. Bin B.H., Bhin J., Seo J., Kim S.Y., Lee E., Park K., Choi D.H., Takagishi T., Hara T., Hwang D., Koseki H., Asada Y., Shimoda S., Mishima K. and Fukada T.: Requirement of zinc transporter SLC39A7/ZIP7 for dermal development to fine-tune endoplasmic reticulum function by regulating protein disulfide isomerase, *Journal of Investigative Dermatology*, doi: 10.1016/j.jid. 2017.
2. Teraishi M., Takaishi M., Nakajima K., Ikeda M., Higashi Y., Shimoda S., Asada Y., Hijikata A., Ohara O., Hiraki Y., Mizuno S., Fukada T., Furukawa T., Wakamatsu N., Sano S.: Critical involvement of ZEB2 in collagen fibrillogenesis: the molecular similarity between Mowat-Wilson syndrome and Ehlers-Danlos syndrome. *Scientific Reports* 7, 46915, 2017.
3. Shimazaki E., Karakida T., Yamamoto R., Kobayashi-Kinoshita S., Fukae M., Yamakoshi Y., Asada Y.: TGF- $\beta$  and physiological root resorption of deciduous teeth *International Journal of Molecular Sciences* 18(1), 49; doi:10.3390/ijms18010049, 2017.
4. 加藤 靖隆, 船山 ひろみ, 古屋 吉勝, 長岡 悠, 黒田 翠, 平山 展大, 朝田 芳信. 大学病院小児歯科来院患児の保護者に実施した再生医療に対する意識調査—とくに歯髄細胞のバンキングについて—. *小児歯科学雑誌*, 55巻3号, 390-396, 2017.
5. Yayoi Idaira, Takaaki Munemasa, Toshiyuki Fukada, Shinji Shimoda and Yoshinobu Asada: Role of zinc transporter ZIP13 in degenerative changes in periodontal ligament and alveolar bone, *J Hard Tissue Biology* 25(1):49-56, 2016.
6. Kobayashi-Kinoshita S., Yamakoshi Y., Onuma K., Yamamoto R., Asada Y.: TGF- $\beta$ 1 autocrine signalling and enamel matrix components, *Scientific Reports* 6:336-344, 2016.
7. 佐々木 溪円, 新美 志帆, 山縣 然太郎, 佐藤 拓代, 秋山 千枝子, 小倉 加恵子, 溝呂 木園子, 朝田 芳信, 船山 ひろみ, 松浦 賢長, 草野 恵美子, 石川 みどり, 黒田 美保, 市川 香織, 山崎 嘉久. 3歳児健康診査の実施対象年齢に関する全国調査. *厚生 の 指 標*, 第 63 巻 15 号, P8-13, 2016. 12 月.
8. Yu Z., Saito H., Otsuka H., Shikama Y., Funayama H., Sakai M., Murai S., Nakamura M., Yokochi T., Takada H., Sugawara S., Endo Y.: Pulmonary platelet accumulation induced by catecholamines: Its involvement in lipopolysaccharide-induced anaphylaxis-like shock. *Int Immunopharmacol.* 2016 Dec 7;43: 40-52. doi: 10.1016/j.intimp.2016.11.034. [Epub ahead of print].
9. Danielsson J., Zaidi S., Kim B., Funayama H., Yim PD., Xu D., Worgall TS., Gallos G., Emala CW.: Airway Epithelial Cell Release of GABA is Regulated by Protein Kinase A. *Lung.* 2016 Jun;194(3):401-8. doi: 10.1007/s00408-016-9867-2. Epub 2016 Mar 17.
10. Ohta M., Nishimura H., and Asada Y.: Association of DLX3 gene polymorphism and dental caries susceptibility in Japanese children, *Arch. Oral Biology* 60: 55-61, 2015.
11. (\*14) Nariyama M., Mori M., Shimazaki E., Ando H., Ohnuki Y., Abo T., Yamane A., and Asada Y.: Functions of miR-1 and miR-133a during the postnatal development of masseter and gastrocnemius muscles. *Mol. Cell Biochem.*, Vol 407, 2015, pp17-27, DOI: 10.1007/s11010-015-2450-y.

二藤 彰

1. Kamiunten T., Ideno H., Shimada A., Arai Y., Terashima T., Tomooka Y., Nakamura Y., Nakashima K., Kimura H., Shinkai Y., Tachibana M., Nifuji A.: Essential roles of G9a in cell proliferation and differentiation during tooth development. *Exp Cell Res.*, 2017; 357(2): 202-210.
2. Huynh NC., Everts V., Nifuji A., Pavasant P., Ampornaramveth RS.: Histone deacetylase inhibition enhances in-vivo bone regeneration induced by human periodontal ligament cells. *Bone.*, 2017; 95:76-84.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

3. Kawasaki M., Izu Y., Hayata T., Ideno H., Nifuji A., Sheffield VC., Ezura Y., Noda M.: Bardet-Biedl syndrome 3 regulates the development of cranial base midline structures. *Bone.*, 2017; 101: 179-190.
4. Pawaputanon Na Mahasarakham C., Ezura Y., Kawasaki M., Smriti A., Moriya S., Yamada T., Izu Y., Nifuji A., Nishimori K., Izumi Y., Noda M.: BMP-2 Enhances Lgr4 Gene Expression in Osteoblastic Cells. *J Cell Physiol.*, 2016; 231(4): 887-95.
5. (\*15) Ideno H., Nakashima K., Nifuji A.: Roles of the histone methyltransferase G9a in the development and differentiation of mesenchymal tissues. *J Phys Fitness Sports Med.*, 2015; 4(5): 357-362.
6. (\*15) Wada S., Ideno H., Shimada A., Kamiunten T., Nakamura Y., Nakashima K., Kimura H., Shinkai Y., Tachibana M., Nifuji A.: H3K9MTase G9a is essential for the differentiation and growth of tenocytes in vitro. *Histochem Cell Biol.*, 2015; 144(1):13-20.
7. Kamiunten T., Ideno H., Shimada A., Nakamura Y., Kimura H., Nakashima K., Nifuji A.: Coordinated expression of H3K9 histone methyltransferases during tooth development in mice. *Histochem Cell Biol.*, 2015; 143(3): 259-66.

#### 小川匠

1. Yamamoto T., Sasaki K., Ikawa T., Shigeta Y., Shigemoto S., Ando E., Ogawa T., Ihara K.: Pre-endodontic post and core technique for endodontic and prosthodontic treatment. *J Contemp Dent Pract.*, 2018 Jan 1;19(1):117-122.
2. (\*17) Sasaki K., Shigemoto S., Shigeta Y., Hirabayashi R., Tsumita M., Ikawa T., Ikuta N., Okuma K., Yamamoto T., Ogawa T.: Factors associated with occlusal plane inclination in adults. *The Journal of Japanese Society of Stomatognathic Function.* 24(1): 18-24. 2017.
3. (\*17) 平井健太郎, 井川知子, 重田優子, 小川 匠.: 易摩耗性スプリントを用いた咬耗の定量的評価法の開発. *日本顎口腔機能学会雑誌*, 23(2): 107-116, 2017.
4. (\*17) Hirai K., Ikawa T., Shigemoto S., Shigeta Y., Ogawa T.: Evaluation of sleep bruxism with a novel designed occlusal splint. *J Prosthodont Res.*, 2017 Jul;61(3):333-343.
5. (\*18) 井川知子, 重田優子, 平井真也, 小川 匠, 中岡一敏, 濱田良樹, 原田直彦, 河村 昇.: 于一ム医療による顎骨欠損症例の顎骨再建と咬合再建. *鶴見歯学*, 43(1): 40-47.2017.
6. (\*17) (\*18) Hirai S., Shigemoto S., Shigeta Y., Kamei S., Ogawa T., Ando E., Hirabayashi R., Ikawa T., Matsuka Y. : Relationship between the mandibular movements and deformation of the coronoid process and the condyle. *J Jpn Assoc Oral Rehabil.*,2016; 29(1): 35-40.
7. (\*18) Yamada H., Nakaoka K., Sonoyama T., Kumagai K., Ikawa T., Shigeta Y, Harada N., Kawamura N, Ogawa T., Hamada Y.: Clinical Usefulness of Mandibular Reconstruction Using Custom-Made Titanium Mesh Tray and Autogenous Particulate Cancellous Bone and Marrow Harvested From Tibia and/or Ilia. *International Journal of Oral and Maxillofacial Surgery.* 2016; 27(3): 586-592.
8. Uchida A, Hirai K, Ikawa T, Fujii T, Ando E, Shigeta Y, Ogawa T.: In What Kind of Cases is Acquisition of Facial Information Necessary? *歯科審美*, 28(2): 49-56.
9. Shigeta Y, Ogawa T., Nakamura Y, Hirabayashi R, Ando E, Ikawa T, Hirai S.: Raising Student Awareness in a Test Centered Environment. *Psychology & Psychotherapy.* 2016; 6(1): 239.
10. Yamazaki Y, Shigeta Y, Ogawa T., Enciso R, Ando E, Ikawa T, Hosoya N, Clark GT.: The Relationship between Anterior Tubercle of the Atlas to the Adjacent Oropharyngeal Airway Volume: Implication of Normalized Variables and Gender Differences. *Journal of Dentistry and Oral Care Medicine.* 2016;2(1): 2454-3276.
11. Ando E, Shigeta Y, Nejima J, Yamanaka H, Hirai S, Ogawa T., Clark GT, Enciso R.: Assessment of the calcification of the nuchal ligament and osteophytes of the cervical spine in obstructive sleep apnoea subjects and snorers. *J Oral Rehabil.* 2016; 43(2): 96-102.
12. (\*18) Ikawa T., Shigeta Y., Hirabayashi R., Hirai S., Hirai K., Harada N., Kawamura N., Ogawa T.: Computer assisted mandibular reconstruction using a custom-made titan mesh tray and removable denture based on the top-down treatment technique. *J Prosthodont Res.* 60(4): 321-331. 2016.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

13. (\*18) Katsumura S, Sato K, Ikawa T, Yamamura K, Ando E, Shigeta Y, Ogawa T. : High-precision, reconstructed 3D model” of skull scanned by conebeam CT: Reproducibility verified using CAD/CAM data. Legal Medicin, 2016; 18:37-43.
14. (\*18)井川知子, 重田優子, 平林里大, 平井真也, 高木温子, 河村 昇, 小川 匠. :新しい概念に基づいた新型咬合器の開発. 口腔リハビリ誌, 28: 11-20. 2015.
15. (\*18) Nakaoka K, Hamada Y, Nakatani H, Shigeta Y, Hirai S, Ikawa T, Mishima A, Ogawa T.: Surgical Intervention for Masticatory Muscle Tendon-Aponeurosis Hyperplasia Based on the Diagnosis Using the Four-Dimensional Muscle Model.J Craniofac Surg., 2015; 26(6)1871-1876.
16. Okamoto M., Imai S., Miyanochara M., Saito W., Momoi Y., Nomura Y., Ikawa T., Ogawa T., Miyabe-Nishiwaki T., Kaneko A., Watanabe A., Watanabe S., Hayashi M., Tomonaga M., Hanada N.: Streptococcus panodentis sp. nov. from the oral cavities of chimpanzees. Microbiol Immunol., 2015; 59(9): 526-532.
17. (\*17) Shigeta Y., Ogawa T., Nakamura Y., Ando E., Hirabayashi R., Ikawa T.: Structural equation modeling for alteration of occlusal plane inclination. J Prosthodont Res., 2015; 59(3): 185-193.
18. Shigemoto S., Shigeta Y., Nejima J., Ogawa T., Matsuka Y., Clark GT.: Diagnosis and treatment for obstructive sleep apnea: Fundamental and clinical knowledge in obstructive sleep apnea.J Prosthodont Res., 2015; 59(3): 161-171.
19. 大倉 一夫, 大川 周治, 藤澤 政紀, 櫻井 薫, 馬場 一美, 小川 匠, 矢谷 博文, 窪木 拓男, 松香 芳三: ブラキシズムに対する診断と対策に関するプロジェクト研究 睡眠時ブラキシズムの簡便な診断法の確立と対処法の検討. 日本歯科医学会誌, 34: 79-83, 2015.  
濱田良樹、山田浩之
1. Mikami T., Ohashi Y., Bologna-Molina R., Mosqueda-Taylor A., Fujiwara N., Tsunoda N., Yamada H., Takeda Y.: Primordial Odontogenic Tumor: A case report with histopathological analyses. Pathol Int., 2017.Dec.;67(12): 638-643.
2. Yamamoto N., Kawaguchi K., Fujihara H., Hasebe M., Kishi Y., Yasukawa M., Kumagai K., Hamada Y.: Detection accuracy for epithelial dysplasia using an objective autofluorescence visualization method based on the luminance ratio. Int J Oral Sci., 2017.Nov.10;9(11): e2.
3. Yamaya G., Miyamoto I., Abe R., Saito D., Takeda Y., Yamada H.: Nontuberculous lymphadenoma of the sublingual gland: A case report and literature review. Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology, 2017.Nov.;29(6): 559-562.
4. Abe R., Miyamoto I., Sato H., Saitou D., Yamaya G., Yamada H.: An unusually large osteochondroma of the mandibular angle: a case report. World J Surg Oncol., 2017.Nov.13;15(1):201.
5. Miyamoto Y., Kanzaki H., Wada S., Tsuruoka S., Itohiya K., Kumagai K., Hamada Y., Nakamura Y.: Asporin stably expressed in the surface layer of mandibular condylar cartilage and augmented in the deeper layer with age. Bone Rep., 2017.Jul.23; 7:41-50.
6. Matsubara R., Kumagai K., Shigematsu H., Kitaura K., Nakasone Y., Suzuki S., Hamada Y., Suzuki R.: Fexofenadine Suppresses Delayed-Type Hypersensitivity in the Murine Model of Palladium Allergy. Int J Mol Sci., 2017.Jun.25;18(7).
7. Hasebe M., Yoshikawa K., Nishii R., Kawaguchi K., Kamada T., Hamada Y.: Usefulness of (11) C-methionine-PET for predicting the efficacy of carbon ion radiation therapy for head and neck mucosal malignant melanoma. Int J Oral Maxillofac Surg., 2017.Oct.;46(10):1220-1228.
8. 重松 宏昭, 後藤 哲人, 小早川 元博, 亀井 和利, 後藤 陽子, 濱田 良樹: 顎下部に発生した硝子血管型 Castleman’s disease の 1 例. 日本口腔外科学会雑誌, 63 巻 9 号: 439-443, 2017 年 9 月.
9. 藤澤 靖子, 赤池 駿, 関谷 利子, 城所 明光, 中岡 一敏, 濱田 良樹, 中村 芳樹: 両側下顎枝矢状分割法を適用した下顎側方偏位を伴う骨格性下顎前突患者の治療前後のスマイル時口唇の三次元的変化. 日本顎変形症学会雑誌, 27 巻 3 号: 175-182, 2017 年 8 月.
10. Eguchi T., Kawaguchi K., Basugi A., Kanai I., Hamada Y.: Intraoperative real-time assessment of blood flow using indocyanine green angiography after anastomoses in free-flap reconstructions. Br J Oral Maxillofac Surg., 2017.Jul;55(6): 628-630.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

11. Chiba T., Ishisaki A., Kyakumoto S., Shibata T., Yamada H., Kamo M.: Transforming growth factor- $\beta$ 1 suppresses bone morphogenetic protein-2-induced mesenchymal-epithelial transition in HSC-4 human oral squamous cell carcinoma cells via Smad1/5/9 pathway suppression. *Oncol Rep.*, 2017.Feb;37(2): 713-720.
12. 堀内 俊克, 坂井 陳作, 熊谷 賢一, 荒 博範, 清水 一, 後藤 陽子, 下地 柳盛, 羽地 都映, 濱田 良樹: 済生会横浜市東部病院口腔外科における顎顔面骨折の臨床統計的検討 8年間474例の検討. *日本口腔診断学会雑誌*, 30巻1号, 13-17: 2017年2月.
13. Isoda Y., Imamura E., Ueno D., Akaike T., Hamada Y.: Use of a trephine bur and curette for minimally invasive harvesting of particulate cancellous bone and marrow from the iliac crest: a case of alveolar ridge reconstruction. *Int J Implant Dent.*, 2016 Dec;2(1):1.
14. (\*6)井川 知子, 重田 優子, 平井 真也, 小川 匠, 中岡 一敏, 濱田 良樹, 原田 直彦, 河村 昇: チーム医療による顎骨欠損症例の顎骨再建と咬合再建. *鶴見歯学*, 43 巻 1 号: 40-48, 2017 年 1 月.
15. Ohashi Y., Kumagai K., Miyata Y., Matsubara R., Kitaura K., Suzuki S., Hamada Y., Suzuki R.: Overexpression of ErbB4 is an independent marker for lymph node metastasis in Japanese patients with oral squamous cell carcinoma. *Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol.* 2016.Sep;122(3): 313-21.
16. Eguchi T., Ishida R., Ara H., Hamada Y., Kanai I.: A diffuse traumatic neuroma in the palate: a case report. *J Med Case Rep.*, 2016.May.11;10(1): 116.
17. (\*6) Yamada H., Nakaoka K., Sonoyama T., Kumagai K., Ikawa T., Shigeta Y., Harada N., Kawamura N., Ogawa T., Hamada Y.: Clinical Usefulness of Mandibular Reconstruction Using Custom-Made Titanium Mesh Tray and Autogenous Particulate Cancellous Bone and Marrow Harvested from Tibia and/or Iliac. *J Craniofac Surg.*, 2016.May;27(3): 586-92.
18. Nagaoka T., Kitaura K., Miyata Y., Kumagai K., Kaneda G., Kanazawa H., Suzuki S., Hamada Y., Suzuki R.: Downregulation of epidermal growth factor receptor family receptors and ligands in a mutant K-ras group of patients with colorectal cancer. *Mol Med Rep.*, 2016.Apr;13(4):3514-20.
19. 田中 庸子, 郷家 久道, 河原田 尚, 和気 昌弘, 中谷 逸希, 濱田 良樹: 下唇に発生した骨軟骨性分離腫の 1 例. *日本口腔外科学会雑誌*, 62 巻 3 号:120-123, 2016.
20. Yasukawa M., Fujihara H., Fujimori H., Kawaguchi K., Yamada H., Nakayama R., Yamamoto N., Kishi Y., Hamada Y., Masutani M.: Synergetic Effects of PARP Inhibitor AZD2281 and Cisplatin in Oral Squamous Cell Carcinoma in Vitro and in Vivo. *Int J Mol Sci.*, 2016.Feb.24;17(3): 272.
21. Kumagai K., Horikawa T., Shigematsu H., Matsubara R., Kitaura K., Eguchi T., Kobayashi H., Nakasone Y., Sato K., Yamada H., Suzuki S., Hamada Y., Suzuki R.: Possible Immune Regulation of Natural Killer T Cells in a Murine Model of Metal Ion-Induced Allergic Contact Dermatitis. *Int J Mol Sci.*, 2016.Jan.12; 17(1).
22. Kurokawa M., Kanzaki H., Tokiwa H., Handa H., Nakaoka K., Hamada Y., Kato H., Nakamura Y.: The main occluding area in normal occlusion and mandibular prognathism. *Angle Orthod.*, 2016.Jan.;86(1): 87-93.1. Epub
23. 堀内 俊克, 宮嶋 千秋, 圓谷 郷, 飯田 良平, 濱田 良樹: 咀嚼障害を有する患者における摂食回復支援食「あいと」の臨床的有用性 顎矯正手術後における検討. *日本静脈経腸栄養学会雑誌*, 31 巻 4 号:975-980, 2016 年 7 月.
24. 中岡一敏, 山田 浩之, 堀内 俊克, 中島 敏文, 中谷 逸希, 濱田 良樹: 下顎骨関節突起骨折の観血的整復固定術における high perimandibular approach の有用性. *日本口腔外科学会雑誌*, 62 巻 7 号:341-345,2016 年 7 月.
25. 佐藤 光一郎, 藤原 久子, 堀江 彰久, 熊谷 賢一, 山田 浩之, 濱田 良樹: 大きな嚢胞様腔を形成した顎下腺多形腺腫の 1 例. *日本口腔外科学会雑誌*, 62 巻 4 号: 174-177, 2016 年 4 月.
26. 田中 庸子, 郷家 久道, 河原田 尚, 和気 昌弘, 中谷 逸希, 濱田 良樹: 下唇に発生した骨軟骨性分離腫の 1 例. *日本口腔外科学会雑誌*, 62 巻 3 号:120-123, 2016 年 3 月.
27. Kishi Y., Fujihara H., Kawaguchi K., Yamada H., Nakayama R., Yamamoto N., Fujihara Y., Hamada Y., Satomura K., Masutani M.: PARP Inhibitor PJ34 Suppresses Osteogenic Differentiation in Mouse

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

Mesenchymal Stem Cells by Modulating BMP-2 Signaling Pathway. *Int J Mol Sci.*, 2015.Oct.19.;16(10): 24820-38.

28. Miyata Y., Kumagai K., Nagaoka T., Kitaura K., Kaneda G., Kanazawa H., Suzuki S., Hamada Y., Suzuki R.: Clinicopathological significance and prognostic value of Wilms' tumor gene expression in colorectal cancer. *Cancer Biomark.*, 2015;15(6): 789-97.
29. 馬杉 亮彦, 山田 浩之, 中谷 逸希, 伊藤 由美, 齋藤 一郎, 濱田 良樹: 下唇部の皮下に発生した軟骨様汗管腫の1例. *日本口腔外科学会雑誌*, 61 巻 11 号:599-602.2015 年 11 月.
30. 園山 智生, 新井 剛, 重松 宏昭, 佐藤 光一郎, 小笠原 邦茂, 濱田 良樹: デンタルインプラント除去後に発生した急性下肢動脈閉塞症の1例. *有病者歯科医療*, 24 巻 3 号:168-173, 2015 年 10 月.
31. (\*6)熊谷 賢一, 山田 浩之, 長谷部 充彦, 佐藤 光一郎, 馬杉 亮彦, 園山 智生, 濱田 良樹: 自家腸骨海綿骨細片移植による即時顎堤再建後にインプラント治療を施行した歯原性線維腫の1例. *日本口腔診断学会雑誌*(0914-9694), 28 巻 3 号:221-225, 2015 年 10 月.
32. Nakaoka K., Hamada Y., Nakatani H., Shigeta Y., Hirai S., Ikawa T., Mishima A., Ogawa T.: Surgical Intervention for Masticatory Muscle Tendon-Aponeurosis Hyperplasia Based on the Diagnosis Using the Four-Dimensional Muscle Model. *J Craniofac Surg.*, 2015.Sep.;26(6): 1871-6.
33. Kumagai K., Suzuki S., Kanri Y., Matsubara R., Fujii K., Wake M., Suzuki R., Hamada Y.: Spontaneously developed osteoarthritis in the temporomandibular joint in STR/ort mice. *Biomed Rep.*, 2015.Jul.;3(4): 453-456. Epub 2015 May 21.
34. Arai C., Choi JW., Nakaoka K., Hamada Y., Nakamura Y.: Management of open bite that developed during treatment for internal derangement and osteoarthritis of the temporomandibular joint. *Korean J Orthod.*, 2015.May;45(3):136-45.
35. 君塚 幸子, 福山 英治, 米満 郁男, 島崎 一夫, 大村 進, 濱田 良樹, 藤内 祝: 顔面非対称に対して上下顎同時骨延長術を適用した Marfan 症候群の1例. *日本顎変形症学会雑誌* (0916-7048), 25 巻 1 号 49-55 2015 年 4 月.
36. 高松 朋矢, 山田 浩之, 久保田 卓, 石田 璃久磨, 今村 栄作, 濱田 良樹: 口底に生じた器質化血腫の1例. *日本口腔外科学会雑誌*, 61 巻 3 号:164-167.2015 年 3 月.

#### 前田伸子

1. (\*20) Kimori H., Yamamoto K., Yamachika S., Tsurumoto A., Kamikawa Y., Sasao M., Morito M., Saito I., Ohshima T., Maeda N., & Nakagawa T.: Factors associated with the presence of atrophic tongue in patients with dry mouth. *Gerodontology*. 2015; 32@ 13-17.
2. (\*21) Kojima Y., Ohshima T., Seneviratne, C. J., & Maeda N.: Combining prebiotics and probiotics to develop novel synbiotics that suppress oral pathogens. *J. Oral Biosci.*, 2016;58:27-32. doi: 10.1016/j.job.2015.08.004.
3. (\*8) Ohshima T., Kojima Y., Seneviratne, C. J. & Maeda N.: Therapeutic application of synbiotics, a fusion of probiotics and prebiotics, and biogenics as a new concept for oral Candida infections: A mini review. *Front. Microbiol.* 25 Jan. 2016; <http://dx.doi.org/10.3389/fmicb.2016.00010>.
4. (\*8)前田伸子: 常在真菌 Candida の病原性-カンジダ症とその対応-. *歯薬療法*, 35: 115-123, 2016.
5. (\*21)木村陽介, 山本共夫, 草塩英治, 前田伸子: 抗真菌剤の長期使用は菌垢量を減少させる. *歯薬療法*,36: 9-14, 2017.
6. (\*21) Ohshima T., Kojima Y., Seneviratne, C. J., & Maeda N. : Therapeutic application of synbiotics, a fusion of probiotics and prebiotics, and biogenics as a new concept for oral candida infections: a mini review. *Frontiers in microbiology*, 2016; 7.
7. (\*21) Kojima Y., Ohshima T., Seneviratne, C. J., & Maeda N. : Combining prebiotics and probiotics to develop novel synbiotics that suppress oral pathogens. *Journal of Oral Biosciences*, 2016;58(1): 27-32.

#### 下田信治

1. (\*23) Sekimizu T., Shimoda S. and Hosoya N.: Age-related Changes in Root Dentine -Measurement of Hypercalcified Root Dentine Using Monochrotron Radiation X-ray Micro-CT.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

J.Hard Tissue Biology., 2018;27(2):<in press>

2. Katsumata A., Fukui T., Shimoda S., Kobayashi K. : Measurement of alveolar bone density based on image density of intraoral radiographs, Journal of The Japanese Stomatological Society., 2017; 66 (3): 229-234.
3. (\*38)伊東宏和, 五十嵐千浪, 若江(森田)五月, 市古敬史, 下田信治, 小林 馨:大規模災害を想定した歯科用コーンビーム CT を活用した身元特定に関する基礎的研究. 歯科放射線 206;56(2): 83-89., 2017
4. 千葉 敏江, 浅田 由佳, 石川 美佐緒, 山本 雄嗣, 下田 信治, 桃井 保子:リン酸カルシウム系ペーストによるエナメル質の再石灰化促進作用, 日本歯科保存学雑誌, Vol. 59(2016) No. 1, 2016.
5. Shirai M., Yamamoto R., Chiba T., Komatsu K., Shimoda S., Yamakoshi Y., Oida S., Ohkubo C.: Bone augmentation around a dental implant using demineralized bone sheet containing biologically active substances.Dental Materials Journal.2016;35(3): 470-478.
6. Idaira Y., Munemasa T., Fukada T., Shimoda S., Asada Y.: Role of Zinc Transporter ZIP13 in Degenerative Changes in Periodontal Ligament and Alveolar Bone. , Journal of Hard Tissue Biology.,2016;25(1): 49-56.
7. (\*22) Hayashi O., Chiba T., Shimoda S., Momoi Y.: Demineralization and Remineralization Phenomena of Human Enamel in Acid Erosion Model. Journal of Hard Tissue Biology., 2016; 25(1): 27-34.
8. Fukada T, Idaira Y, Shimoda S, Asada Y.: Zinc signaling-mediated regulation of dentin and periodontal tissues, Clin Calcium. 25(12): 1862-71, 2015.
9. Langlais R, Katsumata A, Naidoo S, Ogawa K, Fukui T, Shimoda S, Kobayashi K : The cadmium telluride photon counting sensor in panoramic radiology: gray value separation and its potential application for bone density evaluation, Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol., 2015;120(5): 636-43.
10. 千葉敏江, 山本雄嗣, 下田信治, 桃井保子:リン酸カルシウム系ペーストの歯質ケア材としての有用性. 日本歯科保存学雑誌, 第 58 巻 第 3 号, 200~211, 2015.
11. 笠原明, 田中倫, 塩崎一成, 石川美佐緒, 伊東宏和, 下田信治, 小林馨:近年の歯冠の拡大傾向の検討とその文献的考察. 鶴見歯学, 41(2): 53 -65, 2015.

奥村敏

1. Mototani Y., Okamura T., Goto M., Shimizu Y., Yanobu-Takanashi R., Ito A., Kawamura N., Yagisawa Y., Umeki D., Nariyama M., Suita K., Shiozawa K., Sahara Y., Kozasa T., Saeki Y., Okumura S.: Role of G-protein-regulated inducer of neurite outgrowth 3 (GRIN3) in  $\beta$ -arrestin 2-Akt signal and dopaminergic behaviors. Pflugers Arch 2018 in press.
2. (\*36) Suita K., Fujita T., Cai W., Jin H., Prajapati R., Hidaka Y., Umemura M., Yokoyama U., Sato M., Okumura S., Ishikawa Y.: Vidarabine, an anti-herpes virus agent prevents catecholamine-induced arrhythmia without adverse effects on heart function in mice. Pflugers Arch 2018 in press
3. (\*24) Jin H., Fujita T., Jin M., Kurotani R., Hidaka Y., Cai W., Suita K., Prajapati R., Liang C., Ohnuki Y., Mototani Y., Umemura M., Yokoyama U., Sato M., Okumura S., Ishikawa Y.: Epac activation inhibits IL-6-induced cardiac dysfunction. J Physiol Sci. 2018; 68, 77-87.
4. Umemura M., Kim J-H., Aoyama H., Hoshino Y., Fukumura H., Nakakaji R., Sato I., Ohtake M., Akimoto T., Narikawa M., Tanaka R., Fujita T., Yokoyama U., Taguri M., Okumura S., Sato M., Eguchi H., Ishikawa Y.: The iron chelating agent, deferoxamine detoxifies (Salen)-induced cytotoxicity. J Pharmacol Sci. 2017; 134, 203-210.
5. (\*24) Jin H., Fujita T., Jin M., Kurotani R., Namekata I., Hamaguchi S., Hidaka Y., Cai W., Suita K., Ohnuki Y., Mototani Y., Shiozawa K., Prajapati R., Liang C., Umemura M., Yokoyama U., Sato M., Tanaka H., Okumura S., Ishikawa Y.: Cardiac overexpression of Epac1 in transgenic mice rescues lipopolysaccharide-induced cardiac dysfunction and inhibits Jak-STAT pathway. J Mol Cell Cardiol. 2017; 108, 170-180.
6. (\*24) Fujita T., Umemura M., Yokoyama U., Okumura S., Ishikawa Y.: The role of Epac in the heart.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

Cell Mol Life Sci. 2017, 74, 591–601.

7. (\*24) Cai W., Fujita T., Hidaka Y., Jin H., Suita K., Ling C., Parajapati R., Umemura M., Yokoyama U., Sato M., Okumura S., Ishikawa Y.: Disruption of Epac1 protects the heart from adenylyl cyclase type5-mediated cardiac dysfunction: Biochem Biophys Res Commun. 2016, 457, 1–7.
8. (\*24) Ohnuki Y., Umeki D., Mototani Y., Shiozawa K., Ito A., Kawamata N., Jin H., Cai W., Suita K., Saeki Y., Fujita T., Ishikawa Y., Okumura S.: Role of phosphodiesterase 4 expression in the Epac1 signal-dependent skeletal muscle hypertrophic action of clenbuterol. Physiol Rep. 2016, 4, e12791.
9. Sato I., Umemura M., Mitsudo K., Fukumura H., Kim J-H., Hoshino Y., Nakashima H., Kioi M., Nakakaji R., Sato M., Fujita T., Yokoyama U., Okumura S., Oshiro H., Eguchi H., Tohnai I., Ishikawa Y.: Simultaneous hyperthermia-chemotherapy with controlled drug delivery using single-drug nanoparticles. Sci Rep. 2016, 6, 24629.
10. Shiozawa K., Ohnuki Y., Mototani Y., Umeki D., Ito A., Saeki Y., Hanada N., Okumura S.: Effects of food diameter on bite size per mouthful and chewing behavior. J Physiol Sci. 2016, 66, 93–98.
11. 山本由美子, 高尾亜由子, 山本雄嗣, 奥村敏, 菊池賢, 春田郁子, 小林馨: 原発性胆汁性肝硬変の寛解と歯科感染症治療との関連が示唆された1例. 有病者歯科医療, 2016, 25(3), 213–219.
12. Kato Y., Yokoyama U., Yanai C., Ishige R., Kurotaki D., Umemura M. Fujita T., Kubota T., Okumura S., Sata M., Tamura T., Ishikawa Y.: Epac1 deficiency attenuated vascular cell migration and neointimal formation. Arterioscler Thromb Vascular Biol. 2015, 35, 2617–2625.
13. Suita K., Fujita T., Hasegawa N., Cai W., Jin H., Hidaka Y., Prajapati R., Umemura M., Yokoyama U., Sato M., Okumura S., Ishikawa Y. Norepinephrine-induced adrenergic activation strikingly increased the atrial fibrillation through  $\beta$ - and  $\alpha$ -adrenergic receptor-mediated signaling in mice. PLoS One. 2015, 10, e0133604.
14. (\*25) Umeki D., Ohnuki Y., Mototani Y., Shiozawa K., Suita K., Fujita T., Nakamura Y., Saeki Y., Okumura S.: Protective effects of clenbuterol against dexamethasone-induced masseter muscle atrophy and myosin heavy chain transition. PLoS One. 2015, 10, e0128263.
15. Tsunematsu T., Okumura S., Mototani Y., Ohnuki Y., Jin H., Cai W., Suita K., Sato I., Umemura M., Yokoyama U., Sato M., Fujita T., Ishikawa Y.: Coupling of  $\beta$ -adrenergic receptor to type 5 adenylyl cyclase and its physiological relevance in cardiac myocytes. Biochem Biophys Res Commun. 2015, 458, 531–535.
16. Kamide T., Okumura S., Ghosh S., Shinoda Y., Mototani Y., Ohnuki Y., Jin H., Cai W., Suita K., Sato I., Umemura M., Fujita T., Yokoyama U., Sato M., Furutani K., Kitano H., Ishikawa Y.: Oscillation of cAMP and  $Ca^{2+}$  in cardiac myocytes: a systems biology approach. J Physiol Sci. 2015, 65, 195–200.

#### 花田信弘

1. Nitta H, Katagiri S, Nagasawa T, Izumi Y, Ishikawa I, Izumiyama H, Uchimura I, Kanazawa M, Chiba H, Matsuo A, Utsunomiya K, Tanabe H, Takei I, Asanami S, Kajio H, Ono T, Hayashi Y, Ueki K, Tsuji M, Kurachi Y, Yamanouchi T, Ichinokawa Y, Inokuchi T, Fukui A, Miyazaki S, Miyauchi T, Kawahara R, Ogiuchi H, Yoshioka N, Negishi J, Mori M, Mogi K, Saito Y, Tanzawa H, Nishikawa T, Takada N, Nanjo K, Morita N, Nakamura N, Kanamura N, Makino H, Nishimura F, Kobayashi K, Higuchi Y, Sakata T, Yanagisawa S, Tei C, Ando Y, Hanada N., Inoue S. The number of microvascular complications is associated with an increased risk for severity of periodontitis in type 2 diabetes patients: Results of a multicenter hospital-based cross-sectional study. J Diabetes Investig. 2017 Sep;8(5): 677–686.
2. Okada A, Nomura Y, Sogabe K, Oku H, Sato Gillbreath A, Hino F, Hayashi H, Yoshino H, Utsunomiya H, Suzuki K, Koresawa K, Koba K, Uetani K, Kotoh M, Nishitsuji N, Akutsu S, Nakasone T, Tobi Y, Fukuzawa Y, Yabuki Y, Naono Y, Yajima M, Shimizu K, Hanada N. Comparison of salivary hemoglobin measurements for periodontitis screening. J Oral Sci. 2017; 59(1): 63–69.
3. Arai C, Nomura Y, Matsuzawa M, Hanada N., Nakamura Y. Extracellular HSP72 induces proinflammatory cytokines in human periodontal ligament fibroblast cells through the TLR4/NF- $\kappa$ B pathway in vitro. Arch Oral Biol. 2017 Jul 30; 83:181–186. [Epub ahead of print]
4. Nomura Y, Takeuchi H, Okamoto M, Sogabe K, Okada A, Hanada N. Chair-side detection of

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

Prevotella Intermedia in mature dental plaque by its fluorescence. Photodiagnosis Photodyn Ther. 2017 Jun; 18:335–341. Epub 2017 Apr 27.

5. Kakuta E, Nomura Y, Morozumi T, Nakagawa T, Nakamura T, Noguchi K, Yoshimura A, Hara Y, Fujise O, Nishimura F, Kono T, Umeda M, Fukuda M, Noguchi T, Yoshinari N, Fukaya C, Sekino S, Numabe Y, Sugano N, Ito K, Kobayashi H, Izumi Y, Takai H, Ogata Y, Takano S, Minabe M, Makino-Oi A, Saito A, Abe Y, Sato S, Suzuki F, Takahashi K, Sugaya T, Kawanami M, Hanada N, Takashiba S, Yoshie H. Assessing the progression of chronic periodontitis using subgingival pathogen levels: a 24-month prospective multicenter cohort study. BMC Oral Health. 2017 Jan 16; 17(1): 46.
6. Okamoto M, Naito M, Miyanochara M, Imai S, Nomura Y, Saito W, Momoi Y, Takada K, Miyabe-Nishiwaki T, Tomonaga M, Hanada N. Complete genome sequence of *Streptococcus troglodytae* TKU31 isolated from the oral cavity of a chimpanzee (*Pan troglodytes*). Microbiol Immunol. 2016 Dec; 60(12): 811–816.
7. Morozumi T, Nakagawa T, Nomura Y, Sugaya T, Kawanami M, Suzuki F, Takahashi K, Abe Y, Sato S, Makino-Oi A, Saito A, Takano S, Minabe M, Nakayama Y, Ogata Y, Kobayashi H, Izumi Y, Sugano N, Ito K, Sekino S, Numabe Y, Fukaya C, Yoshinari N, Fukuda M, Noguchi T, Kono T, Umeda M, Fujise O, Nishimura F, Yoshimura A, Hara Y, Nakamura T, Noguchi K, Kakuta E, Hanada N, Takashiba S, Yoshie H. Salivary pathogen and serum antibody to assess the progression of chronic periodontitis: a 24-mo prospective multicenter cohort study. J Periodontal Res. 2016 Dec; 51(6): 768–778.
8. Nomura Y, Okada A, Kakuta E, Gunji T, Kajiura S, Hanada N. A new screening method for periodontitis: an alternative to the community periodontal index. BMC Oral Health. 2016 Jun 2;16(1): 64.
9. Murata T, Hanada N. Contribution of chloride channel permease to fluoride resistance in *Streptococcus mutans*. FEMS Microbiol Lett. 2016 Jun;363(11). pii: fnw101.
10. Shiozawa K, Ohnuki Y, Mototani Y, Umeki D, Ito A, Saeki Y, Hanada N, Okumura S. Effects of food diameter on bite size per mouthful and chewing behavior. J Physiol Sci. 2016 Jan;66(1): 93–8.

#### 山越康雄

1. (\*9) Niwa T., Yamakoshi Y., Yamazaki H., Karakida T., Chiba R., Hu JC-C., Nagano T., Yamamoto R., Simmer JP., Margolis HC., Gomi K.: The dynamics of TGF- $\beta$  in dental pulp, odontoblasts and dentin. Sci Rep., 2018. (in press)
2. Yamazaki H., Beniash E., Yamakoshi Y., Simmer JP., Margolis HC.: Protein phosphorylation and mineral binding affect the secondary structure of the leucine-rich amelogenin peptide. Front Physiol., 2017; 8:450
3. Kwak SY., Litman A., Margolis HC., Yamakoshi Y., Simmer JP.: Biomimetic enamel regeneration mediated by leucine-rich amelogenin peptide. J Dent Res., 2017; 96(5): 524–530.
4. (\*9) 山越康雄: 象牙質シアロリントタンパク質(DSPP). 鶴見歯学, 2017; 43(1): 1–11.
5. (\*9) Yamamoto R., Yamakoshi Y.: Dentin sialophosphoprotein-derived proteins in porcine pulp and dentin – Gene expression and function –. J Oral Biosci., 2016; 58(4): 120–127.
6. 小林一行, 丹羽堯彦, 山川駿次郎, 齊藤まり, 山崎泰志, 細矢哲康, 五味一博, 山越康雄: hPDL 細胞に対する Er:YAG レーザーの照射効果. 日本レーザー学会誌, 2017; 27(3): 84–89.
7. Shimazaki E., Karakida T., Yamamoto R., Kobayashi S., Fukae M., Yamakoshi Y., Asada Y.: TGF- $\beta$  and physiological root resorption of deciduous teeth. Int J Mol Sci., 2016; 18(1) pii: E49. doi: 10.3390/ijms18010049.
8. Kobayashi-Kinoshita S., Yamakoshi Y., Onuma K., Yamamoto R., Asada Y. (2016) TGF- $\beta$  autocrine signalling and enamel matrix components. Sci Rep. 6:33644 doi:10.1038/srep33644.
9. Ujiie Y., Karakida T., Yamakoshi Y., Oshima T., Gomi K., Oida S.: Interleukin-4 released from human gingival fibroblasts reduces osteoclastogenesis. Arch Oral Biol., 2016; 72:187–193. doi: 10.1016/j.archoralbio.
10. Zhang J., Shirai M., Yamamoto R., Yamakoshi Y., Oida S., Ohkubo C., Zeng J.: Effect of Nerve

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

Growth Factor on Osseointegration of Titanium Implants in Type 2 Diabetic Rats. *Int J Oral Maxillofac Implants.*, 2016; 31(5):1189–1194. doi:10.11607/jomi.4455.

11. Shirai M., Yamamoto R., Chiba T., Komatsu K., Shimoda S., Yamakoshi Y., Oida S., Ohkubo C.: Bone augmentation around a dental implant using demineralized bone sheet containing biologically active substances. *Dent Mater J.*, 2016; 35(3):470–8. doi:10.4012/dmj.2016-026.
12. Kwak SY., Yamakoshi Y., Simmer JP., Margolis HC.: MMP20 proteolysis of native amelogenin regulates mineralization in vitro. *J Dent Res.*, 2016; 95(13):1511–1517.
13. Wang SK., Hu Y., Yang J., Smith CE., Richardson AS., Yamakoshi Y., Lee YL., Seymen F., Koruyucu M., Gencay K., Lee M., Choi M., Kim JW., Hu JC., Simmer JP.: Fam83h null mice support a neomorphic mechanism for human ADHCAI. *Mol Genet Genomic Med.*, 2015; 4(1):46–67. doi: 10.1002/mgg3.178.
14. (\*9) Yamamoto R, Oida S, Yamakoshi Y.: Dentin sialophosphoprotein-derived proteins in the dental pulp. *J Dent Res.*, 2015; 94(8): 1120–7. doi:10.1177/0022034515585715.
15. Matsuzawa M., Arai C., Nomura Y., Murata T., Yamakoshi Y., Oida S., Hanada N., Nakamura Y.: Periostin of human periodontal ligament fibroblasts promotes migration of human mesenchymal stem cell through the  $\alpha\beta$  integrin/FAK/PI3K/Akt pathway. *J Periodontal Res.*, 2015; 50(6): 855–63. doi:10.1111/jre.12277.
16. Papagerakis P., Pannone G., Zhang LI., Athanassiou-Papaefthymiou M., Yamakoshi Y., McGuff HS., Shkeir O., Ghirtis K., Papagerakis S.: Clinical significance of kallikrein-related peptidase-4 in oral cancer. *Anticancer Res.*, 2015; 35(4): 1861–6.

#### 佐藤秋絵

1. Kawasaki K., Mikami M., Nakatomi M., Braasch I., Batzel P., H Postlethwait J., Sato A., Sasagawa I., Ishiyama M.: SCPP Genes and Their Relatives in Gar: Rapid Expansion of Mineralization Genes in Osteichthyans. *J. Exp. Zool. B. Mol. Dev. Evol.*, 2017 Nov;328(7): 645–665.
2. Terai Y., Miyagi R., Aibara M., Mizoiri S., Imai H., Okitsu T., Wada A., Takahashi-Kariyazono S., Sato A., Tichy H., Mrosso H.D.J., Mzighani S.I., Okada N.: Visual adaptation in Lake Victoria cichlid fishes: depth-related variation of color and scotopic opsins in species from sand/mud bottoms. *BMC Evol. Biol.*, 2017 Aug 22; 17(1): 200.
3. Hara Y., Wake K., Inoue K., Kuroda N., Sato A., Inamatsu M., Tateno C., Sato T.: Development of the Heart Endocardium at an Early Stage of Chick Embryos Evaluated at Light- and Electron-Microscopic Levels. *Anat Rec (Hoboken).*, 2016 Aug;299(8): 1080–9.

#### 中村誠司

1. Sumida T., Azuma N., Moriyama M., Hagiwara S., Takahashi H., Asashima H., Honda F., Abe S., Ono Y., Hirota T., Hirata S., Tanaka Y., Shimizu T., Nakamura H., Kawakami A., Sano H., Ogawa Y., Tsubota K., Ryo K., Saito I., Tanaka A., Nakamura S., Takamura E., Tanaka M., Suzuki K., Takeuchi T., Yamakawa N., Ohta A., Mimori T., Nishiyama S., Yoshihara T., Suzuki Y., Kawano M., Tomiita M., Tsuboi H.: Clinical practice guideline for Sjögren's syndrome 2017. *Mod Rheumatol.*, 2018. in press.
2. Furukawa S., Oobu K., Moriyama M., Kawano S., Sako S., Hayashida JN., Matsubara R., Ogata K., Kiyoshima T., Nakamura S.: Oral Methotrexate-related Lymphoproliferative Disease Presenting with Severe Osteonecrosis of the Jaw: A Case Report and Literature Review. *Intern Med.*, 2018; 57(4): 575–581. DOI: 10.2169/internalmedicine.8946-17.
3. Ogata K., Matsumura M., Moriyama M., Katagiri W., Hibi H., Nakamura S.: Cytokine mixtures mimicking secretomes from mesenchymal stem cells improve medication-related osteonecrosis of the jaw in a rat model. *JBMR plus.*, 2017; in press. DOI: 10.1002/jbm4.10013.
4. (\*35) Takahashi H, Tsuboi H, Asashima H, Hirota T, Kondo Y, Moriyama M, Matsumoto I, Nakamura S, Sumida T.: cDNA microarray analysis identifies NR4A2 as a novel molecule involved in the pathogenesis of Sjögren's syndrome. *Clin Exp Immunol.*, 2017; in press. DOI: 10.1111/cei.13000.
5. Kubota K., Moriyama M., Furukawa S., Haque R ASM., Maruse Y., Jinno T., Tanaka A., Ohta M., Ishiguro N., Yamauchi M., Sakamoto M., Maehara T., Hayashida JN., Kawano S., Kiyoshima T., Nakamura S.: CD163<sup>+</sup>CD204<sup>+</sup> tumor-associated macrophages contribute to T cell regulation via

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- interleukin-10 and PD-L1 production in oral squamous cell carcinoma. *Sci Rep.*, 2017; 7:1755. DOI: 10.1038/s41598-017-01661-z.
6. (\*39) Tsuboi H., Hagiwara S., Asashima H., Takahashi H., Hirota T., Noma H., Umehara H., Kawakami A., Nakamura H., Sano H., Tsubota K., Ogawa Y., Takamura E., Saito I., Inoue H., Nakamura S., Moriyama M., Takeuchi T., Tanaka Y., Hirata S., Mimori T., Matsumoto I., and Sumida T.: Comparison of performance of the 2016 ACR-EULAR classification criteria for primary Sjögren's syndrome with other sets of criteria in Japanese patients. *Ann Rheum Dis.*, 2017. in press. DOI: 10.1136/annrheumdis-2016-210758.
  7. Yamauchi M., Moriyama M., Hayashida JN., Maehara T., Ishiguro N., Kubota K., Furukawa S., Ohta M., Sakamoto M., Tanaka A., Nakamura S.: Myeloid dendritic cells stimulated by thymic stromal lymphopoietin promote Th2 immune responses and the pathogenesis of oral lichen planus. *PLoS ONE.*, 2017. 12(3): e0173017. DOI: 10.1371/journal.pone.0173017.
  8. Furukawa S., Moriyama M., Miyake K., Nakashima H., Tanaka A., Maehara T., Iizuka-Koga M., Tsuboi H., Hayashida JN., Ishiguro N., Yamauchi M., Sumida T., and Nakamura S.: Interleukin-33 produced by M2 macrophages and other immune cells contribute to Th2 immune reaction of IgG4-related disease. *Sci Rep.*, 2017; 7:42413. DOI: 10.1038/srep42413.
  9. Moriyama M. and Nakamura S.: Th1/Th2 immune balance and other T helper subsets in IgG4-Related Disease. *Curr Top Microbiol Immunol.*, 2017; 401:75-83. DOI: 10.1007/82\_2016\_40.
  10. Maehara T., Mattoo H., Ohta M., Mahajan VS., Moriyama M., Yamauchi M., Drijvers J., Nakamura S., Stone JH., Pillai SS.: Lesional CD4+ IFN  $\gamma$  cytotoxic T lymphocytes in IgG4-related dacryoadenitis and sialoadenitis. *Ann Rheum Dis.*, 2017. 76(2):377-385, DOI: 10.1136/annrheumdis-2016-209139.
  11. (\*29) Imabayashi Y., Moriyama M., Takeshita T., Ieda S., Hayashida JN., Tanaka A., Maehara T., Furukawa S., Ohta M., Kubota K., Yamauchi M., Ishiguro N., Yamashita Y., Nakamura S.: Molecular analysis of fungal populations in patients with oral candidiasis using next-generation sequencing. *Sci Rep.*, 2016; 6:28110. DOI: 10.1038/srep28110.
  12. (\*35) Ohta M., Moriyama M., Maehara T., Gion Y., Furukawa S., Tanaka A., Hayashida JN., Yamauchi M., Ishiguro N., Mikami Y., Tsuboi H., Iizuka-Koga M., Kawano S., Sato Y., Kiyoshima T., Sumida T., Nakamura S.: DNA microarray analysis of submandibular glands in IgG4-related disease indicates a role for MARCO and other innate immune related proteins. *Medicine.*, 2016; 95(7):e2853. DOI: 10.1097/MD.0000000000002853.
  13. Moriyama M., Ohta M., Furukawa S., Mikami Y., Tanaka A., Maehara T., Yamauchi M., Ishiguro N., Hayashida JN., Kawano S., Ohya Y., Kiyoshima T., Nakamura S.: The diagnostic utility of labial salivary gland biopsy in IgG4-related disease. *Mod Rheumatol.*, 2016; 26(5):725-9. DOI: 10.3109/14397595.2016.1148225.
  14. Shimizu M., Okamura K., Kise Y., Takeshita Y., Furuhashi H., Weerawanich W., Moriyama M., Ohya Y., Furukawa S., Nakamura S., Yoshiura K.: Effectiveness of imaging modalities for screening IgG4-related dacryoadenitis and sialadenitis (Mikulicz's disease) and for differentiating it from Sjögren's syndrome (SS), with an emphasis on sonography. *Arthritis Res Ther.*, 2015; 17:223. DOI: 10.1186/s13075-015-0751-x.
  15. Hayashi Y., Moriyama M., M Takashi., Goto Y., Kawano S., Ohta M., Tanaka A., Furukawa S., Hayashida JN., Kiyoshima T., Shimizu M., Chikui T., Nakamura S.: A case of mantle cell lymphoma presenting as IgG4-related dacryoadenitis and sialoadenitis, so-called Mikulicz's disease. *World J Surg Oncol.*, 2015; 13:225. DOI: 10.1186/s12957-015-0644-0.
  16. Maehara T., Moriyama M., Kawano S., Hayashida JN., Furukawa S., Ohta M., Tanaka A., Yamauchi M., Ohya Y., Kiyoshima T., Nakamura S.: Cytokine profiles contribute to understanding the pathogenic difference between Good syndrome and oral lichen planus: two case report and literature review. *Medicine.*, 2015; 94(14):e704. DOI: 10.1097/MD.0000000000000704.
  17. Ohta M., Moriyama M., Goto Y., Kawano S., Tanaka A., Maehara T., Furukawa S., J Hayashida JN., Kiyoshima T., Shimizu M., Arinobu Y., Nakamura S.: A case of marginal zone B cell lymphoma

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

mimicking IgG4-related dacryoadenitis and sialoadenitis. *World J Surg Oncol.*,2015; 13:67. DOI: 10.1186/s12957-015-0459-z.

18. Furukawa S., Moriyama M., Kawano S., Tanaka A., Maehara T., Hayashida JN., Goto Y., Kiyoshima T., Shiratsuchi H., Ohya Y., Ohta M., Imabayashi Y., Nakamura S.: Clinical relevance of Küttner tumour and IgG4-related dacryoadenitis and sialoadenitis. *Oral Dis.*, 2015; 21: 257-262. DOI: 10.1111/odi.12259.
19. (\*28) Ohya K., Moriyama M., Hayashida JN., Tanaka A., Maehara T., Ieda S., Furukawa S., Ohta M., Imabayashi Y., Nakamura S.: Saliva as a potential tool for diagnosis of dry mouth including Sjögren's syndrome. *Oral Dis.*, 2015; 21: 224-231. DOI: 10.1111/odi.12252.
20. (\*39) Hayashida JN., Minami S., Moriyama M., Toyoshima T., Shinozaki S., Tanaka A., Maehara T., Nakamura S.: Differences of stimulated and unstimulated salivary flow rates in the patients with dry mouth. *J Oral Maxillofac Surg Med Pathol.*, 2015; 27(1):96-101.
21. Furukawa S., Moriyama M., Tanaka A., Maehara T., Tsuboi H., Iizuka M., Hayashida JN., Ohta M., Saeki T., Notohara K., Nakamura S.: Preferential M2 macrophages contribute to fibrosis in IgG4-related dacryoadenitis and sialoadenitis, so-called Mikulicz's disease. *Clin Immunol.*, 2015; 156:9-18. DOI: 10.1016/j.clim.2014.10.008.
22. (\*29) Ieda S., Moriyama M., Takeshita T., Maehara T., Imabayashi Y., Shinozaki S., Tanaka A., Hayashida JN., Furukawa S., Ohta M., Yamashita Y., Nakamura S.: Molecular analysis of fungal populations in patients with oral candidiasis using internal transcribed spacer region. *PLoS ONE.*,2014; 30:9(6):e101156. DOI: 10.1371/journal.pone.0101156.

#### 豊福明

1. (\*33) Miura A., Tu TTH., Shinohara Y., Mikuzuki L., Kawasaki K., Sugawara S., Suga T., Watanabe T., Watanabe M., Umezaki Y., Yoshikawa T., Motomura H., Takenoshita M., Maeda H., Toyofuku A.: Psychiatric comorbidities in patients with Atypical Odontalgia. *J Psychosom Res.*, 2018 Jan.;104: 35-40. doi: 10.1016/j.jpsychores.2017.11.001. Epub 2017 Nov 7. PMID: 29275783.
2. (\*12) (\*34) Sugawara S., Okada S., Katagiri A., Saito H., Suzuki T., Komiya H., Kanno K., Ohara K., Iinuma T., Toyofuku A., Iwata K.: Interaction between calcitonin gene-related peptide-immunoreactive neurons and satellite cells via P2Y(12) R in the trigeminal ganglion is involved in neuropathic tongue pain in rats. *Eur J Oral Sci.*, 2017 Dec.;125(6):444-452. doi: 10.1111/eos.12382. Epub 2017 Oct 11. PMID: 29023985.
3. (\*33) Tu TTH., Miura A., Shinohara Y., Mikuzuki L., Kawasaki K., Sugawara S., Suga T., Watanabe T., Watanabe M., Umezaki Y., Yoshikawa T., Motomura H., Takenoshita M., Toyofuku A.: Evaluating Burning Mouth Syndrome as a Comorbidity of Atypical Odontalgia: The Impact on Pain Experiences. *Pain Pract.*, 2017 Oct 3. doi:10.1111/papr.12647. PMID: 28972293.
4. (\*12) (\*34) Mikuzuki L., Saito H., Katagiri A., Okada S., Sugawara S., Kubo A., Ohara K., Lee J., Toyofuku A., Iwata K. : Phenotypic change in trigeminal ganglion neurons associated with satellite cell activation via extracellular signal-regulated kinase phosphorylation is involved in lingual neuropathic pain. *Eur J Neurosci.*, 2017 Aug 23. doi: 10.1111/ejn.13667. PMID: 28834578.
5. (\*31) Takenoshita M., Miura A., Shinohara Y., Mikuzuki R., Sugawara S., Tu TTH., Kawasaki K., Kyuragi T., Umezaki Y., Toyofuku A.: Clinical features of atypical odontalgia; three cases and literature reviews. *Biopsychosoc Med.*, 2017 Aug 3;11:21. doi:10.1186/s13030-017-0106-8. eCollection 2017. PMID: 28785306; PMCID: PMC5541751.
6. Matsuoka H., Chiba I., Sakano Y., Toyofuku A., Abiko Y.: Cognitive behavioral therapy for psychosomatic problems in dental settings. *Biopsychosoc Med.*, 2017 Jun 13;11:18. doi: 10.1186/s13030-017-0102-z. eCollection 2017 Review. PMID: 28630646; PMCID: PMC5470220.
7. (\*30) Umezaki Y., Uezato A., Toriihara A., Nishikawa T., Toyofuku A.: Two Cases of Oral Somatic Delusions Ameliorated With Brain Perfusion Asymmetry. A Case Report. *Clin Neuropharmacol.*, 2017 Mar/Apr;40(2):97-99. doi: 10.1097/WNF.000000000000207. PMID: 28225385; PMCID: PMC5349303.
8. (\*31) Takenoshita M., Motomura H., Toyofuku A.: Low-Dose Aripiprazole Augmentation in

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

Amitriptyline-Resistant Burning Mouth Syndrome: Results from Two Cases. Pain Med., 2017 Apr 1;18(4):814-815. doi: 10.1093/pm/pnw200. PMID: 27558854.

9. (\*30) Umezaki Y., Miura A., Watanabe M., Takenoshita M., Uezato A., Toriihara A., Nishikawa T., Toyofuku A.: Oral cenesthopathy. Biopsychosoc Med., 2016 Jun 10;10:20. doi: 10.1186/s13030-016-0071-7. Review. PMID: 27293481; PMCID: PMC4903001.

10. (\*31) Umezaki Y., Takenoshita M., Toyofuku A.: Low-dose aripiprazole for refractory burning mouth syndrome. Neuropsychiatr Dis Treat., 2016 May 19;12:1229-31. doi:10.2147/NDT.S94426. PMID: 27279742; PMCID: PMC4878659.

11. (\*30) (\*40) Toyofuku A. Psychosomatic problems in dentistry. Biopsychosoc Med., 2016 Apr. 30;10:14. doi: 10.1186/s13030-016-0068-2. Review. PMID: 27134647; PMCID: PMC4851772.

12. (\*30) Watanabe M., Umezaki Y., Miura A., Shinohara Y., Yoshikawa T., Sakuma T., Shitano C., Katagiri A., Takenoshita M., Toriihara A., Uezato A., Nishikawa T., Motomura H., Toyofuku A.: Comparison of cerebral blood flow in oral somatic delusion in patients with and without a history of depression: a comparative case series. BMC Psychiatry., 2015 Mar 10 ;15:42. doi: 10.1186/s12888-015-0422-0. PMID: 25886053; PMCID: PMC4364484.

13. (\*33) Watanabe M., Umezaki Y., Suzuki S., Miura A., Shinohara Y., Yoshikawa T., Sakuma T., Shitano C., Katagiri A., Sato Y., Takenoshita M., Toyofuku A.: Psychiatric comorbidities and psychopharmacological outcomes of phantom bite syndrome. J Psychosom Res., 2015 Mar;78(3):255-9. doi: 10.1016/j.jpsychores.2014.11.010. PMID: 25477300.

#### <図書>

齋藤一郎、梁洪淵

1. 齋藤一郎：不老は口から。電子免疫治療研究会 3: 1 11-15, 2017.
2. 齋藤一郎(分担)：歯周病を自分で治す最強療法, 株式会社マキノ出版, 2017.
3. 梁洪淵, 齋藤一郎(分担)：機能性食品 DATA BOOK 3 歯科領域. メディカルレビュー社, 2016.
4. 齋藤一郎(分担)：『臨床のみかたシリーズ』新訂版 知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療—歯科医療につながる医学知識—, 株式会社永末書店, 2017.
5. 梁洪淵, 齋藤一郎(分担)：シェーグレン症候群診療ガイドライン 2017 年版, 株式会社診断と治療社, 2017.
6. 齋藤一郎(編著・分担)：超高齢社会におけるドライマウスへの対応—いま、ドライマウスにどう取り組むべきか. 株式会社ヒョーロン・パブリッシャーズ, 2017.
7. 梁洪淵, 齋藤一郎(分担)：ドクターが教える あなたのカラダとサプリメント. メディカルレビュー社, 2016.
8. 齋藤一郎(監修・分担)：ドライシンドロームの基礎と臨床. メディカルレビュー社, 2016.
9. 齋藤一郎：幸せを引き寄せる笑顔の法則. 誠文堂新光社, 2016.
10. 齋藤一郎(編集・監修・分担), 梁洪淵(分担)：アンチエイジング医学 基礎と臨床 第3版. メジカルビュー社, 2016.
11. 齋藤一郎(分担)：健康に長生きしたければ1日1曲歌いなさい. 株式会社アスコム, 2015.
12. 齋藤一郎(分担)：ラジオ深夜便 新珠玉のことば ～ラジオが教えてくれた名言 100～. 一般財団法人 NHK サービスセンター, 2015.
13. 齋藤一郎(分担)：第3版 EB ウイルス 自己免疫疾患(関節リウマチ、Sjogren 症候群). 診断と治療社, 2015.
14. 梁 洪淵, 齋藤一郎(分担)：コエンザイム Q10 の基礎と応用 応用編 9 口腔疾患. 丸善プラネット株式会社, 2015.
15. 齋藤一郎(分担)：非侵襲的検体検査の最前線—唾液検査・呼気検査を中心に—. シーエムシー出版, 2015.

早川徹

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

1. (\*37)福島忠男, 大野 純, 鍛冶屋浩, 御手洗 誠, 早川 徹: 歯科再生・修復医療と材料, サケ由来骨再生材料. シーエムシー出版, 2015 年.

朝田芳信、船山ひろみ

1. 朝田芳信, 船山ひろみ: 第 II 章 多職種の専門分野の強みを生かす保健指導, 論点 4 う蝕に対する事業評価の活用・う蝕以外の歯科保健活動. 標準的な乳幼児健康診査モデル作成に向けた提言. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)【成育疾患等総合研究事業】乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究班(代表研究者 山崎嘉久), P10, 2016 年 3 月.
2. 朝田芳信, 船山ひろみ: 第 II 章 多職種の専門分野の強みを生かす保健指導, 論点 4 う蝕に対する事業評価の活用・う蝕以外の歯科保健活動. 乳幼児期健康診査における保健指導と評価の標準的な考え方 全国調査データと標準的な乳幼児健康診査モデル作成のための論点整理. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)【成育疾患等総合研究事業】乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究班(代表研究者 山崎嘉久), P31-35, 2016 年 3 月.
3. 成山明具美: 子どもの患者の治療・対応に上手くなろう-乳幼児の外科的処置①局所麻酔時の対応. 日本歯科評論増刊, 朝田芳信, ヒョーロン・パブリッシャーズ, 62-63, 2015.
4. 成山明具美: 子どもの患者の治療・対応に上手くなろう-10 乳幼児の治療を安全に行うためのポイント①薬剤, 日本歯科評論増刊, 朝田芳信, ヒョーロン・パブリッシャーズ, 68-69, 2015.
5. 船山ひろみ: I 乳幼児期(乳歯列期)の子どもの治療と対応のポイント, 10.乳幼児の治療を安全に行うためのポイント, ②アレルギー. 子どもの患者の治療・対応に上手くなろう! 各成長ステージにおける対応ポイント(朝田芳信 編著). 株式会社ヒョーロン・パブリッシャーズ, 東京, p. 68-69, 2015.
6. 船山ひろみ, 熊谷賢一: II 学童期(混合歯列期)の子どもの治療と対応のポイント, 8.学童期の歯科小手術, -軟組織:小帯・粘液嚢胞/硬組織:上顎正中過剰埋伏歯・歯牙腫. 子どもの患者の治療・対応に上手くなろう! 各成長ステージにおける対応ポイント(朝田芳信 編著). 株式会社ヒョーロン・パブリッシャーズ, 東京, p. 122-131, 2015.

小川匠

1. 分担:「顎運動の測り方」(重本修伺),「顎運動の標準データ」(重本修伺),「顎運動モデル」(小川 匠, 井川知子),「顎運動をどう評価するか」(平林里大, 小川 匠),「下顎限界運動」(重本修伺),「顎運動のパラメータ」(重本修伺),「機能時の咬合接触」(小川 匠, 重本修伺),「アンテリアガイドランス」(重本修伺): 新 よくわかる顎口腔機能 咬合・摂食嚥下・発音を理解する 日本顎口腔機能学会編 医歯薬出版, 2017.
2. 小川 匠, 井川 知子(分担): デジタルデンティストリー シミュレーションとナビゲーション 111-118, 永末書店, 2015.

濱田良樹、山田浩之

1. 和気 裕之, 澁谷 智明, 岡本 俊宏, 築山 能大, 小見山 道, 和嶋 浩一, 濱田 良樹, 塚原 宏泰, 島田 淳, 依田 哲也, 儀武 啓幸, 五十嵐 千浪, 玉置 勝司, 高野 直久, 佐藤 文明: 一般歯科臨床での顎関節脱臼への対処法 古谷野 潔(日本顎関節学会), 歯界展望, 138-150(2017.07)
2. 濱田良樹: 第 3 章 口腔外科疾患総論, ⑩顎関節疾患, IV 炎症, V 腫瘍および腫瘍類似疾患, VI 顎関節強直症: 最新口腔外科学 第 5 版: 榎本昭二, 道 健一, 天笠光雄, 小村 健 監修; 又賀 泉, 森田章介, 杉山芳樹, 大木秀郎, 柴原孝彦, 依田哲也, 原田浩之, 原田 清 編集: 医歯薬出版株式会社, 東京, P397-403, 2017.
3. 水城春美, 山田浩之(分担執筆, 共著): 高齢者に多くみられる疾患と病態 II 高齢者に多い症候. 榎本昭二, 道健一, 天笠光雄, 小村 健監修, 最新口腔外科学第 5 版. 医歯薬出版株式会社, P446~447, 2017.
4. 山田浩之, 濱田良樹(分担執筆, 共著): 付章 III 手術各論 6 唾液腺の手術, 栗田賢一, 覚道健治編集, SIMPLE TEXT 口腔外科の疾患と治療 第 4 版. 永末書店, P437~439, 2016.
5. 山田浩之, 濱田良樹. (分担執筆, 共著): VIII 唾液腺疾患, 栗田賢一, 覚道健治編集, SIMPLE TEXT 口腔外科の疾患と治療 第 4 版. 永末書店, P242~260, 2016.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

6. 濱田良樹: 第 IV 章 4 細径硬性関節鏡を用いた病態診断と顎関節有視下洗浄療法: カラーアトラス顎関節外科の手術手技—パンピングから関節鏡,円板切除,全置換術まで—(村上賢一郎, 近藤壽郎, 瀬上夏樹 監著). クインテッセンス出版株式会社, 東京, P78-83, 2016.
  7. 熊谷賢一, 濱田良樹: 3 唾液腺疾患 5 外傷, 6 異物:口腔内科学(山根源之, 草間幹夫, 久保田英朗 編集主幹). 永末書店, 京都, P430-435, 2016.
  8. 山田浩之, 濱田良樹: VIII 唾液腺疾患: 第4版 SIMPLE TEXT 口腔外科の疾患と治療(栗田賢一, 覚道健治 編集主幹). 永末書店, 京都, P242-260, 2016.
  9. 山田浩之, 濱田良樹: 付章 III 手術各論 6.唾液腺の手術: 第4版 SIMPLE TEXT 口腔外科の疾患と治療(栗田賢一, 覚道健治 編集主幹). 永末書店, 京都, P437-439, 2016.
  10. 濱田良樹: 第 3 章 顎関節症の治療 II.顎関節症の治療法 6.外科療法: 顎関節症診療ハンドブック(本田和也, 松本邦史, 小林 馨, 新井嘉則 編). メディア株式会社, 東京, P118-119, 2016.
  11. 山田浩之, 濱田良樹(分担執筆、共著): 第 4 章 外科的侵襲の病態生理と患者管理, B 患者の評価および管理, 野間弘康, 瀬戸暁一監修, 標準口腔外科学 第 4 版. 医学書院 P67~75, 2015.
  12. 濱田良樹, 山田浩之(分担執筆、共著): Chapter 5 難抜歯, (坂下英明編著), 抜歯テクニックコンプリートガイド, クインテッセンス出版 P109~134, 2015.
- 前田伸子
1. 前田伸子(共著): 口腔カンジダ症治療指針: 第1章 口腔カンジダの基礎. 日本歯科薬物療法学会 口腔カンジダ症薬物療法ガイドライン制定委員会編, 医歯薬出版, 2016年3月.
- 下田信治
1. 磯川桂太郎, 下田信治, 山本 仁 編著: カラーアトラス 口腔組織発生学 第4版. わかば出版, 2016.
- 奥村敏
1. 奥村敏他(共著): スタディ生理学・口腔生理学. 永末書店, 2018年4月出版(予定)
  2. 石川義弘, 岡村康司, 尾仲達史, 河野憲二監訳, 奥村敏他(共訳): ガイトン生理学原著第13版. エルゼビア・ジャパン株式会社, 2018年3月出版(予定)
  3. 奥村敏他(共著): 生理学問題集(CBT 準拠) 日本生理学会 教育委員会編, 文光堂, 2015年12月.
- 花田信弘
1. 花田信弘: 歯周病が寿命を縮める. 法研, 2017.
  2. (\*26)花田信弘監著: 歯科発アクティブライフプロモーション 21—健康増進からフレイル予防まで. デンタル・ダイヤモンド社, 2017.
- 中村誠司
1. 中村誠司: 口腔乾燥症(ドライマウス)について①, ②. 健康教室 798(3): 78-81, 86-89, 2017.
  2. 中村誠司: IX口腔乾燥 93 唾液. 永末書店 一般社団法人日本口腔ケア学会編: 口腔ケア基礎知識, pp274-276, 2017.
  3. 中村誠司: IIドライマウスはどのような病気か? 鑑別すべき疾患とは? ~原因別に考えるドライマウスの診断~ 超高齢社会におけるドライマウスへの対応 いま、ドライマウスにどう取り組むべきか~. 株式会社ヒョーロン・パブリッシャーズ, pp17-28, 2017
  4. 中村誠司: 口腔乾燥. 医学書院 夏目長門,池上由美子編: 治療を支える. がん患者の口腔ケア(第4章,4-1), pp53-61, 2017.
  5. 中村誠司: シェーグレン症候群の疑いのある患者さんには, 眼科と膠原病内科のどちらを先に受診してもらえばよいのでしょうか? あの特集, ココをもっと知りたい. 歯科衛生士 40(3):42, 2016.
  6. 中村誠司: 口腔粘膜疾患, 嚢胞・腫瘍の手術(前癌病変の生検), こんな偶発症にどう対処するか(ドライソケット), こんな偶発症にどう対処するか(異物誤嚥) 医歯薬出版 角 保徳, 樋口勝規, 梅村長生, 柴原孝彦編:臨床口腔外科学:一からわかる診断から治療 2016, 286-289, 367-369, 377-378, 382-385.
  7. Moriyama M, Nakamura S: 「IgG4-Related Kidney Disease」Saito T, Stone JH, Nakashima H, Saeki T, Kawano M 編:Part I. General Remarks Potential Pathways in the Pathogenesis of

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

IgG4-Related Disease. 43-54, Springer 社, 2016. (DOI: 10.1007/978-4-431-55687-9).

- 森山 雅文, 中村 誠司: 「臨床免疫・アレルギー科 第 67 巻 第 4 号」IgG4 関連疾患の病態形成における自然免疫活性化機構. 337-342, 科学評論社, 2017.
- 中村誠司: シェーグレン症候群(坪田一郎, 斎藤一郎監修): ドライシンドロームの基礎と臨床. メディカルビュー社, 171-180, 2016.
- 森山雅文, 中村誠司: Th2 細胞・制御性 T 細胞と IgG4 関連疾患 (1), 「IgG4 関連疾患 実践的臨床から病因へ」中村誠司, 住田孝之 編 144-149 頁, 前田書店, 2015.
- 中村誠司: ドライマウスはどのような病気か? 鑑別すべき疾患とは? ~原因別に考えるドライマウスの診断. 日本歯科評論, 75(3):37-46, 2015.
- 中村誠司: 他のドライマウスとどう違う? どう気をつける? シェーグレン症候群, 歯科衛生士 39(3):70-80, 2015.
- 篠崎昌一, 森山雅文, 林田淳之將, 田中昭彦, 前原隆, 古川祥子, 太田美穂, 今林佑美, 中村誠司: シェーグレン症候群に対する唾液分泌促進剤の有効性と副作用の検討 ~セビメリン塩酸塩とピロカルピン塩酸塩の比較~. 日口外誌, 61(3):147-153, 2015.
- 森山雅文, 中村誠司: IgG4 関連疾患の唾液腺病変における病態生理 -免疫学的異常を中心に-. 日サ会誌, 35:55-60, 2015.

豊福明

- 豊福 明, 吉川達也: 5 分でできる明るい歯科心身医学, 永末書店, 2017.
- 斎藤一郎, 阪井丘芳, 豊福 明, 中川洋一, 中村誠司: 超高齢社会におけるドライマウスへの対応, ヒョーロンパブリッシャーズ, 29-36, 2017.
- 豊福 明: 内科での投薬と歯科治療 4. 抗うつ薬(知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療)永末書店, 174-175, 2017.
- 豊福 明: 精神障害とその分類(スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科), 医歯薬出版, 147-155, 2017.
- 吉川達也, 豊福 明: 歯科(口腔)心身症(総論), 精神疾患との鑑別(口腔内科学), 永末書店, 518-522, 528-535, 2016.
- 豊福 明: 精神神経疾患とドライシンドローム・歯科心身症(ドライシンドロームの基礎と臨床)メディカルレビュー社, 181-185, 2016.

### <学会発表>

斎藤一郎、梁洪淵

- (\*3) 松本直行, 中山亮子, 斎藤一郎. 2型糖尿病に見られる唾液分泌障害成立機序の検討 -GlcNAc 修飾を介した腺組織傷害の関与-. 第 28 回 日本臨床口腔病理学会総会・学術大会, ウェスタ川越, 埼玉, 2017 年 8 月 24 日
- 金子三恵, 梁 洪淵, 中山亮子, 玉置洋, 斎藤一郎. エクオール含有大豆イソフラボンの唾液分泌に与える効果の検討. 第 17 回日本抗加齢医学会総会, 東京国際フォーラム, 東京, 2017 年 6 月 4 日
- (\*2) 中山亮子, 井上裕子, 金子三恵, 梁 洪淵, 伊藤正, 斎藤一郎. 早期閉経モデルマウスを用いた唾液分泌障害におけるミトコンドリアの解析. 第 17 回日本抗加齢医学会総会, 東京国際フォーラム, 東京, 2017 年 6 月 2 日
- 松本直行, 斎藤一郎. 変異特異的 LAMP 法による EGFR 及び KRAS 遺伝子変異の検出. 第 9 回日本口腔検査学会総会・学術大会, 奥羽大学, 福島, 2016 年 10 月 1 日~2 日
- 金子三恵, 梁 洪淵, 斎藤一郎. アンチエイジング外来における口腔と全身の老化度検査の解析. 第 9 回日本口腔検査学会・学術大会, 奥羽大学, 郡山, 2016 年 10 月 2 日
- Matsumoto N., Komiyama K., Saito I. Rapid detection of EGFR and KRAS gene mutation by mutation oriented LAMP method. 第 27 回 日本臨床口腔病理学会総会・学術大会, 広島大学 広仁会館, 広島, 2016 年 8 月 12 日
- 中山 亮子, 井上 裕子, 金子 三恵, 梁 洪淵, 斎藤 一郎. ミトコンドリアのエストロゲンを介した唾液分泌制御機構の検討. 第 16 回日本抗加齢医学会総会, パシフィコ横浜, 神奈川, 2016 年 6 月 10 日

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

8. 金子三恵, 梁 洪淵, 高橋啓, 小野博之, 小笠原智彦, 阿部道郎, 斎藤一郎. 花椒オイル含有カプセル型食品の唾液分泌効果の検討. 第8回日本口腔検査学会総会・学術大会, 神奈川歯科大学, 横須賀, 2015年10月4日
  9. 金子三恵, 梁 洪淵, 高橋啓, 小野博之, 小笠原智彦, 阿部道郎, 井上裕子, 斎藤一郎. ドライマウス患者に対する花椒オイル含有カプセル型食品の唾液分泌効果の検討. 第15回日本抗加齢医学会総会, 福岡国際会議場, 福岡, 2015年5月31日
- 早川徹
1. 徳江 藍, 三浦博己, 早川 徹, 木本克彦, 大久保力廣. 高強度多軸鍛造純チタンワイヤーの疲労寿命. 日本補綴歯科学会第124回学術大会, 大宮ソニックシティ, 2015年5月
  2. 荒井佑輔, 星憲幸, 斉田牧子, 石井康鉉, 熊坂知就, 林幸男, 栗原淳之, 三浦博己, 大久保力廣, 早川 徹, 木本克彦. MDF 純チタンの特性評価. 日本補綴歯科学会第124回学術大会, 大宮ソニックシティ, 2015年5月
  3. 吉田英史, 廣田正嗣, 新田馨子, 野本理恵, 早川 徹. 原子間力顕微鏡によるアパタイト薄膜の表面形状解析. 平成27年度鶴見大学歯学会第81回例会, 鶴見大学記念館, 2015年6月
  4. 松本 博郎, 英 將生, 山本 雄嗣, 早川 徹, 桃井 保子. 37°C1週間の保管条件が試作セルフエッチングプライマーの接着強さに及ぼす影響. 第142回日本歯科保存学会2015年度春季学術大会, 北九州・西日本総合展示場, 2015年6月
  5. 廣田正嗣, 新保秀仁, 大久保力廣, 遠山岳史, 早川 徹. フィブロネクチン固定化チタンインプラントの骨形成能. 第24回硬組織再生生物学会学術大会, 大阪歯科大学創立100周年記念館, 2015年8月
  6. (\*37)櫻井敏継, 早川 徹, 遠山岳史, 吉成正雄, 大久保力廣. チタンインプラントへのDNA/プロタミンレイヤー固定化が骨形成促進に与える影響. 第24回硬組織再生生物学会学術大会, 大阪歯科大学創立100周年記念館, 2015年8月
  7. 荒井佑輔, 星憲幸, 早川 徹, 大久保力廣, 木本克彦. 多軸鍛造加工純チタンのインプラント応用のための特性評価. 第45回日本口腔インプラント学会学術大会, 岡山コンベンションセンター, 2015年9月
  8. 深代祐五, 雨宮剛志, 中岡一敏, 早川 徹. ナノパルスレーザーにより微細加工されたチタンインプラント表面に対する骨形成および上皮付着. 第45回日本口腔インプラント学会学術大会, 岡山, 2015年9月
  9. 坪田有史, 廣田正嗣, 吉田英史, 新田馨子, 野本理恵, 土川益司, 大久保力廣, 早川 徹. 加熱処理の有無が支台築造用コンポジットレジン(注)の曲げ強さに及ぼす影響. 平成27年度秋期第66回日本歯科理工学会学術講演会, 東京・タワーホール船堀, 2015年10月
  10. 赤池 駿, 早川 徹, 平田 敦, 中村芳樹. フッ素またはケイ添加 DLC コーティングの静摩擦特性. 平成27年度秋期第66回日本歯科理工学会学術講演会, 東京・タワーホール船堀, 2015年10月
  11. 廣田正嗣, 吉田英史, 望月千尋, 佐藤光史, 早川 徹. 分子プレカーサー法によりチタンおよびジルコニア上形成させた炭酸含有アパタイト薄膜の比較. 平成27年度秋期第66回日本歯科理工学会学術講演会, 東京・タワーホール船堀, 2015年10月
  12. (\*37)櫻井敏継, 早川 徹, 遠山岳史, 吉成正雄, 大久保力廣. DNA/プロタミンレイヤー固定化チタンインプラントの骨形成能. 第37回日本バイオマテリアル学会大会, 京都テルサ, 2015年11月
  13. (\*37)櫻井敏継, 早川 徹, 大久保力廣. チタンインプラントへのDNA/プロタミンレイヤー固定化による骨形成促進効果. 平成27年度西関東・東関東支部合同学術大会, パシフィコ横浜, 2016年1月
  14. (\*37)櫻井敏継, 早川 徹, 大久保力廣. DNA/プロタミンレイヤー固定化チタンインプラントの骨形成促進効果. 平成28年度春期第67回日本歯科理工学会学術講演会, 九大医学部百年講堂, 2016年4月,
  15. 多田佳史, 早川 徹, 中村芳樹. PEEK 樹脂の矯正用ワイヤーとしての試作矯正用摩擦および3点曲げ試験機による評価. 平成28年度春期第67回日本歯科理工学会学術講演会, 九大医学部百年講堂, 2016年4月,
  16. (\*13)吉田英史, 草川 洋, 早川 徹. チタンおよびジルコニアの生体適合性に関するQCM解析.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- 平成 28 年度春期第 67 回日本歯科理工学会学術講演会,九大医学部百年講堂, 2016 年 4 月
17. 鈴木 一, 早川 徹. MDF チタンの骨適合性. 第 31 回日本歯科産業学会学術講演会, 大阪大学中之島センター, 2016 年 6 月
  18. 荒井佑輔, 星憲幸, 熊坂知就, 早川徹, 大久保力廣, 木本克彦. 多軸鍛造純チタンを用いたインプラント材料としての生物学的評価. 第 46 回日本口腔インプラント学会学術大会, 名古屋国際会議場, 2016 年 9 月
  19. Hirota M., Ohkubo C., Sato M., Toyama T., Tanaka Y., Hayakawa T. Development of thin apatite coated zirconia implant. International Dental Materials Congress 2016, Indonesia, 2016 年 11 月
  20. (\*13) Yoshida E., Hayakawa T. Monitoring of proein adsorption and apatite precipitation on titanium and zirconia by QCM method. International Dental Materials Congress 2016, Indonesia, 2016 年 11 月
  21. Suzuki H., Hirota M., Ohkubo C., Hoshi N., Kimoto K., Miuar H., Hayakawa T. Cortical Bone Response of MDF Titanium Implant. International Dental Materials Congress 2016, Indonesia, 2016 年 11 月
  22. Waki T., Mochizuki C., Sato M., Hayakawa T., Ohkubo C. Bone response to apatite paste derived from Ca-amino acid complex. International Dental Materials Congress 2016, Indonesia, 2016 年 11 月
  23. (\*37) Sakurai T., Yoshinari M., Toyama T., Hayakawa T., Ohkubo C. Bone response to multilayered DNA/protamine coated titanium implants. International Dental Materials Congress 2016, Indonesia, 2016 年 11 月
  24. Abe K., Honda M., Iohara K., Tajima Y., Kamata A., Kokaji S., Yamamoto T., Hayakawa T., Aizawa M. Preparation of calcium hydrogen phosphate loaded with protamine and its anti-bacterial property. International Dental Materials Congress 2016, Indonesia, 2016 年 11 月
  25. 阿部航大, 本田みちよ, 庵原啓司, 田島洋介, 鎌田 彰, 小梶 聡, 山本雄嗣, 早川 徹, 相澤守. プロタミン担持リン酸水素カルシウムの調製とその抗菌性. 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場, 2016 年 11 月
  26. 多田佳史, 早川 徹, 中村芳樹. 摩擦および 3 点曲げ試験による PEEK 樹脂の矯正用ワイヤーとしての評価. 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場, 2016 年 11 月
  27. (\*4) 脇 拓也, 櫻井敏継, 望月千尋, 佐藤光史, 早川 徹, 大久保力廣. Ca-アミノ酸錯体由来アパタイトペーストによる骨形成. 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場, 2016 年 11 月
  28. (\*4) 八木 亮, 廣田正嗣, 遠山岳史, 望月千尋, 佐藤光史, 早川 徹, 大久保力廣. Ca-CO<sub>3</sub>-PO<sub>4</sub> 三元系錯体水溶液スプレー法により形成されたアパタイト薄膜の性質. 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場, 2016 年 11 月
  29. 新田馨子, 野本理恵, 坪田有史, 土川益司, 早川 徹. 各種バルクフィルフロアブルレジンの諸物性について. 平成 29 年度春期第 69 回日本歯科理工学会学術講演会, 日本歯科大学, 2017 年 4 月
  30. (\*4) 八木 亮, 鈴木 一, 脇 拓也, 廣田正嗣, 早川 徹, 大久保力廣. 疑似体液中でのアパタイト形成に関する基礎的検討. 平成 29 年度春期第 69 回日本歯科理工学会学術講演会, 日本歯科大学, 2017 年 4 月
  31. (\*4) 脇 拓也, 櫻井敏継, 望月千尋, 佐藤光史, 早川 徹, 大久保力廣. Ca-アミノ酸錯体由来アパタイトペーストの骨形成に関する研究ーアミノ酸配位子の影響ー. 平成 29 年度春期第 69 回日本歯科理工学会学術講演会, 日本歯科大学, 2017 年 4 月
  32. 原井智広, 廣田正嗣, 早川 徹, 嶋田慶太, 水谷正義, 厨川常元. ナノ秒パルスレーザによるジルコニア製インプラントへの生体親和性付与～レーザ照射による微細凹凸の付与および熱影響の検討～. 平成 29 年度春期第 69 回日本歯科理工学会学術講演会, 日本歯科大学, 2017 年 4 月
  33. 廣田正嗣, 早川 徹. ジルコニア上のアパタイト薄膜形成に及ぼす分子プレカーサー法の加熱処理条件の影響. 日本補綴歯科学会第 126 回学術大会, 横浜, 平成 27 年 7 月
  34. 荒井佑輔, 星 憲幸, 熊坂知就, 早川 徹, 大久保力廣, 三浦博己, 木本克彦. MDF 法を用いた

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

新規純チタンの開発とインプラント材料としての応用. 日本補綴歯科学会第 126 回学術大会, 横浜. 平成 27 年 7 月

35. (\*4) 脇 拓也, 廣田正嗣, 早川 徹, 大久保力廣. アミノ酸配位子の異なる Ca-錯体由来 HA ペーストの骨形成の検討. 第 32 回日本歯科産業学会学術講演会, 北海道自治労会館, 平成 27 年 7 月
36. Abe K., Honda M., Iohara K., Tajima Y., Kamata A., Kokaji S., Yamamoto T., Hayakawa T., Aizawa M. Calcium hydrogen phosphate loaded with protamine: preparation, characterization and anti-bacterial property. Tenth International Conference on the Science and Technology for Advanced Ceramics (STAC-10), 横浜, 2017 年 8 月
37. 廣田正嗣, 原井智広, 石橋信治, 水谷正義, 早川 徹. 超微細表面を有するレーザ加工ジルコニアインプラントの骨反応. 第 26 回 硬組織再生生物学会学術大会・総会, 岡山大学歯学部, 平成 27 年 8 月
38. (\*4) 八木 亮, 廣田正嗣, 遠山岳史, 望月千尋, 佐藤光史, 早川 徹, 大久保力廣. Ca 錯体水溶液スプレー法を用いたアパタイト薄膜コーティングインプラントについて. 第 26 回 硬組織再生生物学会学術大会・総会, 岡山大学歯学部, 平成 27 年 8 月
39. 廣田正嗣, 水谷正義, 早川 徹. ナノ秒パルスレーザ照射ジルコニアインプラントの骨適合性. 平成 29 年度秋期第 70 回日本歯科理工学会学術講演会, 新潟, 平成 27 年 10 月
40. (\*4) 八木 亮, 廣田正嗣, 遠山岳史, 望月千尋, 佐藤光史, 早川 徹, 大久保力廣. Ca-CO<sub>3</sub>-PO<sub>4</sub> 錯体水溶液スプレー法によるアパタイト薄膜コーティングについて. 平成 29 年度秋期第 70 回日本歯科理工学会学術講演会, 新潟, 平成 27 年 10 月
41. 阿部航大, 本田みちよ, 庵原啓司, 山本雄嗣, 早川 徹, 相澤 守. プロタミンを担持させた各種リン酸カルシウムの調製とその抗菌性. 平成 29 年度秋期第 70 回日本歯科理工学会学術講演会, 新潟, 平成 27 年 10 月
42. 安斉昌照, 星 憲幸, 熊坂知就, 丸尾勝一郎, 早川 徹, 大久保力廣, 三浦博己, 木本克彦. 高強度 MDF 純チタンの切削性及び表面性状の評価. 平成 29 年度秋期第 70 回日本歯科理工学会学術講演会, 新潟, 平成 27 年 10 月
43. 吉田英史, 早川 徹. QCM 法を用いたチタンに対するリポタイコ酸の吸着解析. 平成 29 年度秋期第 70 回日本歯科理工学会学術講演会, 新潟, 平成 27 年 10 月
44. (\*13) 宮本永浩, 山近梨奈, 櫻井敏継, 庵原啓司, 細矢哲康, 早川 徹. 立体構造の異なる DNA コーティングチタンインプラントの骨形成. 平成 29 年度秋期第 70 回日本歯科理工学会学術講演会, 新潟, 平成 27 年 10 月
45. 多田佳史, 早川 徹, 中村芳樹. PEEK 樹脂製ワイヤーの特性評価. 第 76 回日本矯正歯科学会大会, 札幌, 平成 27 年 10 月
46. 石毛 遥, 赤池 駿, 早川 徹, 平塚傑工, 中村芳樹. QCM 法を用いた DLC およびフッ化物添加 DLC コーティングへのタンパク質付着の評価. 第 76 回日本矯正歯科学会大会, 札幌, 平成 27 年 10 月
47. 鈴木銀河, 星 憲幸, 木本克彦, 三浦博己, 早川 徹, 大久保力廣. フッ化物溶液中における MDF チタンの腐食特性. 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会, 東京, 平成 27 年 11 月
48. 布施 恵, 福本雅彦, 早川 徹. タンパク質固定化生分解性フィルムへの骨芽細胞様細胞の付着および増殖. 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会, 東京, 平成 27 年 11 月
49. 原井智広, 廣田正嗣, 早川 徹, 嶋田慶太, 水谷正義, 厨川常元. ナノ秒パルスレーザによる生体親和性付与に関する研究. 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会, 東京, 平成 27 年 11 月
50. 廣田正嗣, 原井智広, 水谷正義, 早川 徹. ナノ秒パルスレーザ照射ジルコニアインプラント -骨適合性に関する報告-. 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会, 東京, 平成 27 年 11 月
51. (\*37) 早川 徹. シンポジウム1 口腔から始めるバイオマテリアル 歯科用インプラントの表面改質. 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会, 東京, 平成 27 年 11 月

朝田芳信、船山ひろみ

1. 船山ひろみ, 田村光平, 高澤みどり, 山崎嘉久, 朝田芳信. 乳幼児歯科健診および相談事業の市町村における現状と課題. 第75回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017年10月31日-11月2日

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

2. 青山友紀, 船山ひろみ, 金丸直史, 朝田芳信. 軟質ハンドル技術を活用した新子供用歯ブラシに関する研究. 第75回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017年10月31日-11月2日
  3. 金丸直史, 蜂須賀良祐, 小林利彰, 青山友紀, 荻原佑介, 湯沢真弓, 岡部早苗, 熊谷千明, 山口桃枝, 船山ひろみ, 朝田芳信. 曲がりやすさを特長とする新子供用歯ブラシの清掃力に関する研究. 第55回小児歯科学会全国大会, 北九州, 2017年5月
  4. 船山ひろみ, 朝田芳信. Neurokinin receptorを介する気管支喘息の発生機序の解明. 第55回小児歯科学会全国大会, 北九州, 2017年5月
  5. (\*5) 成山明具美, 大貫芳樹, 奥村 敏, 朝田芳信. 咬筋における小眼球症関連転写調節因子(MITF)の生理機能について. 第55回日本小児歯科学会, 西日本総合展示場新館 AIM(福岡県北九州市), 2017年5月25-26日
  6. 田島 格, 伊平弥生, 成山明具美, 朝田芳信. 歯胚の消失モデルマウスを用いた基底膜分子の機能的役割について. 第55回日本小児歯科学会, 西日本総合展示場新館 AIM(福岡県北九州市), 2017年5月25-26日
  7. 船山ひろみ, 田村光平, 高澤みどり, 山崎嘉久, 朝田芳信. 乳幼児歯科健診におけるう蝕に対する事業評価の活用. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016年10月
  8. 大河内彩子, 田高悦子, 船山ひろみ, 朝田芳信. 地域連携へ向けた小児歯科外来従事者の「気になる子ども」スクリーニング視点の解明. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016年10月.
  9. (\*5) Nariyama M., Ohnuki Y., Umeki D., Ito A., Kawamura N., Yagisawa Y., Okumura S., and Asada Y. Role of Microphthamia-Associated Transcription Factor in Masseter Muscle Hypertrophy Induced by  $\beta$ -adrenoceptor Stimulation. 第58回歯科基礎医学会学術大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), 2016年8月24-26日
  10. 大河内彩子, 田高悦子, 船山ひろみ. 気になる子どもに対する小児歯科外来従事者の対応にみる支援技術. 第63回 日本小児保健協会学術集会, さいたま市, 2016年6月
  11. 長岡 悠(鶴見大学 小児歯), 船山ひろみ, 唐木 隆史, 古屋 吉勝, 中村 由美子, 朝田 芳信. 小児歯科臨床での被虐待児早期発見のための取り組み. 第10回PDAA(アジア小児歯科学会)・第54回全国大会, 東京, 2016年5月
  12. Shakya S., Funayama H., Mizoguchi Y., Kaneko N., Suzuki S., Mishima A, Moriyasu K., Asada Y. An approach to classify mesiodens in children using cone beam computed tomography. 第10回PDAA(アジア小児歯科学会)・第54回全国大会, 東京, 2016年5月
  13. (\*5) Nariyama M., Ohnuki Y., Umeki D., Ito A., Kawamura N., Okumura S., and Asada Y. Role of Microphthamia-Associated Transcription Factor in Masseter Muscle Hypertrophy Induced by  $\beta$  2-adrenoceptor Stimulation, PDAA(第10回アジア小児歯科学会), 東京ドームホテル(東京都文京区), 2016年5月26-28日
  14. Shakya S, Funayama H, Mizoguchi Y, Asada Y. Comparative analysis of dentistry in Nepal and Japan. 鶴見大学歯学会第82回例会, 横浜, 2015年12月
  15. 大河内彩子, 田高悦子, 船山ひろみ, 朝田芳信. 多職種協働に向けた「気になる子ども」評価尺度の開発:小児歯科研究プロトコル. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015年11月
  16. (\*5) 成山明具美, 島崎絵美, 安藤 準, 大貫芳樹, 奥村 敏, 朝田芳信. 咬筋と腓腹筋の生後発達過程における miR-1, miR-133a の機能. 第57回歯科基礎医学会学術大会, 新潟県新潟市, 2015年9月11-13日
  17. 古屋 吉勝, 船山ひろみ, 加藤 靖隆, 長岡 悠, 平山 展大, 朝田 芳信. 歯髓細胞のバンキングに対する意識調査(第二報) 2010年と2014年の比較. 第53回日本小児歯科学会大会, 広島, 2015年5月
  18. 太田 増美, 船山ひろみ, 田島 格, 高橋 沙織, 平山 展大, 朝田 芳信. KLK4 遺伝子多型と齲蝕発症の関連性について. 第53回日本小児歯科学会大会, 広島, 2015年5月
- 二藤彰
1. (\*16) 島田明美, 新井嘉則, 小松浩一郎, 和田悟史, 出野尚, 中島和久, 山下照仁, 江面陽一, 網塚憲生, 中村芳樹, 二藤彰. 腱・靭帯付着部(enthesis)において Annexin a5 は線維軟骨の分化を負に制御する. 第35回日本骨代謝学会学術集会, 福岡, 2017年7月
  2. (\*16) Shimada A., Arai Y., Komatsu K., Wada S., Ideno H., Nakashima K., Yamashita T., Ezura Y.,

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- Amizuka N., Poumlschl E., Brachvogel B., Nakamura Y., Nifuji A. Annexin A5 prevents force-mediated bone ridge overgrowth at the enthesis. Spring Harbor Lab meeting, Annexins: 9th International Conference on the Annexins, コールドスプリングハーバー(米国), 2017年9月
3. (\*16) 島田明美, 新井嘉則, 和田悟史, 出野尚, 中島和久, 小松浩一郎, 山下照仁, 江面陽一, 網塚憲生, 中村芳樹, 二藤彰. Annexin a5による腱・靭帯付着部(enthesis)における線維軟骨層の石灰化の制御. 第34回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2016年7月
  4. (\*15) 和田悟史, 出野尚, 島田明美, 上運天太一, 中村芳樹, 中島和久, 木村宏, 眞貝洋一, 立花誠, 二藤彰. ヒストンメチル化酵素 G9a は腱組織の正常な発生に必要である. 第58回歯科基礎医学会学術大会, 札幌, 2016年8月
  5. (\*16) 島田明美, 新井嘉則, 和田悟史, 出野尚, 中島和久, 小松浩一郎, 山下照仁, 江面陽一, 中村芳樹, 二藤彰. Annexin a5による腱・靭帯付着部(enthesis)における骨の増大. 第2回アネキシン研究会, 札幌, 2016年11月
  6. (\*15) 和田悟史, 出野尚, 島田明美, 上運天太一, 中村芳樹, 中島和久, 木村宏, 眞貝洋一, 立花誠, 二藤彰. 腱組織形成におけるヒストンメチル化酵素 G9a の機能. 第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016年11月
  7. (\*15) 和田悟史, 出野尚, 島田明美, 上運天太一, 中村芳樹, 中島和久, 木村宏, 立花誠, 二藤彰. ヒストンメチル化酵素 G9a は腱細胞の増殖および分化に必須である. 第33回日本骨代謝学会学術集会, 東京, 2015年7月
  8. (\*16) 島田明美, 新井嘉則, 和田悟史, 出野尚, 上運天太一, 中島和久, 小松浩一郎, 山下照仁, 江面陽一, 網塚憲生, 中村芳樹, 二藤彰. Annexin a5による腱・靭帯付着部(enthesis)における骨形成の調節. 第33回日本骨代謝学会学術集会, 東京, 2015年7月
  9. (\*15) Wada S., Ideno H., Shimada H., Kamiunten T., Nakamura Y., Nakashima K., Kimura H., Tachibana M., Nifuji A. Histone 3 lysine 9 methyltransferase G9a is essential for the growth and differentiation of tenocytes. ASBMR 2015 annual meeting, シアトル(米国), 2015年10月
  10. (\*16) Shimada A., Arai Y., Wada S., Ideno H., Kamiunten T., Nakashima K., Komatsu K., Yamashita T., Ezura Y., Amizuka N., Poumlschl E., Brachvogel B., Nakamura Y., Nifuji A. Annexin A5 inhibits bony outgrowth at tendon/ligament insertion sites. ASBMR 2015 annual meeting, シアトル(米国), 2015年10月
  11. (\*15) 和田悟史, 出野尚, 島田明美, 上運天太一, 中村芳樹, 中島和久, 木村宏, 眞貝洋一, 立花誠, 二藤彰. ヒストンメチル化酵素 G9a 遺伝子欠損による腱の形成阻害. 第38回日本分子生物学会, 神戸, 2015年12月
- 小川匠
1. (\*19) 木原琢也, 井川知子, 重本修伺, 重田優子, 伊藤光彦, 伊藤崇弘, 二川浩樹, 小川匠. 食塊粒度解析による咀嚼能力の定量的評価. 一般社団法人日本歯科人間ドック学会 第20回学術大会, 神奈川, 2017年12月9日~10日
  2. 伊藤光彦, 井川知子, 伊藤崇弘, 木原琢也, 平井健太郎, 重田優子, 重本修伺, 小川匠. 各種スキャナにおける測定能の検証. 日本顎口腔機能学会 第59回学術大会, 長崎, 2017年11月25日~26日
  3. (\*17) (\*18) 伊藤崇弘, 重本修伺, 平井真也, 平林里大, 井川知子, 重田優子, 小川匠. 術前および術中の顎運動情報による顎機能評価を行っているオーラルリハビリテーション症例. 第30回日本顎関節学会学術大会, ワークピア横浜 神奈川, 2017年7月
  4. 平井健太郎, 井川知子, 重田優子, 小川匠. 易摩耗性スプリントを用いた摩耗の定量的評価法の開発. 日本顎口腔機能学会 第58回学術大会, 徳島大学藤井節郎記念医科学センター 徳島, 2017年4月
  5. 平井健太郎, 伊藤光彦, 木原琢也, 井川知子, 重田優子, 重本修伺, 安藤栄里子, 平林里大, 平井真也, 小久保裕司, 河村昇, 小川匠. 口腔内スプリントを用いた咬耗の定量的評価法. 平成28年度日本補綴歯科学会西関東支部学術大会. 横浜県歯科医師会館, 神奈川, 2017年1月22日
  6. (\*17) 重本修伺, 平井真也, 井川知子, 田島登誉子, 松香芳三, 小川匠. 下顎運動軸の3次元元的検討. 第23回日本歯科医学会総会. 福岡サンパレス, 福岡, 2016年10月22日~23日

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

7. 伊藤光彦, 井川知子, 平井健太郎, 木原琢也, 重本修伺, 伊藤崇弘, 二川浩樹, 小川 匠. 各種 3D スキャナーを用いた歯列模型の計測 -顎間距離の検討-. 日本顎口腔機能学会第 57 回学術大会. 東北大学星陵オーデトリウム, 宮城, 2016 年 10 月 2 日
8. (\*17) 伊藤崇弘, 重本修伺, 井川知子, 伊藤光彦, 小川 匠, 松香芳三. 下顎運動情報を用いた運動論的基準軸の空間的特徴の検討. 日本顎口腔機能学会第 57 回学術大会, 東北大学星陵オーデトリウム, 宮城, 2016 年 10 月 1 日
9. 小川 匠. インプラント補綴におけるオールセラミック修復の是非 オールセラミック修復における咬合治療について. 第 46 回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会. 名古屋国際会議場, 愛知. 2016 年 9 月 17 日
10. (\*17) 平林里大, 平井真也, 重本修伺, 井川知子, 安藤栄里子, 重田優子, 小川 匠. 矢状面内限界運動と習慣性閉口運動を利用した咬合高径の評価. 第 29 回 一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会. 湯本富士屋ホテル, 神奈川, 2016 年 7 月 28 日
11. 西浦里英, 安藤栄里子, 平井健太郎, 井川知子, 平井真也, 重田優子, 小川 匠. 臼歯部開咬症例に対する VR シミュレーションの応用. 日本補綴歯科学会 125 回学術大会石川県立音楽堂, 石川, 2016 年 7 月 9 日
12. 伊藤光彦, 井川知子, 平井健太郎, 木原琢也, 田地 豪, 二川浩樹, 小川 匠. 各種スキャナーを用いた計測用石膏模型の計測. 日本デジタル歯科学会第 7 回学術大会. 北海道立道民活動センター, 北海道, 2016 年 5 月 28 日
13. 佐々木圭太, 井川知子, 積田光由, 伊藤光彦, 平井健太郎, 重田優子, 小川 匠. 3次元印象スキャンによる築造体製作についての検討. 平成 27 年度日本補綴歯科学会西関東・東関東合同学術大会, パシフィコ横浜アネックスホール, 神奈川, 2016 年 1 月 10 日
14. 平井健太郎, 伊藤光彦, 木原琢也, 井川知子, 重田優子, 安藤栄里子, 平林里大, 平井真也, 小久保裕司, 河村 昇, 小川 匠. デジタル情報を用いた咬合の再現-口腔内スキャナーと模型スキャナーの精度について-. 平成 27 年度日本補綴歯科学会西関東・東関東合同学術大会, パシフィコ横浜アネックスホール, 神奈川, 2016 年 1 月 10 日
15. 佐々木圭太, 井川知子, 平井健太郎, 重田優子, 伊原啓祐, 河村 昇, 小川 匠. グラスファイバー強化型レジンに対する接着性レジンセメントのせん断接着強さ. 第 34 回日本接着歯学会学術大会. タワーホール船堀, 東京, 2015 年 12 月 19 日
16. 藤井俊朗, 伊原啓祐, 井川知子, 平井健太郎, 伊藤光彦, 河村 昇, 小川 匠. 審美情報に基づいた咬合再構成症例. 第 26 回日本歯科審美学会学術大会. 東京歯科大学 水道橋校舎 新館, 東京, 2015 年 11 月 23 日
17. 平井健太郎, 伊藤光彦, 井川知子, 藤井俊朗, 伊原啓祐, 河村 昇, 小川 匠. デジタル情報を用いたスプリント咬耗量の測定に関する検討. 第 26 回日本歯科審美学会学術大会. 東京歯科大学 水道橋校舎 新館, 東京, 2015 年 11 月 23 日

濱田良樹、山田浩之

1. 角田直子, 大橋祐生, 小野寺 慧, 宮本郁也, 武田泰典, 山田浩之. 多臓器に遠隔転移した頬粘膜扁平上皮癌の1例. 第 36 回 日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 新潟, 2018 年 1 月
2. 長谷部 充彦, 中岡 一敏, 熊谷 賢一, 山田 秀典, 吉澤 泰昌, 園山 智生, 濱田 良樹. インプラント周囲炎に継発した下顎骨骨髓炎と外歯瘻の 1 例. 第 21 回顎顔面インプラント学会 総会・学術大会, 富山, 2017 年 12 月
3. 重松 宏昭, 長谷部 充彦, 熊谷 賢一, 濱田 良樹. BP 製剤服用患者に生じたインプラント周囲炎に起因した外歯瘻の 1 例. 鶴見歯学会例会, 横浜, 2017 年 7 月
4. 荒井 俊明, 園山 智生, 荒 博範, 重松 宏昭, 平田 朋子, 中岡 一敏, 濱田 良樹. 当初は口蓋腫瘍を疑った乳幼児の口腔内異物の 1 例. 第 29 回小児口腔外科学会総会・学術大会, 新潟, 2017 年 11 月
5. 熊谷 賢一, 中岡 一敏, 齊藤 知之, 仲宗根 康成, 中村 芳樹, 濱田 良樹. 二次性開咬に対する顎矯正手術を施行したリウマチ性顎関節炎の長期経過観察例. 第 30 回日本顎関節学会総会・学術大会, 横浜, 2017 年 7 月
6. 濱田 良樹. 特発性下顎頭吸収を含む開咬の診断と治療 下顎頭吸収による骨格性 II 級症例に対する顎矯正手術. 第 30 回日本顎関節学会総会・学術大会, 横浜, 2017 年 7 月

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

7. (\*7) 重松 宏昭, 中岡 一敏, 園山 智生, 君塚 幸子, 小笠原 邦茂, 山田 秀典, 秋谷 勇介, 仲宗根 康成, 山田 浩之, 濱田 良樹. 顎矯正手術が及ぼす精神的影響に関する客観的評価の試み. 第 27 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 東京, 2017 年 6 月
8. 藤澤 靖子, 赤池 駿, 関谷 利子, 城所 明光, 中岡 一敏, 濱田 良樹, 中村 芳樹. 両側下顎枝矢状分割法を適用した下顎側方偏位を伴う骨格性下顎前突患者の治療前後のスマイル時口唇の三次元的変化. 第 27 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 東京, 2017 年 6 月
9. 関谷 利子, 及川 崇, 藤澤 靖子, 青山 依儒, 藤江 仁厚, 中岡 一敏, 濱田 良樹, 中村 芳樹. 顔面非対称症例の矯正治療について 外科的矯正治療とカムフレンジュ治療の比較. 第 27 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 東京, 2017 年 6 月
10. 青山 依儒, 及川 崇, 中村 浩昭, 藤澤 靖子, 園山 智生, 中岡 一敏, 関谷 利子, 濱田 良樹, 中村 芳樹. 骨格パターンの異なる顔面非対称を伴う顎変形症患者の外科的矯正治療による口唇変化の比較. 第 27 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 東京, 2017 年 6 月
11. 松原 陵太, 熊谷 賢一, 重松 宏昭, 仲宗根 康成, 江口 貴紀, 鈴木 隆二, 濱田 良樹. パラジウムアレルギーモデルマウスにおけるフェキソフェナジンの免疫応答抑制効果について. 第 71 回日本口腔科学会学術大会, 愛媛, 2017 年 4 月
12. 熊谷 賢一, 松原 陵太, 重松 宏昭, 仲宗根 康成, 鈴木 隆二, 濱田 良樹. チタンアレルギー発症に関与する T 細胞の解明について. 第 71 回日本口腔科学会学術大会, 愛媛, 2017 年 4 月
13. 佐藤 光一郎, 中岡 一敏, 木村 裕香, 熊谷 賢一, 濱田 良樹. 口腔、喉頭病変を併発した形質細胞粘膜炎の 1 例. 第 71 回日本口腔科学会学術大会, 愛媛, 2017 年 4 月
14. (\*6) 井川 知子, 重田 優子, 平井 真也, 小川 匠, 中岡 一敏, 濱田 良樹, 原田 直彦, 河村 昇. チーム医療による顎骨欠損症例の顎骨再建と咬合再建. 鶴見歯学, 神奈川, 2017.01.
15. (\*6) 山田 秀典, 中岡 一敏, 熊谷 賢一, 君塚 幸子, 川口 浩司, 濱田 良樹. 脛骨 PCBM とチタンメッシュトレーによる再建下顎骨にインプラント治療を行った 1 例. 第 20 回日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会, 東京, 2016 年 12 月
16. 佐藤光一郎, 中岡一敏, 荒井俊明, 熊谷賢一, 長谷部充彦, 馬杉亮彦, 園山智生, 濱田良樹. 顎変形症術後のヒロサームによる冷罨法の抗炎症効果とサイトカインバランスの改善. 第 61 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016 年 11 月
17. (\*6) 八木 正聡, 中岡 一敏, 重松 宏昭, 齋田 尚貴, 濱田 良樹. 11 歳女兒に発生した下顎骨骨形成線維腫に対して区域切除と即時再建を施行した長期経過観察例. 第 28 回日本小児口腔外科学会 総会・学術大会, 広島, 2016 年 10 月
18. (\*6) Nakaoka K., Yamada H., Ogasawara K., Saida N., Kawaguchi K., Ikawa T., Ogawa T, Hamada Y. Dental implant treatment for the reconstructed mandible using a custom-made titanium mesh tray and PCBM: 4-Case Report . AAMOS 98<sup>th</sup> Annual Meeting, Scientific Sessions and Exhibition, Las Vegas, September, 2016.
19. Kawaguchi K., Nakaoka K., Kishi Y., Ogasawara K., Naoki Saida., Hamada Y. Efficacy and safety of stereotactic radiosurgery in advanced and/or recurrent head and neck cancer: Over 5-year Follow-up. AAMOS 98<sup>th</sup> Annual Meeting, Scientific Sessions and Exhibition, Las Vegas, September, 2016.
20. 杉 亮彦, 熊谷 賢一, 仲宗根 康成, 和気 昌弘, 江口 貴紀, 濱田 良樹. 下顎頭に発生した滑液包炎の 1 例. 第 29 回日本顎関節学会総会・学術大会, 箱根, 2016 年 7 月
21. 岸 悠太(鶴見大学 歯学部口腔顎顔面外科学講座), 中岡 一敏, 中島 敏文, 八木 正聡, 熊谷 賢一, 仲宗根 康成, 濱田 良樹. 下顎骨関節突起骨折の観血的整復固定術における High perimandibular approach の有用性について. 第 29 回日本顎関節学会総会・学術大会, 箱根, 2016 年 7 月
22. 及川 崇, 熊谷 賢一, 藤澤 靖子, 青山 依儒, 中岡 一敏, 関谷 利子, 濱田 良樹, 中村 芳樹. 若年性突発性関節炎による下顎頭吸収を伴う骨格性開咬患者に対して外科矯正を施行した 1 症例. 第 26 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 東京, 2016 年 6 月
23. 藤澤 靖子, 関谷 利子, 青山 依儒, 城所 明光, 及川 崇, 常盤 肇, 中岡 一敏, 濱田 良樹, 中村 芳樹. 外科矯正治療前後の口唇非対称の三次元的評価. 第 26 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 東京, 2016 年 6 月

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

24. 木村裕香, 中岡一敏, 長谷部充彦, 雨宮剛志, 熊谷賢一, 堀江彰久, 濱田良樹. 下唇に生じた紡錘細胞癌の1例. 第201回日本口腔外科学会関東・甲信越支部学術集会, 群馬, 2016年5月
  25. 熊谷賢一, 松原陵太, 重松宏昭, 仲宗根康成, 江口貴紀, 鈴木隆二, 濱田良樹. チタンアレルギーモデルマウスの作製と遅延型アレルギー免疫応答の解明について. 第70回日本口腔科学会学術集会, 福岡, 2016年4月
  26. 重松宏昭, 園山智生, 君塚幸子, 濱田良樹. エナメル上皮線維歯牙腫の2例. 第27回小児口腔外科学会総会・学術大会, 宮崎, 2015年11月
  27. 大中恵里子, 園山智生, 山田浩之, 中岡一敏, 佐藤光一郎, 田中延幸, 濱田良樹. 右側頬粘膜に生じた器質化血栓の1例. 第60回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2015年10月
  28. 濱田良樹. 顎関節症 インタラクティブコース(パート2) 顎関節症に対する治療の流れ. 第28回日本顎関節学会総会・学術大会, 名古屋, 2015年7月
  29. 和気昌弘, 熊谷賢一, 中岡一敏, 仲宗根康成, 濱田良樹. 顎関節症の既往を有する2次性開咬患者における血清中骨代謝マーカーの解析. 第28回日本顎関節学会総会・学術大会, 名古屋, 2015年7月
  30. 中岡雅典, 君塚幸子, 堀内俊克, 熊谷賢一, 山田浩之, 濱田良樹. 上顎正中埋伏過剰歯の抜去において梨状口縁の骨切りを併用した3例. 第81回鶴見大学歯学会例会, 横浜, 2015年6月
  31. 濱田良樹. 下顎頭吸収による2次性開咬(骨格性II級)症例に対する外科的アプローチ. 第25回日本顎変形症学会総会・学術大会, 東京, 2015年6月
  32. 松林幸枝, 須佐美隆史, 大久保和美, 井口隆人, 岡安麻里, 内野夏子, 高橋直子, 上床喜和子, 安部貴大, 阿部雅修, 濱田良樹, 中岡一敏, 森良之, 高戸毅. 顎関節強直症による小下顎症の1例. 第25回日本顎変形症学会総会・学術大会, 東京, 2015年6月
  33. 青山依儒, 及川崇, 藤澤靖子, 馬杉亮彦, 園山智生, 中岡一敏, 関谷利子, 濱田良樹, 中村芳樹. 上下顎同時移動術を行った顔面非対称を伴う顎変形症患者における上下口唇の対称性の評価. 第25回日本顎変形症学会総会・学術大会, 東京, 2015年6月
  34. 熊谷賢一, 重松宏昭, 松原陵太, 江口貴紀, 小林浩, 鈴木隆二, 濱田良樹. 金属アレルギー生体反応におけるNKT細胞の関与について. 第69回日本口腔科学会学術集会, 大阪, 2015年5月
  35. 福岡愛理, 中岡一敏, 山田浩之, 川口浩司, 濱田良樹. 口腔領域血管腫に対するNd:YAGレーザーによる組織内照射の有用性. 第69回日本口腔科学会学術集会, 大阪, 2015年5月
  36. 福岡愛理, 中岡一敏, 山田浩之, 川口浩司, 濱田良樹. Nd:YAGレーザーによる組織内照射を行った口腔領域血管腫5例の臨床的検討. 第69回日本口腔科学会学術集会, 大阪, 2015年5月
  37. 深代祐五, 中岡一敏, 石井宏昭, 笠原英生, 濱田良樹. 外傷性顎関節強直症に顎関節開放授動術を適用した女兒の1例. 第199回日本口腔外科学会関東・甲信越支部学術集会, 横浜, 2015年5月
  38. 宮嶋千秋, 馬杉亮彦, 堀内俊克, 中岡一敏, 川口浩司, 濱田良樹. 下顎枝矢状分割術を施行した血小板放出機構異常症の1例. 第24回有病者歯科医療学会総会・学術集会, 旭川, 2015年3月
- 前田伸子
1. (\*8) 前田伸子, 山本共夫, 木村陽介. 抗真菌薬添加含嗽薬による口腔ケアの有用性の確認. 日本口腔ケア学会, 千葉, 2016年4月
  2. (\*8) 小関翔子, 横田綾子, 前田伸子, 山本共夫, 木村陽介, 原田雷太郎. 経管栄養を受けている入所者の口腔ケアについて. 日本口腔ケア学会, 千葉, 2016年4月
  3. (\*21) 小島由佳子, 大島朋子, 河井智美, 前田伸子. Analysis of effective component produced by oral probiotic candidates against *Candida albicans*. 第58回歯科基礎医学会学術会, 札幌, 2016年8月
- 下田信治
1. Ito H., Igarashi C., Wakae-Morita S., Ichiko T., Shimoda S., Kobayashi K. Initial study of personal

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

identification on large scale disaster by practical using CBCT. The 21th International Congress of Dento Maxillo-Facial Radiology (21th ICDMFR), Kaohsiung (Chinese Taipei), 2017,4,28.

- 浅田由佳, 千葉敏江, 下田信治, 桃井保子. エナメル質最外層の結晶の構造について. 第 144 回日本歯科保存学会学術大会, 2016
- 伊東宏和, 五十嵐千浪, 若江五月, 大蔵真太郎, 市古敬史, 杉崎正志, 下田信治, 小林 馨. 歯科用コーンビーム CT(歯科用 CBCT)を用いた身元特定法についての検討. NPO 法人日本歯科放射線学会第 57 回学術大会, 大阪, 2016
- Ito H., Igarashi C., Wakae-Morita S., Osano T., Okura S., Ichiko T., Sugisaki M., Shimoda S., Kobayashi K. Validation for x-ray incident direction to the condyle in panoramic radiography -Using reconstructed CT image-. 4th Asian Academic Congress for Temporomandibular Joint, Manila (Philippine),2015,11,16.
- Ito H., Kobayashi K., Igarashi C., Wakae-Morita S., Shimoda S. Consideration of personal identification method on large scale earthquake disaster. The 20th International Congress of Dento Maxillo-Facial Radiology (20th ICDMFR), Santiago (Chile), 2015, 08, 26.
- 千葉敏江, 林 応璣, 下田信治, 桃井保子. リン酸カルシウム系ペーストの歯質ケア剤としての有用性 -第2報:薬剤ミネラルの Hap への転化と歯質象牙質との同化-. 第 142 回日本歯科保存学会学術大会, 2015
- 伊藤剛正, 植松裕美, 千葉敏江, 野本理恵, 加藤光淑, 下田信治, 桃井保子. 2 in 1 石こうパックの開発. 第 25 回日本医用歯科機器学術大会, 横浜, 2015
- 下田信治. -テーマセッション-「リン酸カルシウム製材による歯質の再石灰化—その機序と臨床応用—」. 鶴見歯学会, 2015

奥村敏

- 伊藤愛子, 大貫芳樹, 梅木大輔, 石川美佐緒, 八木澤由佳, 奥村敏, 中村芳樹.  $\beta$ アドレナリン受容体シグナルの咬筋での役割. 第 76 回日本矯正歯科学会学術大会, 札幌, 2017 年 10 月
- 管崎弘幸, 熊澤正雄, 山田祐子, 須藤智省, 赤池駿, 和田悟史, 及川崇, 奥村敏, 中村芳樹. 顎変形症は認知症の誘発因子となりえるか?—顎変形症は咀嚼刺激による脳血流上昇を妨げる—. 第 76 回日本矯正歯科学会学術大会, 札幌, 2017 年 10 月
- 梅木大輔, 大貫芳樹, 伊藤愛子, 八木澤由佳, 成山明具美, 川村直矢, 吹田憲治, 中村芳樹, 奥村敏. マウス咀嚼筋適応機構の解明 (アップデートシンポジウム 若手の口腔生理学研究最前線). 第 59 回歯科基礎医学会学術大会総会, 塩尻, 2017 年 9 月
- 塩澤光一, 奥村敏. 一口量に関わる要因について. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会総会, 塩尻, 2017 年 9 月
- 八木澤由佳, 大貫芳樹, 梅木大輔, 石川美佐緒, 川村直矢, 伊藤愛子, 吹田憲治, 中村芳樹, 奥村敏. 強制的開口モデルによる心臓リモデリングとベータ遮断薬による抑制効果. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会総会, 塩尻, 2017 年 9 月
- 吹田憲治, 八木澤由佳, 大貫芳樹, 梅木大輔, 石川美佐緒, 伊藤愛子, 川村直矢, 中村芳樹, 奥村敏. 咬合拳上負荷がマウスの心房に与える影響. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会総会, 塩尻, 2017 年 9 月
- 伊藤愛子, 大貫芳樹, 梅木大輔, 石川美佐緒, 川村直矢, 八木澤由佳, 中村芳樹, 奥村敏. 咬筋における  $\beta$ アドレナリン受容体シグナルのサブタイプ特異的な役割. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会総会, 塩尻, 2017 年 9 月
- 川村直矢, 大貫芳樹, 氏家優子, 梅木大輔, 伊藤愛子, 五味一博, 奥村敏. Polphyromonas gingivalis 由来 LPS が心筋, 骨格筋に及ぼす影響. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会総会, 塩尻, 2017 年 9 月
- 成山明具美, 大貫芳樹, 奥村敏, 朝田芳信. 咬筋における小眼球症関連転写因子 (MITF) の生理機能について. 第 55 回日本小児歯科学会大会, 北九州市, 2017 年 5 月
- 大貫芳樹, 三枝木泰丈, 奥村敏.  $\beta$  アゴニスト依存性の骨格筋肥大に対する Epac の役割. 第 94 回日本生理学会大会, 浜松, 2017 年 3 月
- 奥村敏, 藤田孝之. (オルガナイザー). 心臓の恒常性を制御するメカニズムとその波紋による病気の発症. (日本循環制御医学会連携シンポジウム), 第 94 回日本生理学会大会, 浜松, 2017 年 3 月
- 奥村敏. 心疾患発症過程における Epac の役割 (招待講演), 第 94 回日本生理学会大会, 浜松, 2016

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

年 3 月

13. 吹田憲治,藤田孝之,奥村敏,石川義弘.心臓型アデニル酸シクラーゼの阻害は心機能を低下させることなくカテコラミン誘発性不整脈を抑制する(招待講演),第 94 回日本生理学会大会,浜松,2016 年 3 月
14. Nariyama M., Ohnuki Y., Umeki D., Ito A., Kawamura N., Okumura S., Asada Y. Role of micro-associated transcription factor in masseter muscle hypertrophy induced by  $\beta_2$ -adrenergic stimulation. 10<sup>th</sup> Biennial Conference of the Pediatric Dentistry Association of Asia,Tokyo,May 2016
15. 大貫芳樹,三枝木泰丈,奥村敏.  $\beta_2$  アドレナリン受容体刺激による Epac 依存性の筋肥大効果.第 93 回日本生理学会大会,札幌,2016 年 3 月
16. 奥村敏,藤田孝之.(オルガナイザー).臓器リモデリングを制御する新しい調節因子とその病態生理学的役割(日本病態生理学会連携シンポジウム),第 93 回日本生理学会大会,札幌,2016 年 3 月
17. 奥村敏. 新規サイクリック AMP 活性化因子 Epac のサブタイプ特異的な心不全ならびに病態生理学的役割 (招待講演). 第 93 回日本生理学会大会,札幌,2016 年 3 月
18. 大貫芳樹,梅木大輔,伊藤愛子,奥村敏.  $\beta_2$  アドレナリン受容体刺激による骨格筋肥大に対する cAMP 活性化因子 Epac の役割.第 57 回歯科基礎医学会学術大会総会,新潟,2015 年 9 月
19. 島田明美,小松浩一郎,荒井嘉則,大貫芳樹,中島和久,山下照仁,奥村敏,二藤彰.アネキシン A5 欠損マウスは歯の咬耗と腭付着部における顎骨の肥大を呈する.第 57 回歯科基礎医学会学術大会総会,新潟,2015 年 9 月
20. 梅木大輔,大貫芳樹,伊藤愛子,中村芳樹,奥村敏.デキサメタゾン投与による咬筋の萎縮と遅筋化に対するクレンプテロールの拮抗作用.第 57 回歯科基礎医学会学術大会総会,新潟,2015 年 9 月
21. 成山明具美,島崎絵美,安藤準,大貫芳樹,奥村敏,朝田芳信.咬筋と腓腹筋の生後発達過程における miR-1, miR-133a の機能.第 57 回歯科基礎医学会学術大会総会,新潟,2015 年 9 月
22. 塩澤光一,奥村敏.傾斜計を用いた食塊物性測定.第 57 回歯科基礎医学会学術大会総会,新潟,2015 年 9 月
23. 奥村敏.Epac1 遺伝子欠損マウスはホスホランバンのリン酸化の抑制を伴い慢性カテコラミン刺激に対して抵抗性を示す(招待講演).第 92 回日本生理学会大会,第 120 回日本解剖学会総会 合同大会,神戸,2015 年 3 月
24. 塩澤光一,奥村敏.ヒトにおける咀嚼行動と肥満との関係.第 92 回日本生理学会大会,第 120 回日本解剖総会 合同大会,神戸,2015 年 3 月
25. 大貫芳樹,三枝木泰丈,奥村敏.  $\beta_2$  アドレナリン受容体刺激による咬筋肥大に対する Epac 依存性シグナル伝達経路の役割,第 92 回日本生理学会大会,第 120 回日本解剖学会総会 合同大会,神戸,2015 年 3 月
26. 奥村敏,大貫芳樹.Roles of Epac in masseter muscle hypertrophy induced by chronic stimulation of  $\beta_2$ -adrenoceptor,新学術領域研究「多階層生体機能学」最終成果報告会,大阪,2015 年 3 月

花田信弘

1. (\*27) Ida A.(Tsurumi University, School of Dental Medicine, Yokohama, Japan), Nomura H., Okada A., Murata T., Yamada H., Nomura Y., Hanada N. Clinical effect of the Dental Drug Delivery System (3DS). FDI World Dental Congress, Madrid, Spain, 2017,9.
2. (\*27) 岡田彩子(鶴見大学 歯学部探索歯学講座), 有吉芽生, 曾我部薫, 大塚良子, 宮之原真由, 村田 貴俊, マティン・カイルール, 花田 信弘. Liquid Carrier Type 3DS トレーを用いた殺菌洗口液の細菌学的・臨床的効果. 第 66 回日本口腔衛生学会・総会, 山形, 2017 年 5 月
3. 曾我部 薫(鶴見大学 歯学部探索歯学講座), 野村義明, 村田貴俊, 花田信弘. 現在歯数に着目した高齢者施設での食と栄養指導システムの構築, 第 66 回日本口腔衛生学会・総会, 山形, 2017 年 5 月
4. 角田衣理加(鶴見大学 歯学部口腔微生物学講座), 大島朋子, 野村義明, 花田信弘, 前田伸子. 高齢者の認知機能と口腔微生物の相関. 第 66 回日本口腔衛生学会・総会, 山形, 2017 年 5 月
5. 古藤真実(東京都港区歯科医師会), 上谷公之, 吉野浩和, 久保宏史, 矢吹義秀, 福澤洋一, 西辻直之, 長井博昭, 矢島正隆, 有吉芽生, 曾我部薫, 岡田彩子, 野村義明, 花田信弘. 唾液を用いた歯周病のスクリーニング検査による地域健康診断システム構築 平成 28 年度実施結果報

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- 告. 第 66 回日本口腔衛生学会・総会, 山形, 2017 年 5 月
6. 野邑浩美(井田歯科東診療所), 井田亮, 岡田彩子, 山田秀則, 村田貴俊, 野村義明, 花田信弘. フッ化物歯面塗布の臨床効果に関する研究. 第 66 回日本口腔衛生学会・総会, 山形, 2017 年 5 月
  7. 泉福英信(国立感染症研究所 細菌第一部), 平野浩彦, 枝広あや子, 白部麻樹, 角田衣理加, 花田信弘, 富永燦, 武内博朗, 西山佳秀. 高齢者の口腔常在菌に対するヨーグルト摂取習慣の効果. 第 66 回日本口腔衛生学会・総会, 山形, 2017 年 5 月
  8. 村川拓士, 石川正夫, 中杉徹, 村田貴俊, 花田信弘, 渋谷耕司. ブラックミン精油の口腔細菌に対する抗菌活性と口臭抑制効果. 第 65 回日本口腔衛生学会・総会, 東京, 2016 年 5 月
  9. 金子昇(新潟大学 大学院医歯学総合研究科口腔健康科学講座予防歯科学分野), 濃野要, 山賀孝之, 葭原明弘, 花田信弘, 宮崎秀夫. *Streptococcus sobrinus* 臨床分離株の *gtfI* 遺伝子における多様性の検討. 第 65 回日本口腔衛生学会・総会, 東京, 2016 年 5 月
  10. 岡本公彰(鶴見大学 歯学部探索歯学講座), 宮之原真由, 今井奨, 野村義明, 齋藤渉, 桃井保子, 花田信弘. チンパンジー口腔微生物叢の解析. 第 65 回日本口腔衛生学会・総会, 東京, 2016 年 5 月
  11. 吉野浩和(港区芝歯科医師会), 上谷公之, 矢吹義秀, 福澤洋一, 古藤真実, 久保宏史, 西辻直之, 長井博昭, 矢島正隆, 岡田彩子, 野村義明, 花田信弘. 唾液を用いた歯周病のスクリーニング検査による地域健康診断システム構築 平成 27 年度実施結果報告. 第 65 回日本口腔衛生学会・総会, 東京, 2016 年 5 月
  12. 井田亮(鶴見大学 歯学部探索歯学講座), 野邑浩美, 山田秀則, 村田貴俊, 野村義明, 花田信弘. Dental Drug Delivery System と 0.4% フッ化第一錫による歯の健康の長期管理. 第 65 回日本口腔衛生学会・総会, 東京, 2016 年 5 月
- 山越康雄
1. 山越康雄. 形成過程のエナメル質に見出されるケラチン 75 について. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 松本歯科大学(長野県塩尻市), 2017 年 9 月 16 日~2017 年 9 月 18 日
  2. 齊藤まり, 唐木田丈夫, 山本竜司, 大井田新一郎, 山越康雄. 歯髄細胞のスフェロイド形成に及ぼす TGF- $\beta$  と BMP の影響. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 松本歯科大学(長野県塩尻市), 2017 年 9 月 16 日~2017 年 9 月 18 日
  3. 大久保水羽, 小林冴子, 長野孝俊, 五味一博, 山越康雄. *Mmp20* ノックアウトマウス・エナメル質の TGF- $\beta$  アイソフォームについて. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 松本歯科大学(長野県塩尻市), 2017 年 9 月 16 日~2017 年 9 月 18 日
  4. 千葉理紗子, 山本竜司, 大久保水羽, 齊藤まり, 西川純雄, 山越康雄. 形成過程のエナメル質中のケラチン 75 について. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 松本歯科大学(長野県塩尻市), 2017 年 9 月 16 日~2017 年 9 月 18 日
  5. 山越康雄. 歯牙エナメル質—生体で最も硬い組織の石灰化機構について—バイオミネラリゼーションと石灰化—遺伝子から地球環境まで—. 東京大学大気海洋研究所(千葉県柏市), 2016 年 11 月 12 日
  6. 大久保水羽, 小林冴子, 山本竜司, 齊藤まり, 長野孝俊, 五味一博, 大井田新一郎, 山越康雄. ブタ幼若および成熟エナメル質中の TGF- $\beta$  アイソフォームについて. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), 2016 年 8 月 24 日~2016 年 8 月 26 日
  7. 小林冴子, 山本竜司, 大井田新一郎, 朝田芳信, 山越康雄. ブタ幼若エナメル質中の TGF- $\beta$  とエナメルタンパク質との相互作用について. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), 2016 年 8 月 24 日~2016 年 8 月 26 日
  8. 島崎絵美, 唐木田丈夫, 山本竜司, 朝田芳信, 山越康雄. 生理的乳歯歯根吸収組織の存在する TGF- $\beta$  の発現と破歯細胞の分化誘導調節について. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), 2016 年 8 月 24 日~2016 年 8 月 26 日
  9. 白井麻衣, 山本竜司, 小松浩一郎, 下田信治, 山越康雄, 大井田新一郎. 生理活性物質を有する脱灰骨シートを用いたインプラント周囲の骨増生. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), 2016 年 8 月 24 日~2016 年 8 月 26 日
  10. 丹羽堯彦, 長野孝俊, 五味一博, 山越康雄. 象牙質中の DSPP 由来タンパク質の加齢に伴う変

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

化について. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), 2016 年 8 月 24 日~2016 年 8 月 26 日

11. 野田千尋, 藤浪さをり, 山本竜司, 小林冴子, 大井田新一郎, 山越康雄. ブタ幼若エナメル質中のアモロゲニン・TGF- $\beta$  複合体と TGF- $\beta$  受容体との結合能について. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), 2016 年 8 月 24 日~2016 年 8 月 26 日
12. 唐木田丈夫, 大井田新一郎, 山本竜司, 齊藤まり, 山越康雄. ブタ歯髓細胞の不死化と象牙芽細胞分化に及ぼす BMP2 と TGF $\beta$  の影響. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), 2016 年 8 月 24 日~2016 年 8 月 26 日
13. 山越康雄. オーバービュー: DSPP を形態と機能から考える. 第 57 回歯科基礎医学会・サテライトシンポジウム, 朱鷺メッセ(新潟県, 新潟市), 2015. 9.11
14. Yamamoto R., Kinoshita S. and Yamakoshi Y. DSPP-derived Proteins are Necessary for Maintaining TGF-beta Activity in Dentin. IADR, ボストン・コンベンションセンター (MA, USA), 2015. 3.13
15. Kinoshita S., Asada Y., Yamakoshi Y. Interaction of Enamel Proteins and TGF-beta 1 in Porcine Enamel. IADR, ボストン・コンベンションセンター (MA, USA), 2015. 3.13
16. Takahashi K., Yamakoshi Y. Kallikrein 4 in Human Saliva. IADR, ボストン・コンベンションセンター (MA, USA), 2015. 3.13

佐藤秋絵

1. 石山巳喜夫, 三上正人, 中富満城, 岡 俊哉, 佐藤秋絵, 田畑 純, 笹川一郎. エナメルとガロインの分子生物学的解析. 第58回歯科基礎医学会学術大会, 札幌コンベンションセンター, 2016 年8月24-27日
2. Sato A., Klein J. Contribution for poster session "Completing Mendel's Unfinished Experiments". Mendel Forum 2015, Celebrate 150 years since the publication of Mendel's discovery in Brno, March 6-8, 2015, Centrum Mendelianum, Brno - city centre, Czech Republic

中村誠司

1. Moriyama M., Ishiguro N., Tanaka A., Maehara T., Furukawa S., Ohta M., Yamauchi M., Sakamoto M., Hayashida JN., Nakamura S. Possible involvement of Toll-like receptor in the initiation of IgG4-related dacryoadenitis and sialoadenitis. 3rd Symposium for "Accelerating Brain Circulation" Special lecture, Fukuoka, 2017.2.12.
2. Moriyama M., Tanaka A., Ohta M., Furukawa S., Maehara T., Yamauchi M., Ishiguro N., Hayashida JN., Nakamura S. Diagnostic utility of labial salivary gland biopsy in IgG4-related disease. The Annual Meeting of American Academy of Oral Medicine (AAOM) 2016. Oral Abstracts Session II, Atlanta, 2016.4.5-9
3. 森山雅文, 田中昭彦, 前原隆, 古川祥子, 太田美穂, 石黒乃理子, 中村誠司. IgG4 関連疾患の世界トップレベル IgG4 関連疾患の病因 - 免疫学的アプローチ -. 第 31 回日本臨床リウマチ学会 特別企画, 東京, 2016.10.30.
4. 森山雅文, 古川祥子, 田中昭彦, 前原隆, 太田美穂, 山内昌樹, 林田淳之將, 中村誠司. シェーグレン症候群の病態形成における T 細胞サブセットの関与. 第 59 回 日本リウマチ学会総会・学術集会 シンポジウム, 名古屋, 2015.4.23.
5. 森山雅文, 田中昭彦, 前原隆, 古川祥子, 太田美穂, 中村誠司. IgG4 関連疾患の唾液腺病変 ~ 病態形成に関わる Th 細胞の活性化機構 ~. 第 25 回日本口腔内科学会学術大会 シンポジウム, 大阪, 2015.9.18.
6. 森山雅文, 田中昭彦, 前原隆, 古川祥子, 太田美穂, 中村誠司. シェーグレン症候群: 診療ガイドラインについて 口腔病変の診断と治療. 第 24 回日本シェーグレン症候群学会学術集会 シンポジウム, 東京, 2015.9.19.

豊福明

1. 菅原詩織, 梅崎陽二郎, 三浦杏奈, 竹之下美穂, 豊福明. 入院治療が有効であった舌痛症の 1 例. 第 128 回日本心身医学会関東地方会, 東邦大学医学部 東京, 2017.01.28
2. 川崎カオル, 豊福明. 義歯関連の訴えに終始し、精神面の評価が遅れ、処遇困難となった統合失調症患者の 1 例. 第 26 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 金沢市 金沢歌劇

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

座,20170305

3. 豊福 明. 歯科口腔外科領域の慢性疼痛. 第 31 回運動器と痛み研究会, 福島市, コラッセふくしま, 20170316
4. 豊福 明. 歯科心身症の薬物療法—不安とうつ状態の奥に何を見るか—. 第 9 回 M&D 研究会, 川口市民ホール「フレンジア」, 20170424
5. 豊福 明. 咬合と不定愁訴の関連をどう診るか?. 日本咬合学会第 22 回学術大会, 石垣市民会館, 沖縄県石垣市, 20170520
6. 豊福 明. 歯科口腔外科領域の慢性疼痛—その特異性と他科領域との接点. 第 58 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会, 札幌コンベンションセンター 札幌市 北海道, 20170617
7. 竹之下美穂, 三浦杏奈, 川崎カオル, 菅原詩織, Tu Thi Hyen Trang, 松岡紘史, 安彦善裕, 豊福 明. 当科における舌痛症と非定型歯痛患者の破局的思考 (PainCatastrophizing) に関する臨床的検討. 第 58 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会, 札幌コンベンションセンター 札幌市 北海道, 20170617
8. 三浦杏奈, 菅原詩織, 川崎カオル, Tu Thi Guyen Trang, 竹之下美穂, 豊福明. 非定型歯痛と精神科疾患の併存について. 第 58 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会, 札幌コンベンションセンター 札幌市 北海道, 20170616
9. 豊福 明. “心身症”っぽい口腔内疼痛とドパミン神経系. 第 37 回日本歯科薬物療法学会学術大会, 愛知学院大学楠元キャンパス 名古屋市 愛知県, 20170618
10. (\*34)美久月瑠宇, 菅原詩織, 片桐綾乃, 豊福 明. 舌神経損傷後の痛覚過敏に対する三叉神経節 CGRP 陽性細胞の表現型変化および神経—グリア機能連関の関与. 第 32 回日本歯科心身医学会総会・学術大会, 日本歯科大学 千代田区 東京, 20170708
11. (\*30)篠原優貴子, 三浦杏奈, 美久月瑠宇, 川崎カオル, 菅原詩織, Tu Thi Hyen Trang, 須賀隆行, 渡邊毅, 梅崎陽二郎, 渡邊素子, 吉川達也, 竹之下美穂, 豊福 明. Phantom bite syndrome の脳画像研究. 第 32 回日本歯科心身医学会総会・学術大会, 日本歯科大学 千代田区 東京, 20170708
12. (\*11)渡邊毅, 須賀隆行, Trang T. H. Tu, 川崎カオル, 菅原詩織, 美久月瑠宇, 篠原優貴子, 三浦杏奈, 梅崎陽二郎, 渡邊素子, 吉川達也, 竹之下美穂, 長嶺敬彦, 豊福明. 歯科心身症患者に対する三環系抗うつ薬使用の QTc 延長への影響. 第 32 回日本歯科心身医学会総会・学術大会, 日本歯科大学 千代田区 東京, 20170708
13. 川崎カオル, 菅原詩織, Trang T. H. Tu, 須賀隆行, 美久月瑠宇, 篠原優貴子, 三浦杏奈, 渡邊毅, 吉川達也, 竹之下美穂, 豊福明. インプラント治療後の不定愁訴に対して、入院治療が奏功した1例. 第 32 回日本歯科心身医学会総会・学術大会, 日本歯科大学 千代田区 東京, 20170708
14. (\*10)(\*32)須賀隆行, 渡邊毅, Trang T. H. Tu, 川崎カオル, 菅原詩織, 美久月瑠宇, 篠原優貴子, 三浦杏奈, 梅崎陽二郎, 渡邊素子, 吉川達也, 竹之下美穂, 豊福明. 2016 年度当科初診患者の臨床統計的検討, 第 32 回日本歯科心身医学会総会・学術大会, 日本歯科大学 千代田区 東京, 20170708
15. 松岡紘史, 宇都宮雅史, 吉田光希, 竹之下美穂, 豊福 明, 千葉逸朗, 安彦善裕. 舌痛症患者の症状改善の評価に不確かさ不耐性が及ぼす影響: 横断研究による検討. 第 32 回日本歯科心身医学会総会・学術大会, 日本歯科大学 千代田区 東京, 20170708
16. (\*34)菅原詩織, 美久月瑠宇, 片桐綾乃, 豊福明. ジクアホソルナトリウム点眼によるドライアイ誘発性の眼痛に対する疼痛抑制効果. 第 32 回日本歯科心身医学会総会・学術大会, 日本歯科大学 千代田区 東京, 20170708
17. 三浦杏奈, 篠原優貴子, 美久月瑠宇, 川崎カオル, 菅原詩織, Tu Thi Guyen Trang, 須賀隆行, 渡邊毅, 渡邊素子, 梅崎陽二郎, 吉川達也, 竹之下美穂, 豊福明. 非定型歯痛と精神疾患の併存について. 第 32 回日本歯科心身医学会総会・学術大会, 日本歯科大学 千代田区 東京, 20170708
18. 梅崎陽二郎, 篠原優貴子, 三浦杏奈, 美久月瑠宇, 川崎カオル, 菅原詩織, Tu Thi Hyen Trang, 須賀隆行, 渡邊毅, 吉川達也, 竹之下美穂, 内藤徹, 豊福 明. 口腔セネストパチーの治療経過中にレビー小体型認知症が顕在化した 2 例. 第 32 回日本歯科心身医学会総会・学術大会, 日

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- 本歯科大学 千代田区 東京, 20170708
19. 川崎カオル, 豊福明. 唾液減少は舌痛症の薬物反応性と関連するか? 第 27 回日本口腔内科学会・第 30 回日本口腔診断学会合同学術大会, 北海道大学学術交流会館, 札幌市, 北海道, 20170909
  20. 松岡紘史, 宇都宮雅史, 吉田光希, 竹之下美穂, 豊福明, 千葉逸朗, 安彦善裕. 舌痛症患者の症状改善の評価に不確実さ不耐性が及ぼす影響: 自己評価と他者評価による比較. 第 27 回日本口腔内科学会・第 30 回日本口腔診断学会合同学術大会, 北海道大学学術交流会館, 札幌市, 北海道, 20170909
  21. (\*10) Miura A., Shinohara Y., Mikuzuki L., Kawasaki K., Sugawara S., Trang T.H. TU, Suga T., Watanabe T., Takenoshita M., Toyofuku A. Psychiatric Comorbidities in Atypical Odontalgia. 24th World congress on psychosomatic medicine, China National Convention Center, Beijing, China, 20170915
  22. (\*10) Trang T.H. TU, Kawasaki K., Sugawara S., Watanabe T., Suga T., Mikuzuki L., Shinohara Y., Miura A., Takenoshita M., Toyofuku A. Atypical odontalgia with comorbid burning mouth syndrome: a 4-year retrospective study. 24th World congress on psychosomatic medicine, China National Convention Center, Beijing, China, 20170915
  23. Kawasaki K., Trang T.H. TU, Sugawara S., Toyofuku A. Is salivary volume reduction related to drug reactivity of burning mouth syndrome? 24th World congress on psychosomatic medicine, China National Convention Center, Beijing, China, 20170915
  24. (\*11) Watanabe T., Suga T., Trang T.H. TU, Kawasaki K., Sugawara S., Mikuzuki L., Shinohara Y., Miura A., Takenoshita M., Toyofuku A. Amitriptyline doesn't induce QTc prolongation in the treatment of oral chronic pain. 24th World congress on psychosomatic medicine, 20170915, China National Convention Center, Beijing, China
  25. (\*11) Suga T., Watanabe T., Trang T.H. TU, Kawasaki K., Sugawara S., Mikuzuki L., Shinohara Y., Miura A., Takenoshita M., Toyofuku A. A high discrepancy of neurovascular compression on symptomatic and asymptomatic side in atypical odontalgia patients. 24th World congress on psychosomatic medicine, China National Convention Center, Beijing, China, 20170915
  26. Takenoshita M., Miura A., Shinohara Y., Mikuzuki R., Kawasaki K., Sugawara S., Trang T.H. TU, Suga T., Watanabe T., Matsuoka H., Abiko Y., Toyofuku A. Clinical study on pain catastrophizing of patients with burning mouth syndrome and atypical odontalgia. 24th World congress on psychosomatic medicine, China National Convention Center, Beijing, China, 20170915
  27. (\*11)川崎カオル, 美久月瑠宇, 篠原優貴子, 吉川達也, 豊福明. 唾液減少は舌痛症の薬物反応性と関連するか? 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都国際会議場, 京都府, 2017.10.21
  28. 須賀隆行, 菅原詩織, 三浦杏奈, 竹之下美穂, 豊福明. 低用量 amitriptyline が高齢女性の舌痛症に奏功した1例. 第 129 回日本心身医学会関東地方会, 東京大学弥生講堂一条ホール, 文京区, 東京, 2018.2.3
  29. (\*10)(\*32)美久月 瑠宇, 三浦 杏奈, 渡邊 素子, 豊福明. 2014 年度当科初診患者に関する臨床統計的検討. 第 127 回日本心身医学会関東地方会, 東京都 東邦大学医療センター大森病院 5 号館, 2016.02.13
  30. 豊福明. その痛み、本当に心因性ですか?. 第 20 回口腔顔面神経機能学会学術大会, 東京医科歯科大学, 2016.03.05
  31. 渡邊素子, 美久月瑠宇, 梅崎陽二郎, 竹之下美穂, 豊福明. 舌痛症患者に置ける治療反応性と予後に関する因子. 第 70 回日本口腔科学会学術集会, 2016.04.17
  32. 竹之下美穂, 美久月瑠宇, 梅崎陽二郎, 豊福明. アミトリプチリンとアリピプラゾールの増強療法が奏功した舌痛症の 2 例. 第 70 回日本口腔科学会学術集会, 福岡国際会議場, 福岡市, 2016.04.17
  33. (\*10)梅崎陽二郎, 美久月瑠宇, 渡邊素子, 竹之下美穂, 豊福明. 当科外来における口腔内セネストパチー患者 606 例の臨床統計的検討. 第 70 回日本口腔科学会学術集会 2016.04.17
  34. 豊福明. 原因不明の歯の痛みで困ったら. 九州大学歯学部同窓会主催平成 28 年度春期学術

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

講演会 2016.04.24

35. 三浦杏奈, 美久月瑠宇, 渡邊素子, 梅崎陽二郎, 竹之下美穂, 豊福 明. 非定型歯痛と精神科疾患の併存について. 第 57 回日本心身医学会総会, 仙台国際センター, 2016.06.04
36. (\*10) 渡邊素子, 三浦杏奈, 美久月瑠宇, 梅崎陽二郎, 豊福明. 舌痛症患者における臨床的特徴と治療反応性. 第 57 回日本心身医学会総会, 仙台国際センター, 2016.06.04
37. (\*10) 梅崎陽二郎, 三浦杏奈, 美久月瑠宇, 渡邊素子, 竹之下美穂, 豊福明. 当科外来における口腔内セネストパチー 606 例の臨床的検討. 第 57 回日本心身医学会総会, 仙台国際センター, 2016.06.04
38. (\*30) Toriihara A., Nakamura S., Toyofuku A., Tateishi U. Usefulness of Molecular Imaging for Patients with Dental Diseases. SNMMI annual meeting, San Diego, California, USA, 2016.06.13
39. 豊福 明. 顎変形症と心の病. 第 26 回日本顎変形症学会, 東京医科歯科大学歯学部特別講堂, 2016.06.26
40. 渡邊素子, 三浦杏奈, 篠原優貴子, 美久月瑠宇, Tu Thi Huyen Trang, 梅崎陽二郎, 吉川達也, 竹之下美穂, 豊福 明. 舌痛症におけるアミトリプチリンとアリピプラゾールとの併用療法の治療反応性と予後予測因子. 第 31 回日本歯科心身医学会学術大会・総会, 岩手医科大学 60 周年記念会館, 2016.07.23
41. 竹之下美穂, 三浦杏奈, 篠原優貴子, 美久月瑠宇, 川崎力オル, 菅原詩織, Tu Thi Huyen Trang, 久良木建, 梅崎陽二郎, 渡邊素子, 片桐綾乃, 佐藤佑介, 吉川達也, 松岡紘史, 安彦善裕, 豊福 明. 当科における舌痛症と非定型歯痛患者の破局的思考に関する予備調査. 第 31 回日本歯科心身医学会学術大会・総会, 岩手医科大学 60 周年記念会館, 2016.07.23
42. 川崎力オル, 菅原詩織, Tu Thi Huyen Trang, 美久月瑠宇, 篠原優貴子, 三浦杏奈, 渡邊素子, 梅崎陽二郎, 久良木建, 竹之下美穂, 吉川達也, 豊福明. 2015 年度当科初診患者に関する臨床統計的検討. 第 31 回日本歯科心身医学会学術大会・総会, 岩手医科大学 60 周年記念会館, 2016.07.24
43. 三浦杏奈, 篠原優貴子, 菅原詩織, 川崎力オル, Tu Thi Huyen Trang, 渡邊素子, 梅崎陽二郎, 久良木建, 吉川達也, 竹之下美穂, 豊福明. 非定型歯痛と精神科疾患の併存について. 第 31 回日本歯科心身医学会学術大会・総会, 岩手医科大学 60 周年記念会館, 2016.07.24
44. 篠原優貴子, 菅原詩織, 川崎力オル, 美久月瑠宇, 三浦杏奈, 渡邊素子, 梅崎陽二郎, 吉川達也, 竹之下美穂, 豊福 明. 慢性疼痛を有する地図状舌にスルピリトが有効であった 1 例. 第 31 回日本歯科心身医学会学術大会・総会, 岩手医科大学 60 周年記念会館, 2016.07.24
45. (\*10) Umezaki Y., Miura A., Shinohara Y., Mikuzuki L., Sugawara S., Kawasaki K., Kyuragi T., Watanabe M., Takenoshita M., Toyofuku A. Clinicostatistical Study on the Patients with Oral Cenesthopathy. 17th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine (ACPM), Fukuoka, Japan, 2016.08.21
46. Takenoshita M., Miura A., Shinohara Y., Mikuzuki L., Kawasaki K., Sugawara S., Trang THI HUYEN YU, Kyuragi T., Umezaki Y., Watanabe M., Katagiri A., Yoshioka T., Toyofuku A. Two Cases of Atypical Odontalgia Successfully Treated by Adding Low-Dose of Aripiprazole to Mirtazapine. 17th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine (ACPM), Fukuoka, Japan, 2016.08.21
47. Watanabe M., Miura A., Shinohara Y., Mikuzuki L., Umezaki Y., Kyuragi T., Yoshikawa T., Takenoshita M., Toyofuku A. Psychopharmacological Outcomes and Its Predictors for Burning Mouth Syndrome: 2 Years Follow Up Study. 17th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine (ACPM), Fukuoka, Japan, 2016.08.21
48. Miura A., Shinohara Y., Mikuzuki L., Sugawara S., Kawasaki K., Tu Thi Huyen Trang, Umezaki Y., Takenoshita M., Toyofuku A. Psychiatric Comorbidities in Patients with Persistent Dento-Alveolar Pain Disorder (Atypical Odontalgia). 17th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine (ACPM), Fukuoka, Japan, 2016.08.21
49. 豊福 明. "Psychosomatic Oral Medicine"としての歯科心身医学の模索. 第 26 回日本口腔内科学会・第 29 回日本口腔診断学会合同学術集会, 岡山市さん太ホール, 2016.09.23
50. 豊福 明. Chronic Oral Pain に対する抗うつ薬の使い方. 第 21 回日本口腔顔面痛学会学術大

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

会, 神奈川県歯科医師会館ホール, 2016.09.25

51. (\*34)美久月瑠宇, 片桐綾乃, 豊福 明, 岩田幸一. 舌神経損傷後痛に対する三叉神経節 CGRP 陽性細胞表 現型変化と神経-グリア機能連関の関与. 第 21 回日本口腔顔面痛学会, 神奈川県歯科医師会館, 横浜, 2016.09.25
52. (\*10)梅崎陽二郎, 三浦杏奈, 篠原優貴子, 美久月瑠宇, 川崎カオル, 菅原詩織, 渡邊素子, 竹之下美穂, 豊福 明. 当科外来における口腔内セネストパチーの臨床統計的検討. 第 23 回日本歯科医学会総会, 福岡国際会議場, 福岡市, 2016.10.22
53. 美久月瑠宇, 梅崎陽二郎, 渡邊素子, 豊福 明. 歯学部附属病院における入院治療を要した非定型歯痛の 1 例. 第 23 回日本歯科医学会総会, 福岡国際会議場, 福岡市, 2016.10.22
54. 渡邊素子, 三浦杏奈, 篠原優貴子, 美久月瑠宇, 久良木建, 梅崎陽二郎, 吉川達也, 豊福 明. 舌痛症患者 における amitriptyline の治療反応性と予後予測因子. 第 23 回日本歯科医学会総会, 福岡国際会議場, 福岡市, 2016.10.22
55. 松岡紘史, 安彦善裕, 豊福 明, 森谷満, 坂野雄二, 千葉逸朗, 齋藤一郎. 歯科医学教育改善に向けた歯科医師のうつ病知識に関する調査. 第 23 回日本歯科医学会総会, 福岡国際会議場, 福岡市, 2016.10.22
56. 豊福 明. 咬合関連の不定愁訴をどう診るか. 第 518 回九州心身医学研究会, 福岡県歯科医師会館, 2016.10.29
57. (\*10)(\*32)川崎カオル, 美久月瑠宇, 篠原優貴子, 吉川達也, 豊福 明. 2015 年度当科初診患者に関する臨床統計的検討. 第 61 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 幕張メッセ 千葉, 2016.11.26
58. 竹之下美穂, 豊福 明. 当科における舌痛症と非定型歯痛患者の破局的思考 (paincatastrophizing) に関する予備調査. 第 9 回日本運動器疼痛学会, 御茶の水ソラシティカンファレンスセンター, 2016.11.27
59. 豊福 明. 病変の見つからない口腔症状をどうするか?. 第 202 回日本口腔外科学会関東支部集会 臨床医リフレッシュセミナー, 千代田放送会館 東京, 2016.12.10
60. 豊福明. 中枢から見た歯科医学一歯科心身症の臨床と研究一. 神奈川県歯科大学学会平成 28 年度第 5 回研究懇話会, 神奈川県歯科大学, 横須賀市, 2016.12.22
61. 小野卓史, 豊福明, 秀島雅之, 古屋純一. 最先端口腔科学研究推進プロジェクトキックオフシンポジウム「働き(口腔機能)」. 第 81 回口腔病学会学術大会 東京医科歯科大学歯学部特別講堂
62. 鈴木スピカ, 渡邊素子, 三浦杏奈, 梅崎陽二郎, 竹之下美穂, 豊福明. 舌痛症の抗うつや口量に置ける口腔 乾燥感と唾液分泌量の経時的変化. 第 126 回日本心身医学会関東地方会, 東邦大学医療センター 大森病院, 2015.02.21
63. (\*30)渡邊素子, 三浦杏奈, 竹之下美穂, 豊福 明. Phantom bite syndrome の脳血流量における左右比対称性に関する検討. 第 126 回日本心身医学会関東地方会, 東邦大学医療センター大森病院, 2015.02.21
64. 渡邊 素子, 竹之下美穂, 豊福 明. Phantom Bite Syndrome(PBS) における予後の予測因子について. 第 69 回日本口腔科学会総会, 大阪国際会議場, 2015.05.14
65. 豊福 明. 歯科医師のためのこころの見方. 九州心身医学研究会, 福岡県歯科医師会館, 2015.05.23
66. Shitano C., Takenoshita M., Ono T., Toyofuku A. FEATURES OF ORAL PSYCHOSOMATIC DISORDER IN ORTHODONTIC PATIENTS. 91th Congress of European Orthodontic Society, Venice/Italy, 2015.06.18
67. 豊福 明. 口腔心身症への対処法. 第 25 回ドライマウス研究会 2015.06.21
68. (\*30)渡邊素子, 三浦杏奈, 竹之下美穂, 豊福 明. Phantom bite Syndrome の脳血流 SPECT における左右非対称性について. 第 56 回日本心身医学会総会, タワーホール船堀 東京, 2015.06.26
69. 三浦杏奈, 渡邊素子, 竹之下美穂, 豊福 明. 非定型歯痛患者への amitriptyline の反応性について. 第 56 回日本心身医学会総会, タワーホール船堀 東京, 2015.06.26
70. 松岡紘文, 安彦善裕, 豊福 明, 坂野雄二, 千葉逸朗, 齋藤一郎. うつ病診断基準に関する歯科医師の知識. 第 56 回日本心身医学会総会, タワーホール船堀 東京, 2015.06.27

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

71. 豊福 明. 検査で異常がない口臭をどうするか?. 第 6 回日本口臭学会学術大会, 2015.07.04,
72. (\*34)片桐綾乃, 豊福 明. 三叉神経脊髄路核尾側亜核および上部頸髄に分布する視床投射ニューロンにおける Extracellular Signal-regulated Kinase のリン酸化. 第 30 回日本歯科心身医学会総会・学術集会, 東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂, 2015.07.18
73. 久良木 建, 三浦杏奈, 篠原優貴子, 北村智久, 美久月瑠宇, 岩脇清一, 梅崎陽二郎, 渡邊素子, 吉川達也, 豊福 明. neurovascular compression を有し、三叉神経痛様症状を伴う非定型顔面痛に対し amitriptyline の投与が著効した1例. 第 30 回日本歯科心身医学会総会・学術集会, 東京医科歯科大学 鈴木章 夫記念講堂, 2015.07.18
74. 美久月瑠宇, 梅崎陽二郎, 三浦杏奈, 篠原優貴子, 渡邊素子, 久良木建, 岩脇清一, 北村智久, 吉川達也, 豊福明. 入院治療を要した非定型歯痛の1例. 第 30 回日本歯科心身医学会総会・学術集会, 東京 医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂, 2015.07.18
75. 渡邊素子, 三浦杏奈, 篠原優貴子, 美久月瑠宇, 北村智久, 岩脇清一, 久良木建, 梅崎陽二郎, 吉川達也, 豊福 明. 入院治療が奏功した舌痛症の 1 例. 第 30 回, 東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂, 2015.07.18
76. 三浦杏奈, 美久月瑠宇, 北村智久, 岩脇清一, 篠原優貴子, 渡邊素子, 梅崎陽二郎, 久良木建, 吉川達也, 豊福 明. 非定型歯痛患者への amitriptyline の反応性について. 第 30 回日本歯科心身医学会総会・学術集会, 東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂, 2015.07.18
77. 舌野知佐, 三浦杏奈, 美久月瑠宇, 篠原優貴子, 梅崎陽二郎, 北村智久, 久良木建, 渡邊素子, 吉川達也, 豊福 明. 歯科矯正治療と関連した歯科心身症患者の特徴. 第 30 回日本歯科心身医学会総会・学術集会, 東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂, 2015.07.18
78. (\*10)梅崎陽二郎, 三浦杏奈, 篠原優貴子, 美久月瑠宇, 北村智久, 渡邊素子, 久良木建, 岩脇清一, 吉川達也, 豊福 明. 当科外来における口腔内セネストパチーの臨床統計的検討. 第 30 回日本歯科心身医学会総会・学術 集会, 東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂, 2015.07.18
79. (\*10)北村智久, 美久月瑠宇, 岩脇清一, 篠原優貴子, 三浦杏奈, 渡邊素子, 梅崎陽二郎, 久良木建, 吉川達也, 豊福 明. 当科における舌痛症の臨床的統計. 第 30 回日本歯科心身医学会総会・学術集会, 東京医 科歯科大学 鈴木章夫記念講堂, 2015.07.18
80. (\*30) Watanabe M., Umezaki Y., Miura A., Shinohara Y., Yoshikawa T., Takenoshita M., Toriihara A., Uezato A., Nishikawa T., Motomura H., Toyofuku A. Comparison of cerebral blood flow in oral somatic delusion in patients with and without a history of depression. 23rd World Congress on Psychosomatic Medicine, 2015.08.21
81. Miura A., Watanabe M., Shinohara Y., Yoshikawa T., Takenoshita M., Toyofuku A. Effectiveness of amitriptyline in atypical odontalgia. 23rd World Congress on Psychosomatic Medicine, Glasgow, 2015.08.21
82. 豊福 明. 歯科領域の心身医療. 第 7 回耳鼻咽喉科心身医学研究会, 東京 慶応義塾大学, 2015.09.26
83. 豊福 明. 咬合関連の不定愁訴をどう診るか?. 平成 27 年度日本補綴歯科学会東海支部総会・学術大会 生涯学習公開セミナー, 松本市中央公民館, 2015.10.11
84. (\*34)Katagiri A., Saito H., Ohara K., Shinoda M., Toyofuku A., and Iwata K. : Satellite glial cell activation via extracellular signal-regulated kinase phosphorylation, associated with phenotypic change in trigeminal ganglion neurons, is involved in lingual neuropathic pain. SfN 2015, McCormick Place, Chicago, 2015.10.17
85. 北村智久, 篠原優貴子, 美久月瑠宇, 吉川達也, 依田哲也, 豊福 明. 舌痛症と口腔乾燥症の臨床的検討. 第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋国際会議場, 2015.10.18
86. 篠原優貴子, 美久月瑠宇, 北村智久, 吉川達也, 安彦善裕 豊福 明. 接触痛を有する地図状舌にスルピリドが有効であった 2 症例. 第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋国際会議場, 2015.10.18
87. 美久月瑠宇, 篠原優貴子, 吉川達也, 豊福 明. 入院治療を要した歯科心身症の 2 例. 第 60 回日本口腔外 科学会総会・学術大会, 2015.10.18
88. 豊福 明. 超高齢化社会における心と身体と歯科医学. 第 18 回抗加齢歯科医学研究会,

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

2015.11.29

89. (\*10)梅崎陽二郎, 豊福 明. 当科外来における口腔内セネストパチー606例の臨床統計的検討. 第80回口腔病学会記念学術大会, 東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂, 2015.12.26

#### <研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等  
ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。

#### <既に実施しているもの>

##### 研究成果報告会

- 平成28年3月12日(土) (於:鶴見大学 2号館3階 第10講堂)  
分担研究者14名による平成27年度成果報告  
特別講演:「環境因子を基盤とした自己免疫疾患の病態解明」  
徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔分子病態学講座 教授 石丸 直澄
- 平成28年11月5日(土) (於:鶴見大学 2号館3階 第10講堂)  
分担研究者14名による平成28年度成果報告  
特別講演:「長生きを享受するための口腔の重要性」  
国立研究開発法人国立長寿医療研究センター口腔疾患研究部 部長 松下 健二
- 平成29年10月7日(土) (於:鶴見大学 2号館3階 第10講堂)  
分担研究者14名による平成29年度成果報告  
特別講演:「ドラッグリポジショニング応用した臓器再生医療へのアプローチ」  
An Approach to Organ Regeneration using Drug-repurposing」  
大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学教室 教授 阪井 丘芳

#### <これから実施する予定のもの>

平成30年度研究成果報告会(平成30年度内 開催予定)

平成31年度研究成果報告会(平成31年度内 開催予定)

#### 14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付してください。

##### 小川匠

- 小川匠, 木原琢也:次世代 CAD/CAM システムの構築に向けて - 咬合の可視化から咬合設計 - 第3回 CAD/CAM 技術による補綴装置の製作. デンタルエコー Vol190 46-59. 2017
- (\*17)小川匠, 重本修伺:次世代 CAD/CAM システムの構築に向けて - 咬合の可視化から咬合設計 - 第2回デジタル技術を用いた咬合治療. デンタルエコー Vol189 12-27. 2017
- 小川匠, 井川知子:次世代 CAD/CAM システムの構築に向けて - 咬合の可視化から咬合設計 - 第1回診査・診断, 咬合治療から補綴治療へ. デンタルエコー Vol188 2-11. 2017
- 小川 匠:デジタルデンティストリーの潮流と展望. 補綴臨床 49巻1号:8-19.2016
- 小川 匠, 井川 知子:3D プリンターによる歯科産業革命.8020: はち・まる・にい・まる 14号: 64-67. 2015.1

##### 下田信治

- 下田信治・千葉敏江:知覚過敏抑制材料「ティースメイト® AP ペースト」「ティースメイト® ディセンタイザー」は、なぜ効くのか, 日本歯科評論, No.855 Vol.76(7)107-112, 2016

##### 奥村敏

##### [特許]

- アデニル酸シクラーゼの活性調節剤. 発明者(横浜市立大学:石川義弘、奥村 敏;横浜国立大学:星野雄二郎、井上誠一)2015年8月4日 米国特許登録:9,096,632
- アデニル酸シクラーゼの活性調節剤. 発明者(横浜市立大学:石川義弘、奥村 敏;横浜国立大学:星野雄二郎、井上誠一)2015年12月11日 国内特許登録:9,096,632
- アデニル酸シクラーゼの活性調節剤. 発明者(横浜市立大学:石川義弘、奥村 敏;横浜国立大

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

学:星野雄二郎、井上誠一)2015年12月8日 欧州特許登録:11836112.0

花田信弘

1. 若井 建志, 内藤 真理子, 川村 孝, 内藤 徹, 小島 正彰, 梅村 長生, 横田 誠, 花田信弘、歯科医師を対象とした歯と全身の健康、栄養との関連に関する研究 歯磨き回数、喪失歯数と口腔・咽頭・食道がんリスクとの関連、8020: はち・まる・にい・まる(2188-9082)16号,118-119、8020推進財団、2017年1月。
2. 深井稜博、宮崎秀夫、大渡凡人、喜久田利弘、佐藤博信、弘地尚子、西原達次、吉野賢一、品川隆、花田信弘、保健・医療・介護・福祉をつなぐための歯科からの提言～2025年問題に対する歯科界の挑戦～、ザ・クインテッセンス 35:84-94, 2016.
3. 萩原芳幸・武内博朗・花田信弘, インプラント治療で生活習慣病を予防する～咀嚼機能回復後の食習慣改善と栄養指導が導く健康寿命の延伸～インプラント YEARBOOK 2016、クインテッセンス出版、東京、2016年4月。

### 15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

全学的な取組であることから、各テーマ間の協働性に留意しつつ、研究の方向性を定めてほしい。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

本研究プロジェクトには歯科医学に従事する研究室からの総勢28人を超えるメンバーにより構成される研究組織であることから、各テーマ間の協働性を強化するために分担者同士の研究成果報告会を頻回開催し情報交換や試料ならびに技術の提供等の連携を密に行っている。それぞれの研究テーマの専門領域は異なるものの口腔領域の機能や病態という統一したテーマで研究を推進していることから研究の方向性を定めるための対応は欠かさず行っており、総花的な研究にならないような実践を心掛けている。

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

## 16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 記						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他( )	
平成二七年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	9,007	3,007	6,000				
	研究費	14,501	7,626	6,875				私学助成は経常費補助金特別補助を指す
平成二八年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	17,177	10,072	7,105				私学助成は経常費補助金特別補助を指す
平成二九年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	15,147	8,777	6,370				私学助成は経常費補助金特別補助を指す(見込額)
	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	9,007	3,007	6,000	0	0	0	0
	研究費	46,825	26,475	20,350	0	0	0	0
総計	55,832	29,482	26,350	0	0	0	0	

## 17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
2号館		318m <sup>2</sup>	8	16	-	0	
動物舎(2号館)		36m <sup>2</sup>	2	4	-	0	
3号館ハイテクリサーチセンター		304m <sup>2</sup>	2	8	-	0	

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m<sup>2</sup>

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)	27年度	Amersham Imager GEヘルスケア600RGBシステム	1	241.16	9,007	6,000	私学助成
タンパク質画像解析システム		ImageQuant TL PCセット Laptop		h			
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			

## 18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 27 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	9,746	本研究に必要な試薬、物品費	9,746
光熱水費			
通信運搬費			
印刷製本費	58	研究成果報告会抄録印刷	58
旅費交通費			
報酬・委託料	514	報告会開催のためのプログラム、分析外注	514
(支払修繕費)	108	ビペットマン修理	108
計	10,426		
アルバイト関係支出			
人件費支出 (兼務職員)	2,054	臨時職員	2,054
			月額、1日8時間×週4日 実人数 1人
教育研究経費支出			
計	2,054		
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	1,940	ラボ用オートクレーブ	486
		マイクロ冷却遠心機	588
		Z440 パソコンEIZO 24.1TFTモニター	613
		27インチMac Retina 6Kディスプレイモデル	253
図書	81		
計	2,021		
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		

年度	平成 28 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	9,745	本研究に必要な試薬、物品費	9,745
光熱水費			
通信運搬費			
印刷製本費	58	研究成果報告会抄録印刷	58
旅費交通費			
報酬・委託料	1,671	専門的知識の供与、分析外注	1,671

		法人番号	141007
		プロジェクト番号	S1511018
( )			
計	11,474		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	4,321	臨時職員	4,321 月額、1日8時間×週4日/月額、1日8時間×週3日 実人数 2人
教育研究経費支出			
計	4,321		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	1,382	GPSタイムコードジェネレータ	483
		CO2インキュベーター	462
		DP71操作用PC	437
図 書			
計	1,382		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		

年 度	平成 29 年度		
小 科 目	積 算 内 訳		
	主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	8,555	本研究に必要となる試薬、物品費	8,555
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費	1	報告会等印刷物発送	1
印 刷 製 本 費	58	研究成果報告会抄録印刷	58
旅 費 交 通 費			
報 酬 ・ 委 託 料	1,081	専門的知識の供与、分析外注	1,081
( )			
計	9,695		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	3,518	臨時職員	3,518 月額、1日8時間×週4日(4月～9月) 月額、1日8時間×週3日(4月～9月) 月額、1日8時間×週4日(10月～3月) 実人数 2人(10月より1人)
教育研究経費支出			
計	3,518		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	1,934	リトラトーム一式	1,934
図 書			
計	1,934		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		